

国立国語研究所学術情報リポジトリ

Zenkoku Hougendanwa Database [Japanese Dialect Database] : Volume 19 Nagasaki, Kumamoto and Miyazaki

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Institute for Japanese Language メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002259

全国方言談話データベース

日本のふるさとことば集成

第19巻 佐賀・長崎・熊本

国立国語研究所資料集 13-19

国立国語研究所
2008

国書刊行会

刊行のことば

昭和52年度から昭和60年度にかけて、「各地方言収集緊急調査」という全国規模での方言談話の収録事業が、文化庁によって実施されました。調査は、各都道府県教育委員会と連携のうえ、各地の方言研究者が全面的に協力して行われました。国立国語研究所は、文化庁の要請により、この調査の計画段階から、指導・助言などにかかわっていました。その後、時を経て、この調査によって収録された膨大な録音テープと文字化原稿は、文化庁から国立国語研究所に移管されました。

これらの資料は、方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに、急速に失われつつある各地の伝統的方言を、文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものです。そこで、国立国語研究所では、受け継いだ資料を有効に利用するために、方言談話の大規模なデータベースを作成し、公開するという計画を開始しました。平成8～12年度には「方言録音文字化資料に関する研究」で、平成13～17年度には「日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成」により、平成18年度からは、「日本語に関する蓄積資料の整備」プロジェクトの一環として、全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んできました。また、データベース化にあたっては、平成9～18年度に科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けました。従来にはあまりなかった、音声と文字化の電子化データを備えていますので、研究や教育に活用いただけることと思います。なお、本資料集の作成については、情報資料部門資料整備グループの井上文子が担当しました。

「各地方言収集緊急調査」の録音・文字化にあたっては、全国の研究者の方々が無償に御尽力くださいました。話者として、多くのみなさまから御協力を得ました。また、各都道府県教育委員会の関係者、および、有志の御助力がありました。刊行にあたって、記して深く感謝の意を表します。

平成20年3月

独立行政法人
国立国語研究所長 杉戸 清樹

利用にあたって

1. 内容

この書籍（冊子，CD-ROM，CD）には，以下のものを収録しています。

	冊子	CD-ROM	CD
刊行のことば	○	○	
利用にあたって	○	○	
目次	○	○	

佐賀県佐賀市 1978

地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	
【昔と今】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳 pdf+方言音声 wave（ページ単位）		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text（談話全体）		○	
共通語訳 text（談話全体）		○	
方言音声（談話全体）			○
注記	○	○	

長崎県平戸市 1983

地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	

【商いの話, 御潮斎, 子どものしつけ, 世の移り変わり】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳 pdf+方言音声 wave (ページ単位)		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text (談話全体)		○	
共通語訳 text (談話全体)		○	
方言音声 (談話全体)			○
注記	○	○	

熊本県球磨郡錦町 1980

地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	
【湯前線開通当時の思い出, お嶽さん参り, 麻作り】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳 pdf+方言音声 wave (ページ単位)		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text (談話全体)		○	
共通語訳 text (談話全体)		○	
方言音声 (談話全体)			○
注記	○	○	

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について	○		
「各地方言収集緊急調査」地点一覧	○		
「各地方言収集緊急調査」地点地図	○		
各地方言収集緊急調査補助全体計画	○		
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項	○		

各地方言収集緊急調査実施要領	○		
各地方言収集緊急調査の実施について	○		
調査実施上の留意事項について	○		
「全国方言談話データベース」について	○		

Adobe Acrobat Reader		○	
----------------------	--	---	--

音声データ仕様：サンプリング周波数22.050kHz，量子化ビット数16bit，
waveファイル，ステレオ

CD-ROMは，CDプレイヤーで再生しないでください。CDプレイヤーが壊れることがあります。

本データベース編集にあたっては，個人のプライバシー等に配慮しました。

談話データの中には，現在では，その使用が好ましくないとされるような表現が含まれている場合もあり得ますが，学術的・歴史的資料の保存という観点から，そのまま収録しました。この点に御配慮のうえ，お使いください。

2. 著作権

この冊子，CD-ROM，CDに収録されているデータの著作権は，国立国語研究所にあります。

3. 利用条件

利用にあたっては，以下の利用条件をすべて守ってください。

- (1) 国立国語研究所の著作権を侵害するような行為はしないでください。
- (2) この冊子，CD-ROM，CDに収録されているデータは，どのような目的においても，また，どのような媒体（紙，電子メディア，インターネットを含む）によっても，他人に再配布しないでください。
- (3) この冊子，CD-ROM，CDに収録されているデータは，非営利の教育・研究目的に限り，自由に利用できます。ただし，上記(2)は守ってください。

(4) この冊子，CD-ROM，CDに収録されているデータを利用した成果物を公表する場合は，

「国立国語研究所が作成した『全国方言談話データベース』を利用した。」
などのように，明記してください。

あわせて，成果物を国立国語研究所に御寄贈いただければさいわいです。

(5) 以上の利用条件に合致しない場合，あるいは，利用について不明な点がある場合は，国立国語研究所にお問い合わせください。

連絡先：〒190-8561

東京都立川市緑町10-2

国立国語研究所 情報資料部門

「全国方言談話データベース」係

FAX：042-540-4339

4. 付記

データの電子化，CD-ROM，CDの作成については，平成9(1997)～18(2006)年度科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。

国立国語研究所資料集 13-19

全国方言談話データベース
日本のふるさとことば集成
第19巻 佐賀・長崎・熊本

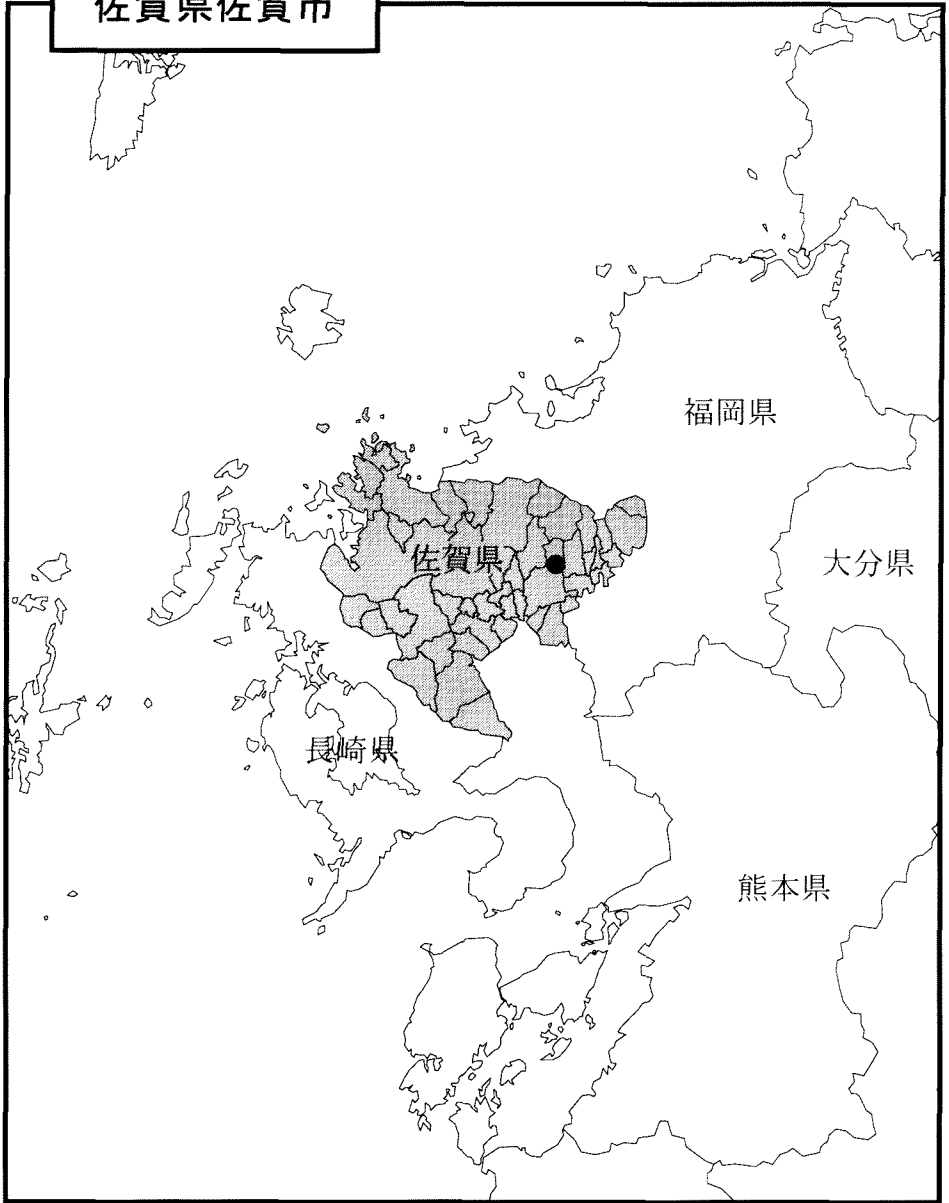
目次

刊行のことば	3
利用にあたって	5
I. 佐賀県佐賀市1978	11
地図	12
話者・担当者	13
解説	14
凡例	20
談話	25
【昔と今】	26
注記	99
II. 長崎県平戸市1983	105
地図	106
話者・担当者	107
解説	108
凡例	113
談話	118
【商いの話, 御潮斎, 子どものしつけ, 世の移り変わり】	119
注記	164

Ⅲ. 熊本県球磨郡錦町1980	169
地図	170
話者・担当者	171
解説	172
凡例	177
談話	182
【湯前線開通当時の思い出，お嶽さん参り，麻作り】	183
注記	252
作成・公開の経緯	259
「各地方言収集緊急調査」について	261
「各地方言収集緊急調査」地点一覧	265
「各地方言収集緊急調査」地点地図	270
各地方言収集緊急調査補助全体計画	271
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項	272
各地方言収集緊急調査実施要領	273
各地方言収集緊急調査の実施について	276
調査実施上の留意事項について	278
「全国方言談話データベース」について	284

I . 佐賀県佐賀市
1978

佐賀県佐賀市



佐賀県佐賀市1978話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	中尾 トラエ
	中原 ミカ
	山田 鶴太郎
収録担当者	志津田 兼三
文字化担当者	志津田 兼三
共通語訳担当者	志津田 兼三
解説担当者	志津田 兼三

(敬称略 項目別50音順)

「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤 亮一
	江川 清
	田原 広史
	井上 文子
編集協力者	高山 百合子
	鳥谷 善史
	熊谷 康雄

佐賀県佐賀市1978解説

収録地点名

き が けん さ が し く ぼ い ず み ま ち か み い ず み く さ ば
佐賀県佐賀市久保泉町上和泉草場

収録地点の概観

位置

久保泉町は、佐賀市の北東部に位置し、佐賀駅から約8 kmの距離にある。

交通

佐賀駅より伊賀屋経由でバスの便がある。

地勢

久保泉町は、筑紫平野^{つくし}の北東部、背振山地^{せぶり}から平地への出口にあたり、緩傾斜の扇状地が多く、低い台地である。目立った河川は少ないが、池や湖が多く、水源となっている。南には沖積地が広がり、その大部分は水田となっている。

行政区画

1889(明治22)年、市町村制施行によって、川久保・上和泉・下和泉が合併して佐賀郡久保泉村となり、1954(昭和29)年10月1日、佐賀市に編入された。

戸数・人口

1978(昭和53)年1月1日現在、久保泉町の世帯数1,145戸、人口4,701人。

産業

農業が主であるが、かつては竹細工や養蚕が盛んであった。山麓の台地はミカンを主とした果樹園が多く、園芸に従事する農家もある。

収録地点の方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

佐賀県の方言は肥筑方言に属するが、旧藩政時代に行政区画を異にした影響で、県内の方言は佐賀方言、唐津方言、田代方言の三つに区分される。佐賀方言は、佐賀藩が本城を置いた佐賀の方言であり、その範囲は、おおよそ有明海沿いに東から西へのびた区域である。さらに、佐賀方言は、佐賀県小城郡付近を境にして東部方言と西部方言に分けられる。唐津方言は、唐津藩の唐津を中心に、東松浦および伊万里市の一部である波多津・黒川・大川地域の方言であ

る。田代方言は対馬藩の領有する田代・基山地方の方言である。

久保泉町の方言は、佐賀方言のうち東部方言に属する。

音韻

- (1) 二重母音「アイ」は、「ヤー」と拗長音化する特徴がある。

チャー (鯛)

ヤシャー (野菜)

キャー (貝)

五段活用動詞のイ音便の場合も同様である。

キャータ (書いた)

シャータ (指した, 咲いた)

- (2) 二重母音「ウイ」は、「イー」と長音化する。

キーモン (←クイモノ) (食べ物)

チータ (ついた)

- (3) 二重母音「エイ」は長音化しない。

シェンシェイ (先生)

エイゴ (英語)

- (4) 合音由来の「オウ」「エウ」は、「ウー」または「ユー」になる。

ユージ (用事)

キュー (今日)

- (5) 「オオ」は「ウー」と発音することが多い。

ウーミズ (大水)

ウーカ (←オオカ) (多い)

- (6) 動詞・助動詞の語尾「ル」は、母音が脱落して促音化する。

タノシュンデ スッヨー (楽しんでするよ)

テンキンニ ナットンサッ (転勤になっておられる)

- (7) 語尾が「ル」である動詞・助動詞に、助動詞「ミャー」(まい), 「ナイバ」(ならば), 助詞「ナ」「ナタ」「モン」など、語頭がマ行音・ナ行音の語が続く場合、語尾「ル」は撥音化する。

フンミャー (降るまい)

スンナイバ (するならば)

- ホネ オンナー (骨折るね)
クンナタ (来るね)
ワカレトンサンモン (別れておられるもの)
- (8) 同じ母音が二つ続く場合は、母音が一つ脱落する。
ヨカンビャー (←ヨカ アンバイ) (いいあんばい)
トスマデンナター (←トスマデモナー アンタ) (鳥栖までもね)
- (9) ウ段音に破裂音が続く場合、母音「ウ」が脱落する。
ナンカ (←ナヌカ) (七日)
ヒッカ (←ヒクカ) (低い)
- (10) 「ユ」の母音「ウ」が脱落して「イ」となる。
ショーイ (醤油)
イデタマゴ (ゆで卵)
カイカ (かゆい)
- (11) 母音「オ」が脱落することがある。
ヨソンモン (よその者)
コイデン (これでも)
- (12) 「ミ」「ニ」の母音が脱落する。
カンゲ (←カミゲ) (髪の毛)
クンチ (供日)
- (13) 「セ」は「シェ」となる。
シェンシェイ (先生)
シェンゾ (先祖)
シンシェキ (親戚)
- (14) 撥音に助詞「ワ」が続く場合は連声となる。
インナー (←インワ) (犬は)
キョンネンナー (去年は)
- (15) 「リ」の子音が脱落して「イ」となる。
コモイ (子守り)
キカイバカイ (機械ばかり)

文法

- (1) 下二段活用の動詞は一段活用化することなく、下二段活用として残っている。

ウクッ (受ける)

ウクッ トキ (受ける時)

- (2) 時・場所・方向などを示す助詞「に」は、「イ」となる。前の語と融合することもある。

ヤマイ (山に)

ヤミャー (山に)

- (3) ア行下二段活用、ハ行下二段活用、ワ行下二段活用の動詞は、ヤ行下二段に活用する。

ユッ (得る)

オシユッ (教える)

ウユッ (植える)

- (4) ヤ行上一段活用の動詞も下二段に活用する。

オユッ (老いる)

ムクユッ (報いる)

- (5) 共通語の上一段活用動詞「できる」は、下二段に活用する。

コイガ デクッカイ (これができるか)

ソイデワ デケン (それではできない)

- (6) 共通語の上一段活用動詞「足りる」「借りる」「飽きる」は、五段に活用する。

タッ (足りる)

カッ (借りる)

アク (飽きる)

- (7) 可能を表す補助動詞には、「キッ」「ユッ」がある。

ホンバ ヨミキッ (本を読める)

ホンバ ヨミユッ (本を読める)

- (8) 進行継続は「ヨッ」で表し、完了は「トッ」で表す。

アメノ フイヨッ (雨が降っている) 〈進行継続〉

アメノ フットッ (雨が降っている) 〈完了〉

(9) 形容詞はカ語尾をとる。

アツカ (暑い)

ウツクシカ (美しい)

(10) カ語尾の語の中には、共通語の形容動詞にあたるものがある。

リップカ (立派だ)

オーチャクカ (横着だ)

シカツカ (乱雑だ, 不潔だ)

フユーカ (怠惰だ)

(11) 語幹に「サ」を添えて体言化して文を終止し、感動表現に用いる。

リップサー (立派だなあ)

アシノ ハヤサー (足が速いなあ)

(12) 推量, 意志, 勧誘を表す助動詞として, 「ウ」を用いる。

ケロウ (蹴るだろう, 蹴ろう)

クウ (来るだろう, 来よう)

ミュウ (見るだろう, 見よう)

(13) 打消の助動詞は「ン」であるが, 連用形は普通「ズニ」の形をとり, 「ジー」と発音される。

エジー (できないで)

(14) 断定は, 助動詞「ジャ」のほか, 文末助詞「バン」「バンタ」「ポー」「ター」「タン」「タンタ」「クサイ」「クサンタ」などを用いて表すことが多い。

ハナジャ (花だ)

ハナバンタ (花だ)

ハナクサンタ (花だ)

(15) 主格は, 「ノ」「ン」で表すのが一般である。ただし, 自称および指示代名詞が主格に立つ場合, および, 特別な強調意識のある場合は, 「ガ」が用いられる。

アメン フル (雨が降る)

コイガ ヨカ (これがいい)

(16) 対格は「バ」で表す。

ホンバ ヨム (本を読む)

(17) 方向は「サン」で表す。

トーキョーサン イク (東京に行く)

(18) 目的は「ギャー」で表す。

カイモン シギャー イク (買い物しに行く)

(19) 問いかけは、文末助詞「カイ」「カー」「キヤー」「カンタ」などで表す。

イクカイ (行くか)

イクキヤー (行くか)

イクカンタ (行くか)

(20) 目上に対する丁寧な用法の文末詞として、「ナタ」「ナンタ」「カンタ」「バンタ」「ノマイ」などがある。

ソガンナタ (そうですね)

ソガンノマイ (そうですね)

(21) 順接確定条件は「ケン」で表す。

アメン フッケン イカン (雨が降るから行かない)

(22) 逆接確定条件は「バッテン」で表す。

フツバッテン モー ハレタ (降ったけれどももう晴れた)

(23) 順接仮定条件は「ギー」で表す。

イクギー ヨカ (行くならいい)

(以上の解説は、基本的に、「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿による。)

佐賀県佐賀市1978凡例

談話資料は、方言談話音声、方言談話音声の文字化、方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには、ページ単位で切った方言談話音声を、CDには、方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化と共通語訳とは、対照ができるように、上下2段を1組として示した。上段が方言談話音声の文字化、下段がその共通語訳である。ただし、方言の語形と共通語の語形が必ずしも1対1で対応しない場合もあり、方言の語形と共通語訳とがずれている場合もある。

方言談話の共通語訳は、漢字かなまじりで表記した。

文字化については、表音的カタカナ表記を用いている。つまり、長音は「ー」で示し、助詞「は」は「ワ」、助詞「を」は「オ」、助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」はガ行鼻濁音を表す。

この文字化は、時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって、発話の重なりや、複線的な会話の進行の構造などは、文字化からは読み取れない。データを使用する際には、文字化・共通語訳を見るだけでなく、実際に、音声を聞いて判断していただきたい。

また、分かち書き、句読点などは、便宜的なもので、厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における、方言談話音声の文字化の方法は、後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし、今回、「全国方言談話データベース」として公開するにあたり、文字化・共通語訳を整備する際には、当時のマニュアルにはとられず、読みやすさ、意味の取りやすさを優先して処理をした部分がある。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中に、話し相手のあいづちや同じ単語の繰り返しなどが入る場合もある。

発話番号 〈半角〉

発話の通し番号を、各発話の話者記号の前に付した。

例：1 A

話者記号 〈全角〉

話者、調査者など、談話の場にいる人物について、A, B, C, D, E, F, ……のように、アルファベットで示した。

例：1 A

固有名詞

話者および一般の人名については、文字化・共通語訳の該当個所を、A, B, C, X1, X2, X3などのアルファベットに置き換えた。話者、調査者など、談話の場にいる人物については、A, B, C, D, E, F, ……のように示し、話題の中の第三者については、X1, X2, X3, ……のように示した。ただし、音声は、該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や、有名人の人名については、記号に置き換えることはせず、個人名を出すことにした。また、会社名、店名、製品名などについても、発言されたとおりに記している。

地名については、そのまま扱うことにした。

記号

。(句点) 〈全角〉

文字化については、ポーズがあって、意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所に句点を打った。ただし、実際の発話では、一文の終わりがわかりにくい場合もある。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス ソーデス

そうです。 そうです。

、(読点) 〈全角〉

文字化については、基本的に息をついた個所、または、ポーズのある個所に読点を打った。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、

意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また、読みやすさを優先して、取り去った場合もある。

例：シ、ヤクシヨ

市役所

? 〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケイトイテ？

預けておいて？

↓ 〈全角〉

下降イントネーションと判断した個所。

例：ヨグ ヤッタダナー↓

よく やったんだなあ。

() 〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時に同意を示したり、さえぎったり、口をはさんだりした個所。

(A ……)のように、開き括弧の次にあるアルファベットは、発言している話者を示す。()の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお、()内のあいづちと、独立した発話として扱ったあいづちに近い発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：(A アー ソーデスカ)

{ } 〈全角〉

笑い、咳、咳払い、間、などの非言語音。

例：{笑}

{咳}

{手を叩く音}

××× 〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

*** <全角>

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ*
お茶漬けの*

/// <全角>

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ モジナンデスナ、
//////// 「文字」なんですね。

[] <全角>

方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン ノセテ
みかん [を] 乗せて

= <全角>

[] 内の=は、意味の説明や、意識であることを示す。

例：イマ ユー
今 いう [=今話題にあがった]

| | <全角>

注意書きなど。

例：| Aに対して|

[] <全角>

注記。方言形の意味・用法、特徴的音声などについて説明し、文字化・共通語訳の後にまとめてある。[] 内の半角数字は、注記の番号を示す。

例：ホシツキサンのオモチ [1]

音声

CD-ROMには、冊子のページ単位で区切った方言音声のwaveファイルを収録している。冊子のページをpdfファイルにしたものに、方言音声をリンクさせていて、各ページにある再生の部分をクリックすると、そのページの音声を聞くことができる。

CDには、談話全体の音声を収録している。以下にあげるように、適当な個所で、トラックに区切っている。

CDトラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは、方言音声を収録したCDのトラック番号を示している。「佐賀01-1」はCDトラック番号が01で、その1ページ目ということである。「佐賀01-1」「佐賀01-2」……「佐賀01-7/02-1」……「佐賀11-3」のように表示される。

また、文字化・共通語訳部分には、CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分トラックの切れ目を表し、その両側の数字はトラック番号である。

↑01, 01↑02, ……10↑11, 11↑のように表示される。

第19巻のCD (66分31秒) には、佐賀県佐賀市の談話、【昔と今】の全体の音声収録している。各トラックの開始ページ・行、終了ページ・行、時間は下記のとおりである。行は、文字化の行を表示した。

トラックNo.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間：分：秒
01	p. 26・ℓ. 1	p. 32・ℓ. 3	00：02：00
02	p. 32・ℓ. 5	p. 38・ℓ. 17	00：02：01
03	p. 38・ℓ. 19	p. 46・ℓ. 5	00：02：01
04	p. 46・ℓ. 7	p. 53・ℓ. 7	00：02：01
05	p. 53・ℓ. 9	p. 60・ℓ. 17	00：02：03
06	p. 60・ℓ. 19	p. 68・ℓ. 17	00：02：02
07	p. 68・ℓ. 17	p. 75・ℓ. 19	00：02：04
08	p. 76・ℓ. 1	p. 83・ℓ. 5	00：02：00
09	p. 83・ℓ. 5	p. 90・ℓ. 1	00：02：06
10	p. 90・ℓ. 1	p. 96・ℓ. 9	00：02：01
11	p. 96・ℓ. 9	p. 98・ℓ. 15	00：00：34
計			00：20：53

佐賀県佐賀市1978談話

収録地点 さがけん さがし 久保泉町 上和泉草場
佐賀県佐賀市久保泉町上和泉草場

収録日時 1978(昭和53)年 8 月 2 日

収録場所 佐賀県佐賀市久保泉町上和泉草場 原岡秀清氏自宅

話題 昔と今

話者

A	女	1915(大正4)年生	(収録時63歳)	農業
B	女	1902(明治35)年生	(収録時76歳)	農業
C	男	1895(明治28)年生	(収録時83歳)	農業

収録時間 (CD) 20分53秒

【昔と今】

話し手

- A 女 1915(大正4)年生 (収録時63歳)
B 女 1902(明治35)年生 (収録時76歳)
C 男 1895(明治28)年生 (収録時83歳)

1 B : ムカシャー

昔は

↑01

2 A : ナンテチャ イードンシヨンナイ ソラ
なにやら [文句を]言ったりしていたら それは

3 C : モー アシェガラジ[1]ネー (B ナイ)
もう いらいらしないでね (B はい)

モ シランファイ シテ エシャク[2]シトランバナナ。
もう 知らんふり して ご機嫌をとっていなければいけない。

4 A : イマー ムカ ムカシノ オシュートサンナ ホンニ
今は ×× 昔の お姑さんは 本当に

キケトッタ[3]バツテンガ モー ハンタイダモノノ。
[にらみが]きいていたけれども もう 反対だものね。

5 B : オシュートサンテンガ コジュート オイ ハチニン[4] テ
お姑さんとか 小姑[は] 鬼 8人 と

佐賀 01-2

イイヨッタバッテンナター〔5〕。

言っていましたけれどね。

イマーヅブンワ ソガンジャナカモン。

この頃は そうではないもの。

(A ハンタイダモンノー) (C アッチャコシ〔6〕)

(A 反対なものね) (C 逆)

アッチャコシバンタ〔7〕。ホンナコテ。

逆ですよ。 本当に。

6 A : ソバッテン ソイデ チョット イマーネ、(B ウン)

そうだけど それで ちょっと 今はね、(B うん)

ソガン ナッテイキヨッケンガ

そんなに なっていつているから

7 B : ドガンシューデン ナカモン。ジダイガ ソーユーフージャッケン。

どうしようも ないもの。時代が そういうふうだから。

(A ジダイガ ソガン ナッテイタケン) フナーナコテ。

(A 時代が そんなに なっていったから) 本当に。

8 A : ソイギ ドガンジャイ ユーギ ヤッパイ ホラ

それで どうにか 言えば やっぱり ほら

ヨブ〔8〕 トキン コトバ オモワンギニャトワ {笑}

呼ぶ〔=嫁をとる〕 時の ことを 思わないことには {笑}

佐賀 01-3

(B ソギャンジャンネー) キテノ ナカローガ
(B そうだものね) [嫁に]来る人が ないだろうが

ヒャクショーニワ。 イマンゴト。(B ソギャン ホンナコトー)
百姓には。 今のように。(B そう 本当に)

ケンガ キテクイニッタ シツツァン[9]ガ ヨカ シッタート
だから 来てくださった 方が よい 方と

オモートッケンガ イクラカワ ヒカエメジャンナタ。
思っているから いくらかは 控えめですものね。

9 B : ソギャンサイ。 フーンナコッチャン。(C ソギャンター)
そうよ。 本当にそうだ。(C そうだって)

ザットナカ[10]モンナター。
簡単にはいかないですものね。

10 A : ザットナカー。 アンタ オタクヘンモ
簡単にはいかない。 あなた[の] お宅なども

ヨメクサン デンサロモン。
お嫁さん[は] [仕事に]出られるでしょう。

アンタンガタヘンモ ワカヨメクサン。
あなたの家なども 若嫁さん[は]。

11 B : アッカー ワカレトンサンモン。(A アラ)
あそこは 別れておられるもの。(A あら)

佐賀 01-4

12C : {笑} ワカレトラン。 ホンナ ワカレヤ ナカー。
{笑} 別れていない。 本当の 別居では ない。

(B アー) チョット イタトッ。

(B ああ) ちょっと [離れた所に]行っている。

13B : イタ キタイ シヨンサッ。(C ーン)
行ったり 来たり されている。(C うん)

アンターガタ イタイ キタイ シヨンサッ。
あなたの家[へは] 行ったり 来たり されている。

14C : イタイ キタイ シヨッ。
行ったり 来たり している。

カシェギ[11]ガ クッター ズット キヨッ。
働きに 来るのは ずっと 来ている。

ウン (B アー) コンドンキーモ トマットガ
うん (B ああ) この頃も 泊まるのが

ウーカゴタットコレー。(B ウーン。 ホンニャ) ーン。
多いようだよ。(B うん。 本当に) うん。

15B : アタリヤー モー イキキリ イタトンサッカ ト
私は もう 行ったきり 行っておられるのか と

オモートッタ。(C インニャー)

思っていた。(C いいや)

佐賀 01-5

16A : アー ソイギ ムスコサンワ ドコサイ テンキンニ
ああ そしたら 息子さんは どこかへ 転勤に

ナットンサッ。
なっておられる。

17C : インネー。 マダ ショテ〔12〕ノ トコレ オッ。
いいや。 まだ もとの 所に いる。

(A ンー) (B ンー ンー)
(A うん) (B うん うん)

バッテン ナーイデン シツケンゴタッバッテンガ
だけど なんでも やり慣れないようだけれども

ナーイデン ヌッヨー。(B ソーサイ モー ナーデン)
なんでも 乗るよ。(B そうよ もう なんでも)

アギャン バインダー〔13〕デン ナーイデン アツカウジャン。
あんな バインダーでも なんでも 扱うもの。

ワカイ モンワ ヒャクショージャンネ。
若い 者は [実家が]百姓だものね。

(B アー) (A アー) ダイタイ。
(B ああ) (A ああ) だいたい。

18B : ナンノ ヒャクショーデンガ ヒャクショー シェンケンネー。
なんの 百姓でも 百姓を しないからね。

佐賀 01-6

ヒャクショーノ コデンガ モー。
百姓の 子どもでも もう。

19A : ヒャクショーノ コワ ヒャクショーニ
百姓の 子は 百姓に

ヨメクサンニ イコゴトナシャスンモンジャー。
お嫁さんに 行きたがらないものだ。

(B ホンナコトー。 ウーンサイ)

(B 本当に。 うん)

20C : ムッコイデン ナイデン アガン キカイギャ
麦こぎでも なんでも あんな 機械に

ノッテ スイヨー。(B オー。 ホンニヤー)
乗って するよ。(B おお。 本当にね)

オトーサン シナイヨンナイ ダー オイガ
「おとうさん[が] されているなら どれ 私が

イタテ スッカ チュテ ユーテ。
行って するか」と 言って。

21B : アラー ホンニヤー。 イマジブンノ オナゴデンネー。
あら 本当にね。 この頃は 女でもね。

22A : イマゴラ ホンナコテ オンナノ シト
この頃は 本当に 女の 人

23B : A サンガタモ ナイデン シンサンモンネー。
Aさんの家[のお嫁さん]も なんでも されるものね。

タモ ウエンサー。

田も 植えられる。

01↑02

24A : {笑} オカゲ シーナッ。
{笑} おかげ[で] [なんでも]される。

25C : コマカ シゴトワ シェンバッテン アーユー シゴトワ
小さな 仕事は しないけれど ああいう 仕事は

イッタン[14] スッ。

かえって やる。

26A : インニャ ホンナコト。 アノ クサ ムシッタイ
いいや 本当に。 あの 草[を] むしったり

ナイシタイワ ヤッパイナンタ、 オローホンポ[15]。

なにしたりは やっぱりですね、 あんまりきちんとしていない。

27B : ウーン ワッカ モンナ ソギャンタネー。

うん 若い 者は そんなだね。

28A : ウン。 キカイシゴトナイ シートッバンター。 (B ウーン)

うん。 機械仕事だったら 好きですよ。 (B うん)

ソイケンガ モー クサー ムシ、 ハタケンゴタッタ

それだから もう 草 取り 畑[仕事]のようなのは

佐賀 02-2

モー アタイバッカイサイ。(B ウーン)

もう 私ばかりよ。(B うん)

モ ソイケンガ モー ホンニ ナイバ シェンバナシ

もう それだから もう 本当に なにを しなければならない

カイバ シェンバナシデ シトイ

かにを しなければならないで 一人

イソガシカッタランバモン[16]。 {笑}

忙しがっていないといけないもの。 {笑}

29B : ソギャンジャンネ。 フンナコッチャン。

そうだものね。 本当にそうだ。

30C : バッテンガナー コノ デクッキ モー

だけでもね 子どもが できたら もう

シゴター デケンモン。(B ソガンジャンナター)

仕事は できないもの。(B そうですものね)

モ コノ オッケン。

もう 子どもが いるから。

31A : コノ オッキナンター。 ソイバッテン アタリヤ モー

子どもが いますとね。 それでも 私は もう

シナルワシューデテ コバ モイ シトッター。

[仕事を]習わせようとして 子どもを お守り していた。

32B：フンナコト アンタ ホナーニネ。

本当に あなた 本当に[子守りをしていた]ね。

33C：インチャ アンタングリャー ワッカギネー、

いいや あなたぐらい 若いとね、

コモイノ デクッバッテリー。ソイギ ウチーノンモ
子守りが できるけれども。それで うちの者も

オーバーチャンナー ツンニャー[17]キランモン。

おばあさんは [子どもに]ついていけないもの。

34B：ウンチャ マッチョ ワッカ バーチャンガ マーダ

いいや もう一つ 若い おばあさんが まだ

35A：ワッカ バーチャンガ カシェギンサッケンナター。

若い おばあさんが 働かれるからね。

36B：マダー カシェガンバケンネー。

まだ 働かないといけないからね。

37C：アリャ マタ カシェゴードナター。

あれは また 働こうとしてですね。

38B：ホナーナコト モー トシオイバーサンナ

本当に もう ひいおばあさんは

シーエナナカー。

[子守りは]できはしない。

佐賀 02-4

39A : ウチヘンモ トシオイバーチャンガ オイナッ トキヤー
私のうちなども ひいおばあさんが おられる 時は

モイワ シーエナナカー。 トテーモ。(B ホンナコト)
[子]守りは できはしない。 とても。(B 本当に)

ソイバッテンガ ホラナター、 Bサント オナシ コト。
そうだけれども ほらね、 Bさんと 同じ こと。

ワッカ トキヤー コモーシテ アノー {笑} アソードッテ
若い 時は 小さくて あの {笑} 遊んでいて

トシノ イタテカラ カシェガンバナシ テ
年を とってから 働かないといけない と

コナタ インサッケンガ。(C {笑})
この方[が] おっしゃるから。(C {笑})

40B : モー コノ フトッテシマウギサイ、 (C ンー)
もう 子どもが 大きくなってしまえばね、(C うん)

シゴトン ナカモンジャイ カシェガンバサイ ネー。
仕事が ないのだから 働かないと[いけない]ね ねえ。

ワガミ オータ ホドキ[18]バッテンサイ。
我が身[に] あった 稼ぎだけれどね。

41C : ヤッパイ ソガンジャンネー。(B ナイ) ウン。
やっぱり そうなものね。(B はい) うん。

佐賀 02-5

チャー〔19〕 シチャ オラレンモンノー。
じっと しては おられないものね。

42B：チャー シチャ オラレン。 ホシテ マタ
じっと しては おられない。 そして また

チャー シテ オロゴトモナカモンナンタ。(C ソギャンテ)
じっと して いたくもないですものね。(C そうだって)

43A：ドーシテ ホラ ネー ワッカ トッカラネー
どうして ほら ねえ 若い 時からね

カシェーデキトンサッケンガネー。
働いてきておられるからね。

44B：ウン。 アイモ シトカンバ コイモ シトカンバ ト
うん。 あれも しておかねば これも しておかねば と

オモテサイ ネー。
思ってね ねえ。

45A：シゴトノ メニ ツクモン。
仕事が 目に つくもの。

46B：ツクイモンデン スグサイ モー ホンナコテ
〔野菜〕作りでも したらね もう 本当に

ナンーデン アタイ ジャガイモジャローガ ナンヤローガ
なんでも 私〔は〕 ジャガイモだろうが なんだろうが

佐賀 02-6

ワガ ウエテ、 ヤシニャー シテ〔20〕 ソーテ、
自分が 植えて、 肥料〔を〕 施して そして、

トッ トキャ ホットクケン トイギャ イカイヨー
とる 時は 掘っておくから とりに 行きなさいよ

チューバカイヨー。(C うん) (A ンーナコテ ワガー)
と言うだけよ。(C うん) (A 本当に 自分が)

ナーイバ ドケ ツクットツ コッチャイデン
なにを どこに 作っている〔かという〕 ことでさえも

ウチン モンナ シラン。
家の 者は 知らない。

47A : ソーニャ ドコデン オナシ コト。
いいや どこでも 同じ こと。

ワガ シツクッキニャ ワガ ナンーデン
自分が やり始めたなら 自分が なんでも

シアゲマデ シェンバナナンナンター。
仕上げまで しなければならないですよ。

(B ソンナコト ソギャン ンー)

(B そういうこと そう うん)

マメ ツクローガ ナン シューガ {笑}
豆〔を〕 作ろうが なに〔を〕 しょうが {笑}

(C ウン。ソリャ ソギャンヨー)

(C うん。それは そうよ)

ワッカ モンナ ナンデーデン シラン。

若い 者は なんにも 知らない。

48B : ソイギ モー マメデンネ

そしたら もう 豆でもね

テージャマ アガシコー イヤ アガント ヒラカシタケン

天神山[は] あれだけ いや あんなに 開墾されたから

アタイ モー マメ ツクッタイ ゴマ ツクッタイ

私[は] もう 豆[を] 作ったり ゴマ[を] 作ったり

ムヤイ[21] シトッ。

やたらと している。

モー シロマメカラ クロマメカラ アツキサイ ミャーテ。

もう 白豆から 黒豆から 小豆まで まいて。

49A : ソイ テイレシューデチャネー、クサノ オユッケンネー。

それ[を] 手入れしようとしたらね、草が 生えるからね。

50B : クサノ オユッケンネー、シトカンギサイ。

草が 生えるからね、 [手入れ]しておかないとね。

02↑03

ソガントモ タノシュンデ スッヨー。アガン モー

そんなのも 楽しんで するよ。あんなに もう

佐賀 03-2

ダイデン シェンギ アタイ シトイシテ スッケン。
だれでも しないなら 私 一人で するから。

51A：モ シトイガ ヨカ コタ ヨカナンタ。
もう 一人が いい ことは いいですね。

52B：シトイガ ヨカー。ヨクー トキ ヨクーテ ヨシ
一人が いい。 休む 時[は] 休んで いいし

53A：ワガ ヨカーシコロ シテ ヨカケンガ
自分が 好きなだけ して いいから

54B：ウン。カエログタツギ カエッテ ヨーシ。
うん。 帰りたいれば 帰って いいし。

55A：モー ホンナコト。
もう 本当に。

ソバッテン コノゴロカラングト ヌッカギニャトワサイ。
それでも この頃のように 暑かったらね。

56B：ヌッカギ ソイギ アタイ サンジジャイ ヨジマデジャイ
暑かったら それで 私[は] 3時か 4時までか

(A アタイモ) グリャー (A アタイモ)

(A 私も) ぐらいは (A 私も)

ウチ アスードッ。
家[で] 遊んでいる。

佐賀 03-3

57A : ユー ユーガタ カケテ

×× 夕方[に] かけて [=夕方近くになって]

デテイクサイ。 (B ウン)

[農作業に]出ていくのよ。(B うん)

マカニャーフ シテノ アッタ テ オモーテ
炊事は する人が いた と 思っ

モー ユールシ カケテ イクサイ。

もう 夕方に かけて 行くのよ。

58B : マカニャーフ シテノ アンモン。 カエツギト クーバカイナタ。

炊事は する人が いるもの。 帰ったら 食べるだけですよ。

フロドン ハヨ イランカンタ[22] テ イーナッケン。

風呂でも 早く 入りませんか と 言われるから。

59C : ウンニャ マタ コノゴロンカラ

いいや また この頃の[ように]

コガンタ ヌッカナイ サレンモンネー。

こんなに 暑いと [農作業は]できないものね。

60B : サレンバイ。 モ アツシテナンタ ハタケノ ヤケテサイ。

できないよ。 もう 暑くてですね 畑が 焼けてね。

(C ウン ソギャンテ) サレン。(C ウーン)

(C うん そうだっ) できない。(C うん)

61A : ソーバッテン ムカシノ シトワ ユー
それでも 昔の 人は よく

デヨンサッタナンタ。

[農作業に]出ておられましたね。

ヤッパイ シェンギニャトワ チョット シキンランモンジャイナタ
やっぱり しなかったならば ちょっと でき×ないですものね

イマ キカイバッカイケンバッテンガ。ヌッカ マニ ホラ
今[は] 機械ばかりだからだけでも。暑い 間に ほら

62B : モー タノ クサデンガ ミズ アビテ シヨッタヨ
もう 田の 草[取り]でも 水[を] 浴びて していたよ

アタイドマ。

私たちは。

63C : {笑} フーンナト ザブーット ツカッテナー。
{笑} 本当に ザブーっと つかってね。

64B : モー カワン ナキャ ツカイヨッテ、
もう 川の 中に つかっている、

(A キモンナガラジャロ) (C {笑})

(A 着物のままでだろ) (C {笑})

ヌレーナガラ マタ ヒャーイヨッタ。

濡れながら また [田に]入っていた。

佐賀 03-5

65A : ホイ ヤクンモンネー。 {笑} (B モー オッソロシ)
それは [日に]焼けるものね。 {笑} (B もう ひどい)

アタイタチモ ソギャンシテ イキヨクタ。
私たちも そうやって [農作業に]行っていた。

66B : ネー。 イマジブンナ
ねえ。 この頃は[まったく違う]

67C : デン ホンナコテ ムカシノ オメー スンナイ
でも 本当に 昔の 思いを するならば

ヒャクショーワネー、 (B ウーン ホンナコトー)
百姓はね、 (B うん 本当に)

ヒャクショー ヒャクショー チュータッチャ
百姓 百姓 と言ったって

68A : ヒャクショーブイノ チガウナンタ。
百姓ぶりが 違いますよね。

69C : アタイドンカラ ユーギ ゴクラクチューゴタツジャン。
私たちから 言うと 極楽というようなものなもの。

(A ンー ゴクラク)

(A うん 極楽)

70B : フンナコッチャン。 ゴクラクバンタ。 ウチャー ウシ ンマ
本当にそうだ。 極楽ですよ。 家には 牛[や]馬

佐賀 03-6

71A : ソイケン ホンニ ヒャクショーモ ヨカバッテン
だから 本当に 百姓も いいけれど

キカイカラ ヤッパイ マワサルッ〔23〕モン。
機械〔の返済〕に やっぱり 振りまわされるもの。

72B : ホンナコトー。 ソイケン コマカ ウチンゴタッ
本当に。 だから 小さな 私のうちのような

ヒャクショーガ ホンニ キツカサイ。
百姓が 本当に たいへんなのよ。

キカイ カウギニャト オワルッヤラ、
機械〔を〕 買ったら 〔返済に〕追われるやら、

カワンギー {笑} ナイジャラ
買わないと {笑} なにかは

タノマンバラン。
〔だれかに〕頼まないといけない。

73C : ソイナイテナー カワンギ トナイカラ トナイ
それならってね 買わないと 隣から 隣

シナイヨットコレ (B シナイヨットコレサイ)
〔機械で〕されているのに (B 〔機械で〕されているのにね)

ジブンバカイ ボトーボト〔24〕 サレンモンノー。
自分だけ もたもた できないものね。

74B : ソキャンサイ。 ホンーニ。
そだよ。 本当に。

オーカンバーチャ〔25〕 シヨンナイ、
おおびらに しょうものなら

コカ ジダイオクレター テ イーナローダ
ここは 時代遅れだ と [人は]おっしやるだろうな

ト オモーテ。 {笑} (A・C {笑})
と 思っテ。 {笑} (A・C {笑})

75A : ヨノナカノ カワッテイクト。
世の中が 変っていくと。

76B : ホンーナコト。 ソイバッテン チカットドン
本当に。 だけでも 少しばかり

ヒャクショー シヨッタッチャネー、 キカイカラ オワルッサイ。
百姓を していたってね、 機械に 追われるよ。

77A : ソイ ドコデンジャイケンネー、 チョットー。
それ[は] どこでもだからね、 ちよっと。

78C : ドコデンジャン。 トナリ トナイノ タンナキヤー
どこでもだもの。 隣 隣の 田んぼで

イマーンゴト サササーデ〔26〕 シテシマーウナイネー。
今のように さっさと やってしまうならね。

佐賀 03-8

ボトーボト シテ オラレンモン。 (B ウーン、ソガンサイ)
もたもた して いられないもの。(B うん、そうよ)

79A : モー ホンナコテ ドコデン ココデン
もう 本当に どこでも ここでも

ジョーヨートラックターバーッカイジャンナンタ。(C アー)
乗用トラクターばかりですものね。(C ああ)

80B : コンヘンナ サンダンビャクショー〔27〕デン
このあたりは 三反百姓でも

キャーナイヨンモンネー。
買っておられるものね。

81A : ソイケンガ ソガン ナggiニャト ヤーッパイ モー、
それだから そんなに なるなら やっぱり もう、

オカシューシテ {笑} (B ホンナコッチャン)
みっともなく {笑} (B 本当にそうだ)

シャッキン ウーテ〔28〕デン カワンバゴト
借金[を] 背負ってでも 買わないといけないように

イチ〔29〕ナツタイ。
なってしまうのよ。

82C : ソヤ カワンバナナ。
それは 買わないといけない。

83B : シャク シェンカラ マワサルッ。
借金に 振りまわされる。

84C : ソイデ キカイカラ マワサルッ。
それで 機械に 振りまわされる。

(A マワサルッ) (B ホンナコッチャン)

(A 振りまわされる) (B 本当にそうだ)

03↑04

85A : ソイケン カラダワ ホネ オランクサンタ。
だから 体は きつくないんですよ。

(C ソギャンテ)

(C そうだって)

86B : ホネ オラーン。 アギャン ノッテ
きつくはない。 あんなに [機械に]乗って

シェンバナクター。

しなければいけないんですね。

ムカシャー マッタクラ [30] スイキルッゴトネー。

昔は 股ぐら[が] 擦り切れるほどにね [働いていた]。

マタズイ シタ チューテ ウチヘンナ、 {笑}

股擦れ した といって 私のうち[の者]などは、 {笑}

ホンナコテ ショラシタヨー。

本当に [股擦れ]しておられたよ。

佐賀 04-2

87A：マタズイ ショッタモンネー。
股擦れ していたものね。

88C：アシカラ チノ デョッタモンナー。(B ナター)
足から 血が 出ていたものね。(B でしょう)

コープカラ チノ デョッタ。
こぶから 血が 出ている。

89B：チノ ズグゴトサイ。イマジブンナ モー
血が 出るほどにね。この頃は もう

ツツミコーダゴッシテ ノッテ
包み込んだように[大切に]して [機械に]乗って

シテ ヨカモンジャ。ヨカサイ。
[仕事を]して いいものだ。いいよ。

90A：タベモンノ チガウゴト、ナンーデン ヨノナカノ
食べ物 違うように なんでも 世の中が

カワッテイタテ。{笑} (B ンー)
変わって行って。{笑} (B うん)

アンタタチモ カイゴサン カイヨンサッタロダクタ。
あなたたちも 蚕[は] 飼っておられたでしょう。

91B：キャーヨッター。コンドンキナ ホラ ナンネン
飼っていた。この頃は ほら 何年[も]

佐賀 04-3

カワンモンコッチャイ モ。
飼わないことだよ もう。

ミカンニ キリカエタギ カワンモンジャ。
ミカンに 切り替えたら 飼わないものだ。

92A：ドコデン ミカンニ キリカエタギニヤト
どこでも ミカンに 切り替えたら

カインサランジャロナンタ。
飼われないのでしょうね。

93C：ウーン。 ソイギネ カイヨラン。
うん。 それでね 飼っていない。

ソリヤー キャーヨッタサイ。
それは [昔は]飼っていたよ。

94A：ウイギャ イコーデッテンガ[31] モー {笑}
売りに 行こうとしても[たいへんだもの] もう {笑}

(B フナーナコテ)

(B 本当に)

95C：モー サッカラバカイ イーヨグト
もう 先ほどから 言っているように

トスマデ イキヨッタ。(B フーン ホンナコト)

鳥栖まで 行っていた。(B ふうん 本当に)

佐賀 04-4

96A : トスマデモンナター。(C ウン)

鳥栖までもですね。(C うん)

アタリヤー コマカ トキヤッタッテン、カンザキマデ
私は 小さい 時だったけれども、神崎まで

(C ウン カンザキ カンザキ) カンザキテン

(C うん 神崎 神崎) 神崎とか

ニージ[32]テンマデーワ シットツ。(C ウン バッテン)

尼寺とかまでは 知っている。(C うん だけど)

ソイギ モ ジテンシャノ ウシレー ツケテー
それで もう 自転車の 後ろに つけて

イカンバヤッタケン コマカ カゴナイト ツケテカラ
行かないといけなかったから 小さな かごでも つけて

イノーテ イキナイヨッタモンナター。
背負って 行っておられたものですね。

97B : イノーテ イキナイヨッタモンネー。

背負って 行っておられたものね。

98A : ソガントワ シットツバッテン ホンーニ トスマデモ

そんなのは 知っているけれど 本当に 鳥栖までも

イキヨンサッタナンター。

行っておられたのですね。

佐賀 04-5

99C : トスマデ イキヨッタヨ。(A フーン)

鳥栖まで 行っていたよ。(A ふうん)

100B : キャーゴサン キャー ジブンナー、ネプタサ ネプタサ。

蚕[を] 飼う 頃はね、 眠たいこと 眠たいこと。

ウチノ シュートオカサンナ モ ヨノ アクッテチャ
うちの お姑さんは もう 夜が 明けるといとう

モ ムシロヌキ[33]テン シナイヨッ。
もう 蓆抜きなど[を] しておられる。

オラー ネブーシテ ネゴト ユーゴト ネプタカバッテン
私は 眠くて 寝言[を] 言うほど 眠たいけれど

(C {笑}) シナンモンニャー。 {笑}

(C {笑}) [お姑さんが]なさるものね。 {笑}

ソイギ オジーサンノ イッチョダマシ[34]ガ、
そしたら おじいさんが 「一つ覚えが、

ソイ イッチョ ヒネギ イツマッテン シトッ
それ 一つ いじると いつまでも している」

チューテ コー[35] クリー[36]ナイヨッター。
と言って ひどく 叱っておられた。

ソイバッテン ヤッパイネー シカクッギサイ、
それだけど やっぱりね やりかけたらね、

佐賀 04-6

フナーナ ウチン ババサン
本当に うちの おばあさん[は]

ネッシンカッタケンネ、 ソガン シナイヨッタヨ。
[仕事]熱心だったからね、 そんなに しておられたよ。

(C ネッシンカッタモンノー)

(C 熱心だったものね)

シー。 アタイモ ネプサ ネプサ。
うん。 私も 眠いこと 眠いこと。

101A : ソングロノ オシュートサンツキャーネ、
その頃の お姑さん付きはね、

ホンナコテ キツカッタモンネー。
本当に たいへんだったものね。

102B : シー モー オシュートサンニ ツコーチャ
うん もう お姑さんに つこうというのは

ザットナカッタヨー。
たいへんだったよ。

103A : ネナナカギ ネラレンシ
[お姑さんが]寝られなければ [自分も]寝られないし

イマゴロ
この頃

佐賀 04-7

104 B : ンーンサイ。 イマジブンナ オロ
そうよ。 この頃は 少しは

ネトローガ ネットンミャーガネー、 ワガ ニューゴタギ
寝ていようが 寝ていまいがね、 自分が 寝たかったら

ヌッ。 ヒンネ シューゴタッキ ネット ヨシネー。
寝る。 昼寝 したかったら 寝て いいしね。

オドマ ホンニ ハヨ ヤメナッキ ヨカバッテン ホンニー
私などは 本当に 早く やめられれば いいけれど 本当に

オラ ネプカトコレ ト オモータッチャネー。(A {笑})
私は 眠いのにと 思ってもね。(A {笑})

ネナナカギ ネラルンミャーガ。
[お姑さんが]寝られなければ [自分も]寝られないだろうが。

(C ソリャ ネラレンモンノー) ンーン。 {咳払い}
(C それは 寝られないものね) うん。 {咳払い}

オソロシカー、 ウチャーワー。
恐ろしい、 私のうちは。

105 A : シュートサンノ イゲンノネー ムツカシカッタバッテンガー。
お姑さんの 威厳がね 難しかったけれども。

106 B : ババサンノ カシェギナイヨッタケン
おばあさんが [よく]働いておられたから

アタイ ザットナカッター。

私[は] たいへんだった。

107C : ソーシテ アンタンガタ ネッシンカッタケン、
そうして あなたの家[は] [仕事]熱心だったから、

(B ネッシンカ) オカサンモ。

(B 熱心だ) お義母さんも。

108B : ソーシテ テバヨーシテネー。

そうして 手早くてね。

04↑05

109C : オ {笑} オヤジサンナ ヤカマシカッタバツテン {笑}

× {笑} おとうさんは やかましかったけれど {笑}

110B : ンーン。 カンショー〔37〕オヤジーサンヤッタケンナター。

うん。 短気なおとうさんでしたからね。

アンタン シッタゴト。 モ タキモンバ

あなたが 知っているとおおり。 もう 薪を

ズーット ホラ キランバジャッタログ。 {咳払い}

ずっと ほら 切らないといけなかつただろうが。 {咳払い}

タキモン キーギャ イクギ オカサンノ

薪[を] 切りに 行くと お義母さんが

モー キッテシモータカイ チーナッ。

もう 切ってしまったかい と言われる。

佐賀 05-2

オリャー マダ シワゴ〔38〕バツカイギ キットラントコレ
私は まだ 4分の1把ばかりしか 切っていないのに

モー ワガー イノーテ イコーッ シナイヨッタ。
もう 自分は [薪を]背負って 行こうと しておられた。

マーダ アタイ チカーツ キットラーン チュタギ
まだ 私〔は〕 少ししか 切っていない と言ったら

モー ワガ ショイショイショイデ〔39〕
もう 自分は さっさと

カエーナンモンネー。 {笑} (C {笑})
帰られるものね。 {笑} (C {笑})

ソイギ タイーテイ オカサンニ ツンノテ
それで 相当 お義母さんに ついていって

チキッタネー、 ジョージー ナッタヨ。
少しはね 上手に なったよ。

ホンナコッ タイーテ クローシタ。 ウチン オカサンノ
本当に 相当 苦労した。 うちの お義母さんが

111A : ムカシ タキモントイノ ハヤイヨッタモンジャンネー。
昔〔は〕 薪とりが 流行していたものだね。

112B : ウーン、 タキモン イチネンジュー タクトバ
うん、 薪〔は〕 一年中 焚く分を

佐賀 05-3

トランバイカンツタローガ。
とらないといけなかつただろうが。

ソイーケンネー ザットナカッタ。
それだからね 簡単ではなかつた。

113A : インニャ ソイケン タキモン トイギャー ホンニ
いいや だから 薪[を] とりに 本当に

イキナイヨツタケン オドンタチモ コマカ トキ (B ウーン)
行っておられたから 私たちも 小さい 時 (B うん)

シー スス アノ イワモイサイ (B ウーン)
×× ×× あの 岩森[山]へ (B うん)

タキモン トイギャ カマ モツテカラ。
薪[を] とりに 鎌[を] 持って[行っていた]。

ソイギ ソノ マルカシ[40]キラヤロガ。(B ウーン)
それで その 束ねられないだろうが。(B うん)

ソイカラ キーモエン。
それから 切ることもできない。

ソイギ モ コーン タイテ ユンニュー
それで もう ××× 相当 多く

シテク シトッ テ オモートツギサイ、
××× していると 思っているとね、

佐賀 05-4

アノ シューネンサンダチノ マルキヤー トキニ
あの 青年たちが 束ねる 時に

コーンチョー イチナッテサイ。 {笑}
小さく なってね。 {笑}

マクラノゴタットバ (C {笑}) イノーテ カエーヨッタヨー。
枕のようなのを (C {笑}) 背負って 帰っていたよ。

ホニーニ。 {笑}
本当に。 {笑}

114B : アタイドマ アラ コギヤー[41]カラサイ、 ホンナ
私などは あれは 小さい時からね、 本当に

ウチー オッ トキカラ ソギャン シヨッタケン。 {咳払い}
家に いる 時から そんなに していたから。 {咳払い}

115C : ソイケンガ アタシドン イマデンガ
それだから 私など[は] 今でも

タキモン タキモンテ イオーゴタッ。
薪 薪と 言いたい。

116B : ホンナコッチャン。 (C アー)
本当にそうだ。 (C ああ)

ソイケン アタイ モー
だから 私 もう

佐賀 05-5

117A : インニャ ムカシノ シト ホンナコテ
いいや 昔の 人[は] 本当に

ソギャン * * * (C ウン)

そう * * * (C うん)

118B : タキモン イマデンガネー、 アガントカワ
薪[を] 今でもね、 あんなところは

ボーフォーリン シトッ トコッテン キラスギ
防風林[に] している ところなど 切られたら

アタイ スーッパイ マッカッ。(C フン ホンナコトネー)
私[は] みんな 束ねる。(C うん 本当にね)

ヒノキダケモンニ トットッ。
桧の薪に とっている。

119A : バッテン イマノ ワッカ モンナ
だけど 今の 若い 者は

120B : ソーテ アタイガ マカニャー スッ トキャ
そうして 私が 炊事[を] する 時は

ズット タキヨッタバッテン
ずっと [薪を]焚いていたけれど

モ イマノ ヨメクサンナ ゼッタイ
もう 今の お嫁さんは 絶対[しない]

佐賀 05-6

タキミチ〔42〕デン シラッサン。
焚き方なんか ご存じない。

ソイケン アタイガ イマワ モー オチャデンガ
だから 私が 今は もう お茶なんかも

アサ ハガマ〔43〕デサイ、(A アー)
朝 羽釜でね、(A ああ)

タキモンデ ワキヤートクサイ。
薪で 沸かしておくよ。

121A : アタイモ ヨメクサンノ キハナワサイ、 モー
私も お嫁さんが 来た当初はね、 もう

ヘッチーサンデ チャーテ クイヨッタ。(B ウーン)
かまどで 焚いて やっていた。(B うん)

ソイバッテン モー チョット、 アンマイ コー シヨッキサイ、
だけでも もう ちょっと、 あんまり こう しているとね、

ミシェツケノゴト ナローガ。(B フンナコト)
見せつけのように なるだろうが。(B 本当に)

ソイギ マー モ ホンニニャー ト オモーッテ
そしたら まあ もう 本当にね と 思って

アキラメテサイ、 モ ヨーシテ イッチョク〔44〕サイ。
諦めてね、 もう 黙って 放っておくのよ。

佐賀 05-7

モ ジェンジェン タキモンノ モー、クサ アノ
もう 全然 薪が もう、×× あの

ボローボロ イチナッバッテンナタ (C ウン)
ぼろぼろ[に] なりますけれどね (C うん)

ツカワンモン。
使わないもの。

122B : ウチモ タケジャーモクバ キッタトン ドーッサイ
うちも 竹材木を 切ったのが たくさん

アンモンジャイ。
あるものだから。

123C : モー ムシン チーテネー。 シバドマ モー
もう 虫が ついてね。 柴などは もう

ボローボロ イチナイヨッ。
ぼろぼろ[に] なっていている。

124A : ウチヘンナ オジーサンタチン トッテクイトイナットカラ
私のうちなどは おじいさんたちが とってくださっていたのから

アッヨ。(B ウチモ アンモン)
あるよ。(B うちにも あるもの)

ムカシャ タキモン、ソイギ イーナイヨッタモン。
昔は 薪、それで 言っておられたもの。

コメワナイ カイギャデン イカルッパイ
米はね 買いにだって 行かれるよ

ソーシキ シタイ ナイタイ スッギ ソノ コメワ
葬式[を] したり なにしたり すると その 米は

(B ソギャンヨ。 ホンナコト) カイギャ イカルッパッテンガ、
(B そうよ。 本当に) 買いに 行かれるけれども、

タキモンナ カイギャ イカレンケンナイ チテ ユテ。
薪は 買いには 行かれないからね と 言って。

125 B : ホンナコト ドコノ トシオイデン ソギャン イーナイヨッタヨー。
本当に どの 年寄りでも そんなに 言っておられたよ。

126 A : タキモン イッチョーワ モ アギヤント シトカンバ
薪 一つは もう あんなに しておかないと

チュテサイ、 イワレヨッタ。
と言ってね、 言われていた。

127 B : ハガマテ ナイテン ムカシンター コンナ モノデ
「羽釜とか なんとか 昔のは こんな もので

シヨンサツタカ、デスカー テ イワス。 ヨメクサンナ。
しておられましたか」と 言われる。 お嫁さんは。

05↑06

ギヤントデバッカイ ゴハン タキヨッタヨー
「こんなのでばかり ごはん[を] 炊いていたよ」

佐賀 06-2

テ ユーサイ。アタイガ。
と 言うのよ。私が。

128A : ソシテネー、ハガマモ ホンナコテ。イッシューダーキ
そしてね、羽釜も 本当に。 1 升炊き

ニシューダーキテナンタ (B ズーット アッサイナー)
2 升炊きとってですね (B ずっと あるよね)

アンモンジャ。(B ソー ソガン)
あるものだ。(B そう そのとおり)

テツノ ハガマノ カラ (B ソイギ アタイガ)
鉄の 羽釜× から (B それで 私が)

アガリニ アルミニ ナッタバツテンガ。
最後に アルミに なったけれども。

129B : ホンナコト。ヨメクサンノ コラッサン トキ
本当に。お嫁さんが [まだ]来られない 時

アタイガ マカナイ シヨッタギ ズット、
私が 炊事[を] していたら ずっと、

モー バンナネー タキヨッタ、ハガマデタイネー。
もう 晩はね 炊いていた、羽釜でだね。

130A : シンチャ ヤッパイ アノ タキモンデ チャータトガサイ、
いや やっぱり あの 薪で 炊いたのがね、

佐賀 06-3

(B ウーンサイ) ゴハンノ ウマカ コタ

(B そうよ) ごはんが おいしい ことは

ウマカモンナター。 (B ウマカモンナンタ)

おいしいですものね。 (B おいしいですものね)

タキアゲ[45] シテ スッギー。

炊きあげ して すると。

131 B : ンー アタイ タキヨッタサイ。

うん 私[は] 炊いていたよ。

テ イマデブンワ モー ワーガ スッギ

でも この頃は もう 自分が [炊事を]したら

タカッサン。

[お嫁さんは]炊かれない。

132 C : ソリャー コロット チガウモンナー。 (A チガウナンター)

それは はっきり 違うものね。 (A 違いますね)

デンキデジャイ スット

電気でなんか すると[=炊くと]

133 A : アジノ チガウモンナンター。

味が 違いますものね。

134 B : モー ナイーデン モー ガスデバッカイ。

もう なんでも もう ガスでばかり。

135 A : バッテン ソギャン コタ
だけれど そんな ことは

イワヤ サレズナンタ。
言われは されない [=言われない] ですしね。

(C {笑} ソギャンテー)

(C {笑} そうだって)

136 B : ウーン。 イワリャ サレズ モー、
うん。 言われは されない もう、

ヨカーゴテ クワシエックイナットガ ヨカ ウチター
いいように 食べさせてくれるのが いい うちだ

ト オモーテ クーテオイヨッサイ。
と 思って 食べているのよ。

137 A : ハガマデン ナイデンガ ソイケンガ イクラデン コズンデ
羽釜でも なんでも だから いくらでも 積んで

ヨーシテ モトイェーニ イッチェートッ。 {笑}
黙って もとの家に 放ったらかしている。 {笑}

138 B : オドマ アツコニ ウェートッ。 {笑}
私は あそこに 置いている。 {笑}

ツカワッサンモンジャンネ。
使われないものだものね。

佐賀 06-5

139 A : デンキ モー ホラ ** ハジメ ガスガマデ シヨッタギ
電気 もう ほら ** 初め ガス釜で していたら

ガスガマモ アイラシカモン。
ガス釜も あれらしいもの。

ソイギ モー デンキガマニ ニャーテ モー、
それで もう 電気釜に なして[=して] もう、

タイム イレチャッケンサイ ネット ウチ
タイマー[を] 入れてあるからね 寝ている うち[に]

ゴハンノ デキューガ。 (B ソギャンジャンネー)
ごはんが できるだろうが。 (B そうだものね)

ソガン モ ヨノナカノ ヒックンガヤッタケン
そんなに もう 世の中が ひっくり返ったから

ギャン (B ウーン) ナッタジャンナー ト オモーテサイ。
こんなに (B うん) なったのだな と 思ってね。

140 B : ソイギ オーソ オキテ ヨカモンネー。
そしたら 遅く 起きて いいものね。

141 A : モ オーソ オキテ ヨカ。
もう 遅く 起きて いい。

142 B : ゴハンシャガ デケトツギ
ごはんさえ できていたら

143A : オカズダケケンガ モー (B ソーサイ)
おかずだけだから もう (B そうよ)

ハヤカローガ。(B ホンナコトー)
早いだろうが。(B 本当に)

アタイタチャ モ ガッコサイ ヤローデチャ
私たちは もう [子どもを]学校へ やるには

ホンーニ アサ モー ゴシカラ オキテ、
本当に 朝[は] もう 5時から 起きて、

モー アノ アガントヤッタヨ、
もう あの あんなふうだったよ、

ベントーメシ チャーテ シューデチャー モー
弁当のごはん[を] 炊いて する[=作る]には もう

144B : ホンナコト ナンーニンデン ヤローデチャネー。
本当に 何人でも [学校に]やるにはね。

ホンナコッチャン。
本当にそうだ。

145C : トニカク ヨノナカワ オナゴシ[46]サンガ
とにかく 世の中は 女の人が

ホネ オンナー。(B ホンナコトー)
骨 折る[=苦勞する]ね。(B 本当に)

佐賀 06-7

(A ナーイ) ホンナコテー。 {笑}

(A はい) 本当に。 {笑}

オトコニ ウマレンバ アワンバン。

男に 生まれないと 引き合わないよ。

146A : ** ホンナコテ イマワ モー

** 本当に 今は もう

147B : チョットー {咳払い} チ チ チカラホドキ[47]ワ

ちょっと {咳払い} × × 力仕事は

オトコシ[48]ガ ヨカバッテン (C ウン)

男の人が いいけれど (C うん)

ナイジャイワネー、オナゴガ ヨンニュー ハタラキヨッサイ。

なにかはね、 女が 余計に 働いているよ。

ジカンカラ。

時間から[言っても]。

148C : インニャー トテモ ホンナゴテ

いいや とても 本当に

149A : ソイバッテンガ マカニャーワ カテ[49]ジャッターモンナター。

だけども 炊事は おまけでしたものね。

(C アー カテ)

(C ああ おまけ[だ])

佐賀 06-8

150 B : カテ。 ホンナコト。 ウチヘンナ モー
おまけ。 本当に。 私のうちなどは もう

ヒルドン オスー ズッグニャト
昼でも 遅く [農作業に]出たりすると

コンニャントマデ シテキタローモン テ
「今夜の分まで [食事の支度を]してきたんだろう」と

オジーサント イーナイヨッタ。
おじいさんと 言うておられた。

コンニャントバ イツンハジャ ツクッカ
今夜の分を いつの間に 作るか

ト オモーテネー。 {笑}
と 思ってね。 {笑}

151 A : アトカタツケ シューデテ (B ウンーサイ {咳払い})
後片付け[を] しようとして (B そうよ {咳払い})

{笑} オロタエテ シテ イキヨットコレ
{笑} 慌てふためいて して 行っているのに

152 B : コンニャントマデ チューシモ シテキタカ イマノー キテ
「今夜の分まで // // // // してきたのか 今[頃] 来て」

テ。 (A フンーナコッチャンネー) ウーン。
って。(A 本当にそうだね) うん。

153A : アタイダチャ ホンナコテ ホラ、
私たちは 本当に ほら、

ゴニン コバ ヤローデチャ モ アサ モー
5人 子どもを [学校に]やるには もう 朝[は] もう

ヨシハンジブンカラ オキテー、(B ホンナコト)
4時半頃から 起きて、(B 本当に)

ソーシテ モー オカズ シューデチャ
そうして もう おかず[を] する[=作る]には

シチリンニ ガ アノ ケシズイバ
七輪に × あの 消炭を

(B ウン。ソギャンサイ ホンナコト)

(B うん。そうよ 本当に)

トッテータトバ オケーテ ソーシテ
取っていたのを [火を]おこして そうして

ベントーン シャー ツクイヨッタモンナンター。
弁当の おかず[を] 作っていましたものね。

154B : ソージャンナンター。ホナッテ ワガコ
そうですものね。 本当に 我が子[を]

06 ↑ 07

オース トキャ ソギャンジャッタ。
育てる 時は そうだった。

佐賀 07-2

ウチモネー ショーガッコーカラ コートーニネンマデ
私のうちもね [尋常]小学校から 高等[小学校]2年まで

ゴニン イタヨー。(A ウン) ゴニン。
5人 いたよ。(A うん) 5人。

155A : ソーシテ ムカシ ベントーモ
そうして 昔[は] 弁当も

ツメテヤランバヤッタモンネー。
詰めてやらないといけなかったものね。

156B : ホンナコト ヤーナカ[50]バ
本当に 間を[空けて]

チョット ウマゴドメー ナッタギー
ちょっと 孫たち[の時]に なったら

モ キューショクジャッケンネ。ヨカッタバッテン。
もう 給食だからね。 よかったけれど。

157A : イマワ ソイケン ラクー。
今は だから 楽だ。

158C : ダシタ ニンズーノ オーカッタケンネー、
[学校に]出した 人数が 多かったからね、

(B ーン) アンタガター。
(B うん) あなたの家は。

佐賀 07-3

159 A : ホンナコト タイテ アギヤントヤロー。
本当に 相当 あんなだろう。

ホネ オンサツタロー。
骨 折られただろう。

160 C : ウン、 ザット ホネ オットッバイ アンター。
うん、 たいへん 骨 折っているよ あなたは。

161 B : ホンナコト オイガゴト クローシタ モンナ アンモンカンタ。
本当に 私のように 苦労した 者は あるものですか。

(C {笑}) ソイギ オイガ ユー
(C {笑}) それで 私が 言う

162 A : ソイバッテン アンタ ツヨーアンサツジャッカント。
それでも あなた 強くていらっしゃるではないですか。

163 B : モー オリャ シュートガカニモ ナンニンノ
もう 私は 姑にも 何人[も]の

シュートガキヤモ ナッタ。 アンジャヨメ エ ゲモ
姑にも なった。 兄嫁 × ××

ナンニンノ アンジャヨメゴニモ ナット。
何人[も]の 兄嫁にも なっている。

オイヨイ ナットン モンナ ナカロー テ ユー。
私より [多く]なっている 者は ないだろう と 言う。

佐賀 07-4

164C : ンー ソリャ ナカ ナカ。
うん それは ない ない。

165B : ナター。 モー フタミュートモ ミミュートモ
でしょう。 もう 二夫婦も 三夫婦も

マタ コドンモネー。 キョー キョーダイ
また 子どももね。 ××× 兄弟

166A : ホンナコト キョーダイサンノ キオンサッタケネー。
本当に 兄弟が 来ておられたからね。

167B : ワガコニモ マタネー、 ソガシコ オッテ。
我が子にも またね、 それだけ いて。

バッテン イマワ モー コモ スッパイ
だけど 今は もう 子どもも 全部

アイチー[51]シモータケンナター。 (C ウン)
結婚してしまいましたからね。 (C うん)

168A : イマガ イチバン ラクナンタ。
今が いちばん 楽ですよ。

169B : イマワ モー ホンナコテ ヨカ。
今は もう 本当に いい。

ドコサイデン イク トコレナイ イク。
どこへでも 行く 所へなら 行く。

佐賀 07-5

170A : ソイバッテンガ アノ クローシトッギニャト
だけども あの 苦労していると

ヤッパイ アガントテ ユー
やっぱり あんなに 言う

ラクー ラクワ クノ タネ〔52〕チテ ホンナコテ モー
××× 楽は 苦の 種といって 本当に もう

イマガ イチバン アンタ アギャントタイネ。
今が いちばん あなた あんなふうだよ。

(C クワ ラクノ タネデネー) ラクノ タネデ。
(C 苦は 楽の 種でね) 楽の 種で。

171B : ナイテッデン ユー モンナ ナシ。
なんとでも 言う 者は いないし。

ギャーン シギャ イコゴタッギ
こんな[ことを] しに 行きたければ

ドコサイデン イタテ ヨシナンター。
どこへでも 行って いいですしね。

172A : イクナ テ ユー モンナ ナカモンナンター。
行くな と 言う 者は いないですものね。

173B : アシェガン モンナ ナーシ。
いらだつ 者は いないし。

佐賀 07-6

174A : アタイモ ソイケンガ ソガン オモーテ、
私も だから そんなに 思って、

ダイデンガ イッ イッコナン テ ユー モンナ
だれも ×× 行くことはならない って 言う 者は

ナカケンガサイ、 {笑} イコー イテヤッキ
いないからね、 {笑} 行こう と言われたら

スグ サソワレテカラ ツンノーテイク。
すぐ 誘われて 連れ立っていく。

175B : ウチンニキャ ツレノ アッケン モ ジキ イク。
私のそばには 連れが いるから もう すぐ 行く。

(A {笑}) チュー-[53]サイジャローガ。 {笑}
(A {笑}) 千布へだろうが。 {笑}

アー アシチャワ ドコサイ イコーカ テ イーナッケン
ああ 明日は どこへ 行こうか と 言われるから

ホナーナコト モー イコーネ チテ ジキ イク。
本当に もう 行こうね と言って すぐ 行く。

176A : ソーテ ドーシェ ハタケン シゴト ワガ
そうして どうせ 畑の 仕事[は] 自分が

シェンバナケンナタ。 (B ンー ソガンサイ)
しなければなりませんからね。 (B うん そうだよ)

佐賀 07-7

ケッキョクワ モ カシエッケーテ [54] イクケンガ
結局は もう 多めに働いて [遊びに]行くから

177B : タノシュンデ スッヨー。 ンー。
楽しんで するよ。 うん。

178A : ソギャンマデ ナカモンネ。 タノシュンデ。
そんなにまで [影響は]ないものね。 楽しんで。

179B : ソノヒ ソノヒノ シゴトバ
その日 その日の 仕事を

180C : ドーシテ ムカシャー イマノ ホネオイト チゴーテネー。
どうして 昔は 今の 苦勞と 違ってね。

(A * * * * チガウナンタ) (B ナーイ。 ンー)
(A * * * * 違いますね) (B はい。 うん)

タキモンウリギャー {笑}
薪売りに {笑}

181A : タベモンモ オロー タベ (C ウン ウン)
食べ物も 少なく 食べ (C うん うん)

ウマ ウマカ モンナ キーワ エジー。
×× おいしい 物は 食べは できない [=食べられない]で。

182B : モ ボン ショーガツ
もう 盆 正月

佐賀 07-8

183C : タ タキモンウリギャーナイ カンザキサン
× 薪売りになら 神埼へ

アタイドマ タイテー イタヨ。 カンザキサン。
私などは 相当 行ったよ。 神埼へ。

184B : ホンナコトー。 タキモンウイギャモ イカンバナソ。
本当に。 薪売りにも 行かないといけない。

(C ウーン) タイーテ オドンモ
(C うん) 相当 私も

アッコソタイ ヤマシゴト シナイヨツタケン
あそこのあたり[で] 山仕事[を] しておられたから

サキャンータイ[55]ノ ニキマデ
境の谷の そばまで

タキモン トイギャ イタテ、 モツテキテ、 (C {笑})
薪[を] とりに 行って 持ってきて (C {笑})

ソーテ ボソ ショーガツァー ハナシバ[56] ウイヤ イタイ
そして 盆 正月は ハナシバ[を] 売りに 行ったり

ツソノハ[57] ウイギャ イタイ シェソバラソ。
ツソノハ[を] 売りに 行ったり しなければならない。

(A ホソソコト) フソソゴツ。

(A 本当に) 本当に。

07↑

佐賀 08-1

ソシテ ワガテー イッシェンガッテン
そして 自分ものには 1 銭ほどだつて

↑08

シーワシェンヨー。(A {笑})
しはしないよ。(A {笑})

ヤ ジョノー*** オサメンバラン。 オヤニネー。
やあ 上納*** 納めないといけない。親にね。

イマチューナイ ワガー ゲッキュー トッタターネ、
今といえば 自分が 月給[を] とったのはね、

ワガ ジューニ ツコーテ ヨカバッテン
自分が 自由に 使って いいけれど

ムカシャ ソガンジャ ナカローガ。
昔は そんなでは ないだろうが。

185A : ホンナコテ ビャーラ[58] ウイギャ イタイ (C {笑})
本当に 粗朶[を] 売りに 行ったり (C {笑})

ハナ ウイギャ イタイナター。
花[を] 売りに 行ったりですね。

186B : ウーン ショッタモン。 ホンナーゴテ。
うん していたもの。本当に。

187C : ジューゴシェンガタ シギャーネー。 {笑}
15 銭ばかり しに [= 稼ぎに] ね。 {笑}

佐賀 08-2

188 B : ンー シレタモンジャンナター。 ホンナコッチャン。
うん したたものですね。 本当にそうだ。

189 A : シェイシン[59] テロン シェイシンノ アスコノ
清心[院]とかの 清心[院]の あそこの

ヤキバン トコマデワ モ マックロシトッタ チュテ。
火葬場の 所までは もう 真っ暗だった って。

(C {笑}) (B ンーナコト)

(C {笑}) (B 本当に)

アスコデ ヨノ アクットバ (B ウーン) マッテ、
あそこで 夜が 明けるのを (B うん) 待って、

ボンバナデン ウイギャ イキヨッタ チュテナンタ。
盆花でも 売りに 行っていた と言ってですね。

190 B : ソガンジャン。 ヒガシブチ[60]ノ
そうだもの。 東洲の

アノ オテラノ アツケ ヨクー トキ
あの お寺の あそこに 休んでいる 時

カノ クー カノ クー。 {笑}

蚊が 刺す 蚊が 刺す。 {笑}

アノ マールカ タケデ ツクッタッテ イノーテ。 {笑}
あの 丸い 竹で 作ったもので 背負って。 {笑}

佐賀 08-3

191A : ヤッパイ ダイーデン ムカシャ ソガン
やっぱり だれでも 昔は そんなに

シトンサッゴタンナンター。
しておられたようですね。

192B : ムカシャ シヨッタモン。 ウチモ ウット
昔は していたもの。 私のうち[の者]も ずっと

イキナイヨッタ。 ワガマエ ** シューデチャー
行っておられた。 自分// ** したら

193A : イマジブンナ ホンーナコテ ホラ、 チョット モー
この頃は 本当に ほら、 ちょっと もう

194B : モ イマジブンナ チョット ショーバイニ
もう この頃は ちょっと 商売に

195A : ハナ ウイギャ イクテチャ モー バイ
花[を] 売りに 行くには もう ××

クルマカラテンガ (C ナーイ) バイクカラテン
車ととか (C はい) バイクととか

(C ソギャンター) (B ウーン)

(C そうだって) (B うん)

バッカイジャイケンガ、ナター。

ばかりだからですね。

佐賀 08-4

196 B : ウーン、 アルイテドン イキヨンモンネ。
うん、 歩いてなど 行っているものね。

197 A : アユーデ イキヨン モンナ ナカ。
歩いて 行っている 者は いない。

198 C : ソイケン アンタ オース オキテ ヨカモン。
だから あなた 遅く 起きて いいもの。

(A ソガンジャンナンタ) ハヤオキシエンデ ヨカ。

(A そうですものね) 早起しなくて いい。

199 B : アンタガタモ ケサ アタイガ ココサイ クツ トキ、
あなたの家も 今朝 私が ここへ 来る 時、

イキナイヨッタ。 X1サン ドーッサイ ツケテ。

行っておられた。 X1さん たくさん [売り物を車に]つけて。

200 A : カシェギンサンナンター X1サンナ。(B カシェギナーッ)
[よく]働かれますね X1さんは。(B [よく]働かれる)

(C {笑}) メズラシカー。

(C {笑}) 珍しい。

201 B : ウチ ムスメガエ ニキサイ
うち[の] 娘の家[=婚家先][の] そばへ

ヨー キンシャッヨー テ イーヨッタ。

よく 来られるよ って 言っていた。

202C : カシエグ コタ カシエグヨ。
[よく]働く ことは 働くよ。

コーモ シトッバッテリー
小さい [体を]しているけれど

203B : ソーテ ヤシエトイナップバッテ カシエギナンモーン。
そうして やせておられるけれど [よく]働かれるもの。

204C : ヤシエトッバッテリー。
やせているけれど。

205A : ツヨカロー。
強いだろう。

206C : ツヨカー。(B ネー。ホンナーナコテ) イットキデン
強いよ。(B ねえ。本当に) 一時でも

ヨー シトラン。(A ホンナコテ イットキデン)
じっと していない。(A 本当に 一時でも)

キューモ ニドメ イキヨッタロー。
今日も 2度目 行っていたろう。

207B : ホー モー ネー。(C ***)
ほう もう ねえ。(C ***)

ジュージゴロ イキヨンシャッタヨ。
10時頃 行っておられたよ。

208C : ニドメ イキヨッタヨ。

2 度目 行っていたよ。

209B : アイガ ニドメジャッター。 (C ナーイ)

あれが 2 度目だった[のですか]。(C はい)

オロー (A ンー。メズラシカネー)

あらあ (A うん。珍しいね)

イガヤン ニキサイ イキヨンシャッジャロー。

伊賀屋の あたりに 行っておられるのだろう。

210A : ヤッバイ ワガネー ダンカ[61] ダンカノ (B ウーン)

やっぱり 自分のね 得意先 得意先が (B うん)

アッケンガサイ、イキンサッサイ。

あるからね、 行かれるのよ。

211C : ソイケン ヨメゴガ オッケン マ マカニャーシテノ

それだから 嫁が いるから まあ 炊事する人が

アローガ。 (A・B ウン)

あるだろうが。 (A・B うん)

ソイデ モー ヨロコードッ。 (B ウーン)

それで もう [妻は]喜んでいる。(B うん)

ソイ イッチョデ ヨカ チテ。 {笑}

それ 一つで いい と言って。 {笑}

ナイデン シェンデチャ。
なんにも しなくても。

212A : ホンノコテ ソガンジャン。 アノ、 (B ソガンサイ)
本当に そうだ。 あの、 (B そうよ)

アノ マカニャーシテノ アッギサイ、 (B ウーン)
あの 炊事する人が あればね、 (B うん)

213C : モー スッカイスツ チューテナー。 {笑}
もう さっぱりする と言ってね。 {笑}

214A : スッカイスツナター。
さっぱりしますよね。

215B : ソン マカニャー シューデテガネー。 イマジブンナ
その 炊事[を] しようとするのがね。 この頃は

216A : マカニャー スットガ イチッパン ニー ナッ。
炊事[を] するのが いちばん 重荷に なる。

(C ****) オナゴノ マカニャー スット
(C ****) 女が 炊事[を] するの[が]

ニー ナッコンナンバッテンサイ。 (C アーイ)
重荷に なることはいけないけれどね。 (C ああ)

217B : キーモンデサイ、 モー コドンガ ナイノカノ タブンミャーガ。
食べ物でね、 もう 子どもが なんのかの 食べないだろうが。

218A : ウチヘンナサイ ウマゴガサイ、 キラフケンガ
私のうちなどはね 孫がね、 嫌うから

モー シューゴトナカ。
もう [炊事は]したくない。

219B : フーンナコト。 スカン モンナ クワンジャイ チテー。
本当に。 好きじゃない 物は 食べないなんて 言って。

08↑09

220A : ムカシャ ホンーニ ヨカッタモンナター。(C {笑})
昔は 本当に よかったですものね。(C {笑})

ニジメモンナイ ニジメモン イッチョデ、
煮しめなら 煮しめ 一つで、

トコツケ[62]ジャイ (B フンナコト ウーン)
床漬けか (B 本当に うん)

ツケモンジャイ アッキ ソイデ ヨカッタローガ。
漬け物か あれば それで よかっただろうが。

221B : ゴマジョーイジャイ ナイジャイデン シトッキ
ゴマ醤油か なにかでも しておけば

ソイデ ヨカバツテ イマジブンワ ソギヤンタ クワンモン、
それで いいけれど この頃は そんなのは 食べないもの、

コドマ。 カッタヨイ[63] クワン。
子どもは。 いっこうに 食べない。

佐賀 09-2

222A : ソバッテン ヤッパイ ソバッテン トシオイワ
それでも やっぱり それでも 年寄りは

シュッチューウッタッテ ニジメモンガ ヨカゴタンナター。
//////////////// 煮しめが いいようですね。

(C ンー ヨカヨー) ソイケンガ モー
(C うん いいよ) それだから もう

アイドンガ オランギー
あれたち [=子どもたち] が いないと

ジキ アタイガ ニジメモン スッサイ。
すぐ 私が 煮しめ[を] するのよ。

アリヤッ キューワ チテ。 {笑}
あら 今日は と言って。 {笑}

223B : フーナコッチャン。 ナスビデン ナイデン
本当にそうだ。 ナスでも なんでも

ニタガ ンマカモンネー。
煮たのが おいしいものね。

224A : フンナコト。 テン ヤッパイ (B ジャガイモ テ)
本当に。 でも やっぱり (B ジャガイモ ×)

ワッカ モンノ オッ トキ ニジメモン シタッチャ
若い 者が いる 時 煮しめ[を] しても

クワンモン。
食べないもの。

225 B : ジャガイモデンネ トレタッチャ
ジャガイモでもね とれても

ニジメモンドマ シワーシェン。(A シェナナカ)
煮しめなどは しはしない。(A なさらない)

ネー、 モー ナイジャイ サラダジャイ アガッジャイ
ねえ、 もう なにか サラダとか 揚げるとか

ス シェンナイ クワン。 カレ カレージャイ
× しないと 食べない。 ×× カレーとか

226 A : ドコ ドコーデン オンナジ コトナンタ、 ヤッパイ。
×× どこでも 同じ ことですね、 やっぱり。

227 B : オンナジ コト。 イマジブンノ ジダイワナンター。
同じ こと。 この頃の 時代はですね。

228 A : シゴトノ チガウモンジャ ヤッパイ。
仕事が 違うものだ やっぱり。

229 C : ムギ ウイギャー シヤワ〔64〕
麦〔を〕 売りに しには

カンザキサイ イキヨッタ。(B ウーン {咳払い})
神埼へ 行っていた。(B うん {咳払い})

佐賀 09-4

バッテンガ カンザキサイネー シャリキ ゴヒョー
だけど 神埼へね 荷車[に] [麦を]5俵

ツケテ イコーデチャー (B アー)
つけて[=積んで] 行こうとしたら (B ああ)

ホネ オイヨッタヨー。
骨 折っていたよ。

230B : ホンナコトー ムカシャー {咳払い}
本当に 昔は {咳払い}

231A : ウドン ウドン、アギヤント シギャーモ ホラ、
うどん うどん、あんなふうにしにも ほら、

(B ホンナコトワ) カンザキサイ ソーメン
(B 本当に) 神埼へ そうめん[を]

キャーギャモ イキナイヨッタヤッカント。
買いにも 行っておられたではないですか。

ムギツキ、 ウチモ
麦つき[に]、私のうちも

232B : ウチヘンモ イキヨラシタヨー。
私のうち[の者]なども 行っておられたよ。

モ リヤカー ヒーテ コドンガ イキヨッタ。
もう リヤカー[を] 引いて 子どもが 行っていた。

佐賀 09-5

フーナーナコトジャンネー。 モー ムカシャ ホナーナコテ。
本当にそうだね。 もう 昔は 本当に。

233A : カンザキノ ドコントガ ウマカケン テ
神埼の どのの[そうめん]が おいしいから と

(B ンー。 ホンナコトー) ユーテナンター。

(B うん。 本当に) 言ってですね。

ムギバ (B ウチヘンモ イキヨッタヨー)
麦を (B 私のうちなんかも 行っていたよ)

リヤカー ヒーテ ホッキ アトオシ シテ
リヤカー[を] 引いて そしたら 後押し して

イカンバナナヤッタモンネー。
行かないといけなかったものね。

234B : ナイー シヤデー イカンバヤッタ。
なにを しにでも 行かないといけなかった。

ムカシャー シャリキ ヒーテ チット アノ
昔は 荷車[を] 引いて ちょっと あの

アツコンタイマデ ステ[65] キャーヤマデ
あそこのあたりまで 油かす[を] 買いにまで

オヤジサント イキヨラシタケンニャー。
おとうさんと 行っておられたからな。

サキムラン ニキマデ、(C {笑}) ナンター
崎村の そばまで、(C {笑}) ですな

ソギャン シテ (C イキヨッター) ヒリョーデン
そんなに して (C 行っていた) 肥料でも

キャーヤ イカンバヤッターローガー。 ウーン。
買いに 行かないといけなかったろうが。 うん。

235A : イマノ ジダイワ モー クルマカラバッカイジャイケンガ。
今の 時代は もう 車ではかりだから。

236B : クルマカラバッカイ スーツネ。
車ではかり スーツとね。

タッタスリ〔66〕 イタッキナー。
すぐさま 行ってこられる。

イマ アンタ タンボクイヤマデ イキヨッタモンジャー。
今 あなた 肥汲みにまで 行っていたものだ。

237A : フソーニ ヨー イキヨンサッターネー。 ホンナコテ ムカジャー。
本当に よく 行っておられたね。 本当に 昔は。

238B : フンナコトー。 オケデン ナイデン アツコニ
本当に。 桶でも なんでも あそこに

コロコロコロ シトッタギ、
ころころ 転がして〔放って〕いたら、

佐賀 09-7

モー ズッカイ〔67〕シテ コックヤータ。
もう ばらばらになって 壊してしまった。

ヒャクエンジャイ ジャーテ チューノン ニキサイ
100円だか 出して 千布の あたりへ

キャーイギャ イタ。 ジッボンジャイ。
買いに 行った。 10本ぐらい。

239 A : ウチン ニキモ ホラ アノー、
私のうちの あたりも ほら あの、

タメガメバ ツクッチャッタログ。(B ウン ウン)
溜がめを 作ってあったろうが。(B うん うん)

トリーバルニ ホンタクノ ハタケニ。(B ウン)
鳥居原に 本宅の 畑に。(B うん)

ソイギ ソイバ モ クミギヤ イクギ
そしたら それを もう 汲みに 行けば

モー ダイデン モ ハヨー クンデシモーチャンモンネー。
もう だれでも もう 早く 汲んでしまっているものね。

(B ウーン) ソーユーフーデサイ

(B うん) そういうふうでね

ホンナコテ ソガン シナイヨッタヨ。
本当に そんなに しておられたよ。

240 B : フンナコッチャン。 ドギャナ ジダイデン アッタ
本当にそうだ。 どんな 時代でも あった

09↑10

(A ソガンタイ ウン) オメーヨギナター。

(A そうだよ うん) 思い出しているとですね。

241 A : チョット ガン ジダイノ カワッ コター
ちょっと こんなに 時代が 変わる ことは

アンマイ ナカジャナカローカ。

あんまり ないのではなかるうか。

242 C : アンマイ ナカジャロー。 {笑}

あんまり ないだろう。 {笑}

(A ナター) (B {咳払い})

(A でしょう) (B {咳払い})

ソリャ マダ カワッ コッチャイ ワカランサイ。 {笑}

それは まだ 変わる ことかも わからないよ。 {笑}

243 B : ソイバ アガント

それを あんなに

244 A : マー チョットネー。 ギャン カワッチュー コタ ナカロ。

まあ ちょっとね。 こんなに 変わるという ことは なかるう。

アタイタチ マーダ アイクリャーバツテンガサイ。

私たち[は] まだ あれくらいだけでもね。

佐賀 10-2

チョット ユーギ モー アノ テウエカラヨ、
ちょっと 言えば もう あの 手植えからね、

モー コンダ キカイモ、 モー コンダ キカイモ モー ノッテ
もう 今度は 機械も、 もう 今度は 機械も もう 乗って

スグト ナイヨローガ。 {笑}
[作業を]するように なっていているだろうが。 {笑}

245 B : タウエデン ナイデンネー。

田植えでも なんでもね。

246 A : ナンーデン ソノゴトクヤローガ。

なんでも そんなふうだろうが。

247 C : アンター ナンネンノ ウマレ。

あなたは 何年の 生まれ[だね]。

248 A : タイショーヨネンバンタ。

大正4年ですよ。

249 C : ヨネン。 タイショーヨネンカイ。 (A ナイ) ンー。

4年。 大正4年かね。 (A はい) うん。

250 A : ソレー アンタ チョット ガシコ カワットローガ。

それに あなた ちょっと これだけ 変わっているだろうが。

(B ホンーナコッチャンネー)

(B 本当にそうだね)

佐賀 10-3

ソイケンガ モー チョット ガンー アガントヤロー。
だから もう ちょっと こんなに あんなふうだろう。

ムカシャー ズーット
昔は ずっと

251C : タイショーヨネンチューギネー、(A ウン)
大正4年というかね、(A うん)

アントト ニジューイチチガイヨ。(B アー) アタシト。
あなたと 21[歳]違いよ。(B ああ) 私と。

252A : アラ ソガン チガウナタ。
あら そんなに 違うんですね。

ソイバッテン アンタ ツヨーアンサー。(B ツヨカー)
だけど あなた 強くていらっしゃる。(B 強い)

ツヨアンサー。(C ツヨ ナカー。{笑})
強くていらっしゃる。(C 強く ない。{笑})

253B : ジコニドン オートンサランナイ
事故になんか あっておられないなら

マーダ ツヨカヨ。{咳払い}
もっと 強いよ。{咳払い}

254C : コンド ジコニ オータケンネー、ソイデ ヨワッタバッテン。
今回 事故に あったからね、それで 弱ったけれど。

佐賀 10-4

255 B : ッテン カラダワ イッチョデン アレ シトラン。
でも 体は 少しも あれ していない。

256 A : カラダワ ソラ * * * * シトッモンネ ウン
体は それは * * * * しているものね うん

257 B : タダ テン デノ フジューカバカイバッテンネ。
ただ ×× 手が 不自由なただけだね。

イッチョデ キデン ナイデン アンタ
少しも 気でも なんでも あなた

イーच्छオン カワットラン。 シーっカイ シトンモン。
少しも 変っていない。 しっかり しているもの。

258 C : シっカイ シトラン。 {笑}
しっかり[は] していない。 {笑}

259 B : X2サンタチンゴト ポサット ナットラン アンタ。
X2さんたちのように ぼけっと なっていない あなた[は]。

260 C : ボサーット ナットランジャ ナカ。 {笑}
ぼけっと なっていないのでは ない。 {笑}

261 A : ウン、 X2サン。 オンニ ホンナコト X2サンナ
うん、 X2さん。 本当に 本当に X2さんは

ボサーッチ シトンサッ。
ぼけっと しておられる。

佐賀 10-5

262 B : モー ホンーニ ポエイナツタバンタ。
もう 本当に ぼけっとになりましたよ。

(C X2サンヤー) ウーン

(C X2さんか) うん

263 A : ホンーニ モノ イーヨンサツタバッテン、
本当に [よく]もの[を] 言っておられたけれど、

インサランモンネ。 (C ウン) (B ホーンナコト)

[今は]言われないものね。 (C うん) (B 本当に)

264 C : アンガー オヤジサンガー タイショーヨネンニ シンダ。
私の おとうさんが 大正 4 年に 死んだ。

(A アラ ホンニヤ) (B アー)

(A あら 本当にね) (B ああ)

ソントキャ ニジューイチニ ナットツタサイ。 アタシャ。
その時は 21[歳]に なっていたよ。 私は。

(B ンー) (A ンー アー)

(B うん) (A うん ああ)

265 B : アー タイショーヨネンニ シーナッター。 (C ンー)
ああ 大正 4 年に 亡くなられた。 (C うん)

ウーン (A ホンーニネ)

うん (A 本当にね)

佐賀10-6

オドマ シッチャ オッバッテンガ
私も 知っては いるけれども

タイショーヨネンジャッタコッチャイ ナイコッチャイ シラン。
大正4年だったのか なんなのか 知らない。

アンタガタン オジーサンナ シットッ。
あなたの家の おじいさんは 知っている。

266A : ウチノ ホラ アタイガ ムスコノ カシラントガ、
私のうちの ほら 私の 息子の 頭[=いちばん上]のが、

アガント ショッタッガー アノ、
あんなこと[を] していたのが あの、

ウシデナンタ、 ツキヤーナリヤージャッタサイ。(B アー)
牛ですね、 使い習い[始め]だったのよ。(B ああ)

ソイケンガ アノ ウシノ、 ソイギ X3シェンシェーノ
それだから あの 牛が それで X3先生が

コガーンテ テー クンデサイ、
こんなにして 手を 組んでね、

アリャ ウシイッチョ イキヨゴタットガ
「あれは 牛だけ[が] 行っているようだが

ダイジャイ オッカノ チューテ {笑} (C {笑})
だれか いるのか」と言って {笑} (C {笑})

イーヨンサッタサイ。(B ウーン)
言っておられたよ。(B うん)

ソイギ ソガーン ショッタ トコレ モー イマゴラーナンター
それで そんなに していた ところに もう この頃はですね

ジョーヨーニ ノッゴト ナッターローガ。
乗用[トラクター]に 乗るように なったろうが。

267B : ソギャンーサイ。 フナーナコテ カワレバ カワンモンネー。
そうよ。 本当に 変われば 変わるものね。

268A : モー ホンーニ。 ソイケンガ ギャン ユー、
もう 本当に。 だから こんなに 言う、

10↑11

イチバン カシラントガ。
いちばん 上のが。

269C : インニャー フトカ ウシナイ アトカラ (A ナイ)
いいや 大きい 牛だったら あとから (A はい)

ニンゲンノ イキヨット ワカランゴタッタモンネー。
人間が 行っていると わからないようだったものね。

(B ワカランサイネ) ウン。

(B わからないよね) うん。

270A : * * * * * ツキヤーヨッギンター ソギャン ユーテサイ {笑}
* * * * * 使っていたら そんなに 言ってね {笑}

佐賀 11-2

271C : ソーテ アンタガエンタ ソーチャー フトカッタケン ウシノ。
そして あなたの家ののは 相当 大きかったから 牛が。

272A : ホラ ネンジュー コバ
ほら 年中 [牛に]子を

ウマシェナイヨッタケンガナンター。(C ウーン ソギャンター)
産ませておられましたからね。(C うん そうだって)

ハラゴエ(68)ノゴタットテン ナイテンヤッタローガ。
妊娠中のようなのとか なんとかだったろうが。

ソイモンジャ、ソノ、ニンゲンナ オラントガ
それだから、その、人間は いないのが

ウシイッチョ {笑} イキヨッ チテサイ。
牛だけ {笑} 行っている と言ってね。

273C : インニャ ドッカラジャイ (A {笑}) ミヨーニ ヨッチャ
いいや どこからか (A {笑}) 見方に よっては

ソギャン ミユッ トキ アッサイ。
そんなふうに 見える 時[も] あるよ。

274B : アンタガタモ ウシバ ホンーニ ナゴ コーテネ。{咳払い}
あなたの家も 牛を 本当に 長く 飼ってね。{咳払い}

シヨンサッタモンナター。
しておられましたものね。

佐賀 11-3

275 A : ホイケン アノー ゴネンシェージャイ ロクネンシェージブッカラ
だから あの [小学] 5年生か 6年生頃から

(B ウーン) ウシ ツキヤーヨッヨー。(B ウーン)
(B うん) 牛[を]使っているよ。(B うん)

ソガン シテ ヒヤクショー シナルートラース。
そんなに して 百姓を [実地に]習っておられる。

アノワイサンナ。
あの方は。

276 B : アンタガタ モンナ オトーサンナ ツトメンサツ。
あなたの家[の] 者は おとうさんは 勤め[てお]られる。

オジーサンナネー
おじいさんはね

277 A : オジーサン マッスグ ヒヤクショージャローガ。
おじいさん[は] まっすぐ 百姓だろうが。

(B ンー ソガンサイ)
(B うん そうなのよ)

11↑

佐賀県佐賀市1978注記

- [1] アシェガラジ
いらいらしないで。「アシェガル」は、「じれったく思う」「いらだつ」「ぐずぐずいう」の意。
- [2] エシャク
「エシャクスル」で「へつらう」「おもねる」の意。
- [3] キケトツタ
「キケル」は「効果がある」「権威がある」「にらみがきいている」の意。
- [4] コジュート オイ ハチニン
「オイ」は「オニ」（鬼）の転。「コジュート」は「小舅」「小姑」で、配偶者の兄弟姉妹のこと。「若妻にとって小姑は鬼8匹に相当するくらい恐ろしかった」の意。
- [5] ナター
詠嘆や、念を押す意の終助詞。「ナタ」「ナンタ」「ナンター」とも言う。目上に対する丁寧な用法。
- [6] アッチャコシ
「あべこべ」「反対に」「さかさま」「逆」の意。
- [7] バンタ
強意の終助詞。目上に対する比較的丁寧な用法。
- [8] ヨブ
「嫁をとる」「嫁を家に迎える」の意。
- [9] シツツァン
「ヒト」が「シト」に発音されるのは、当地方の特色。「シツツァン」は「ヒトサン」が「シツタン」になり、さらに「シツツァン」に転化。
- [10] ザットナカ
「ザット」は「雑と」で、「いい加減に」「粗雑に」が原義。「簡単にはいかない」「容易ではない」「なかなか骨が折れる」の意。
- [11] カシェギ
「カシェグ」は、「金を稼ぐ」というよりは「働く」の意。

- [12] ショテ
初手。「初め」「最初」「当初」の意。
- [13] バインダー
発動機付き稲刈り機。
- [14] イッタン
「イチダント」の転。いっそう。ひときわ。ここでは、「かえって」の意。
- [15] オローホンポ
あまりよくない。あまりきちんとしていない。「オロ」は、「質が悪い」「劣っている」「十分でない」の意。「ホンポ」は、「正しく」「よく」の意。
- [16] イソガシカッタランバモン
「イソガシガットランバモン」と言うべきところ。忙しがっていないといけないもの。
- [17] ツンニャー
「ツレナフ」が「ツンノー」「ツンナウ」となり、「ナウ」が「ニャ」に転化した。「お伴する」「ついていく」「連れ立つ」の意。「ツレ」は「従者」「同伴者」。
- [18] ホドキ
「稼ぎ」「金もうけ」「労働の報酬」「賃金」を指す。また、「作業着」「仕事着」を言うこともある。
- [19] チョー
「静かに」「じっと」の意。
- [20] ヤシニャー シテ
「ヤシニャー」は「ヤシナイ」の転。「養う」から転じて、作物に肥料を施すことを言う。
- [21] ムヤイ
「ムヤミ」の転。「むやみに」「際限なく」「やたらと」などの意。
- [22] カンタ
疑問の終助詞。「カナター」とも言う。敬意を含む。

- [23] マワサルッ
振りまわされる。追いまわされる。ここでは、機械の機動力に追いまわされるのではなく、代金の返済に振りまわされることを言っている。
- [24] ボトーボト
擬態語。「もたもた」「時代遅れに」というような意。
- [25] オーカンバーチャ
往還端。「おおっぴらに」「公然と」「あからさまに」の意。
- [26] サササーデ
擬態語。さっさと。同じ語を3度繰り返してたたみかける表現は、当地方の特色。
- [27] サンダンビャクショー
3反耕作する百姓、つまり、百姓だけでは生活できない零細農家を指す。
- [28] ウーテ
「オーテ」の転。背負って。「オウ」が「オー」ではなく「ウー」となる。
- [29] イチ
「イチ」「イッ」は、強意の接頭語。「イチクー」「イッコボス」などのように用いる。
- [30] マッタクラ
股ぐら。股。昔はパンツ・ももひき・ズロースなどがなく、ふんどし・腰巻の類だったため、田の除草時には稲の剣葉で露出部は擦られ、傷から血が出ていた。
- [31] イコーデッテンガ
「デッテンガ」は「デ デモ ガ」の転。「行こうということ自体が」の意。このあとに「たいへんだ」「おおごとだ」などが省略されていると思われる。
- [32] ニージ
地名。佐賀市大和町大字^{にいじ}尼寺。
- [33] ムシロヌキ
蓼抜き。蓼座から蓼を抜いて蓼を取り出す作業。

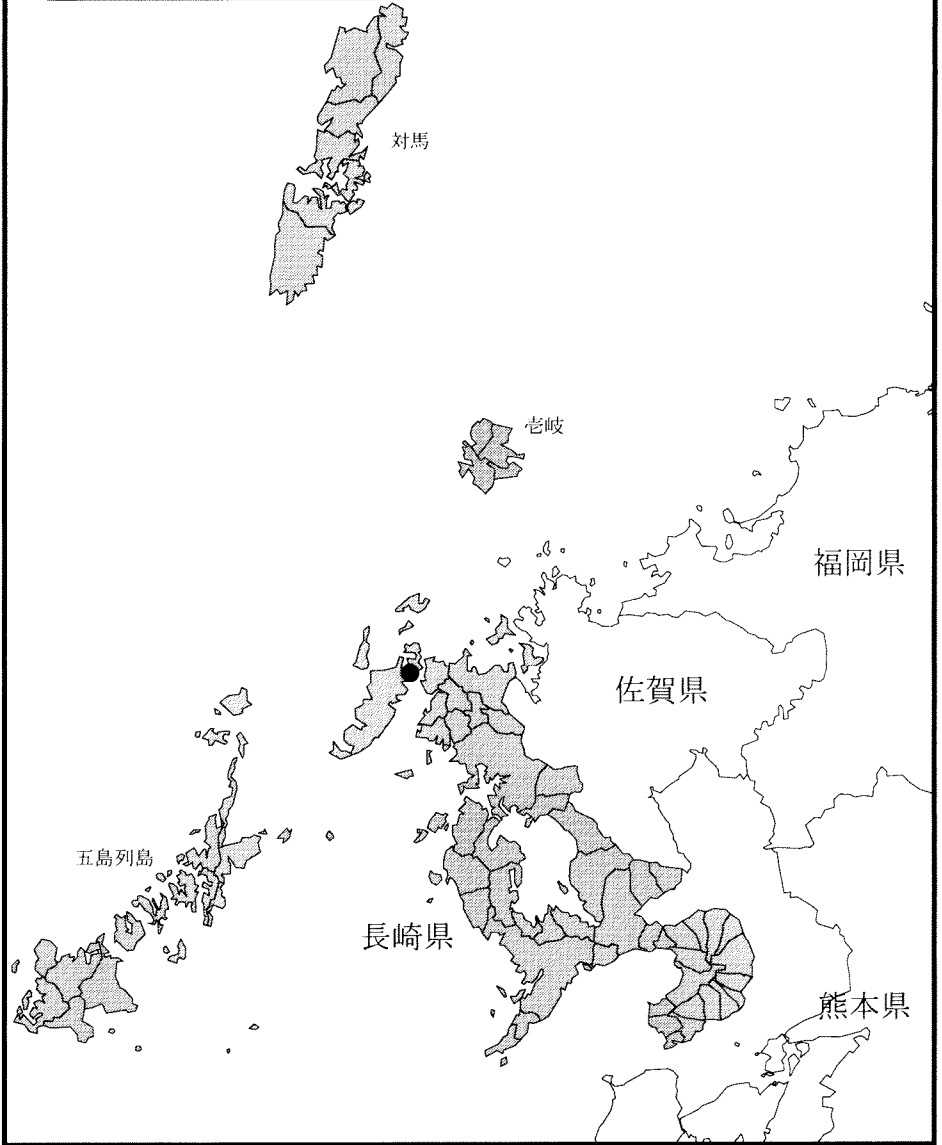
- [34] イッチョダマシ
一つ魂。それだけに熱中して他を顧みようとしない人。
- [35] コー
斯く。「クー」とも言う。「こんな」が本意だが、ここでは「ひどく」「たいへん」「非常に」の意で用いられている。
- [36] クリー
終止形は「クルー」。「叱る」「怒る」の意。
- [37] カンショ
本来、「正気でない人」を指すが、ここでは、「短気者」「かんしゃく持ち」の意に用いている。
- [38] シワゴ
1把の4分の1を指す。
- [39] ショイショイショイデ
擬態語。さっさと。3回重ねて強調するのは当地方の特色。
- [40] マルカシ
「マルカス」は、薬や薪などを束ねること。「マッカス」とも言う。
- [41] コギャー
「コガイ」の転。子飼い。「小さい時」の意。
- [42] タキミチ
焚き方。「ミチ」は、「方法」「仕方」「やり方」の意。
- [43] ハガマ
歯釜。羽釜。飯炊き釜。罏（つば）のある釜。
- [44] イッチョク
「ウチオク」の転。「ウッチョク」とも言う。「ウチ」「イチ」は接頭語。ここでは、「放置する」の意に用いている。
- [45] タキアゲ
炊いて沸騰したものを、残火で静かに保温（「ウマス」という）し、釜からはずす直前に、もう一度炊いて水気をとる作業をいう。
- [46] オナゴシ
「女衆」で、「女の人たち」の意。「ヲミナゴシュー」の転。

- [47] チカラホドキ
力仕事。肉体労働。ただし、代償・収入の伴う作業を言う。
- [48] オトコシ
「男衆」で、「男の人たち」の意。特に「酒男」「作男」「下男」を指すが、ここでは単に、「オナゴシ」に対して用いられている。
- [49] カテ
おまけ。余分。「カテ」は、「加える」の意の「カツ」の連用形。
- [50] ヤーナカ
間。中間。途中。「アイナカ」（合い中）の転。
- [51] アイチー
「アイチーテ」「アリツイテ」の略。「アリツク」は、「就職する」「結婚する」などの意。
- [52] ラクワ クノ タネ
「苦は楽の種」と言おうとしたか。
- [53] チュー
地名。佐賀市^{まんなりゅうまち}金立^{ちふ}町大字千布。市立の憩いの家があるので、お年寄りは連れ立ってよくそこへ行く。
- [54] カシェッケーテ
「ケーテ」は「コシテ」（超して）の転。ここでは、予定以上に働いておいて、超しただけ遊ぶということ。
- [55] サキャンータイ
境の谷。私有林と県有林の境にある谷。
- [56] ハナシバ
花柴。シキミ。香りのする常緑樹で、お盆の暑い時も強い。
- [57] ツンノハ
ツルノハ。ユズリハ。常緑広葉樹で、葉柄や新芽が赤く光沢があるので、めでたいものとして正月の神仏の供え物に使った。
- [58] ビャーラ
^{そだ}粗朶。薪などに使う雑木の小枝。

- [59] シェイシン
佐賀市大財^{おおたから}にある寺院。清心院。
- [60] ヒガシブチ
地名。東淵。佐賀市兵庫町大字淵にある。
- [61] ダンカ
檀家。「だんな」が本義だが、同時に「得意先」「ひいきにしてくれる客」をも言う。
- [62] トコツケ
床漬け。ぬかみそ漬け。一夜漬け。
- [63] カッタヨイ
「カタヨイ」は「カタヨリ」(片寄り)の転。「カッタ」は「カタ」の強調。一方に寄る意から派生した用法。いっこうに。まったく。決して。少しも。
- [64] シヤワ
シギャワ。「～をしには」の意。
- [65] ステ
大豆・油菜などの種から油をしぼったあのかす。江戸時代以降、家畜の飼料、または作物の肥料とした。
- [66] タッタスリ
副詞。「タダ スレ」の転。「すぐ」「すぐさま」「たちまち」「直ちに」の意。「タッタスレ」「タッタスリー」とも言う。
- [67] ゾッカイ
擬態語。「ゾッカリ」の転。すっかりばらばらになってしまった様子か。
- [68] ハラゴエ
ハラゴミ。腹込み。「妊娠中」の意。

Ⅱ. 長崎県平戸市
1983

長崎県平戸市



長崎県平戸市1983話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者 近藤 武
谷村 キクエ
収録担当者 (不詳)

(敬称略 項目別50音順)

「全国方言談話データベース」

文字化担当者 中村 文子 ※
共通語訳担当者 中村 文子 ※
解説担当者 坂口 至 ※
中村 文子 ※
編集担当者 佐藤 亮一
江川 清
田原 広史
井上 文子
編集協力者 中村 文子
鳥谷 善史
熊谷 康雄

※ 解説，文字化・共通語訳は，「各地方言収集緊急調査」報告資料をもとに，「全国方言談話データベース」の公開にあたって，新たに作成した。

長崎県平戸市1983解説

収録地点名

ながさきけんひらどしおおのちよう
長崎県平戸市大野町

収録地点の概観

位置

平戸市は、九州本土西北端の田^た平^{びら}町と、平戸瀬戸を隔てて南北に細長く横たわっている平戸島、および、その周辺に点在する大小およそ40の島々から構成されている。西方250kmには済州島、北西方向230kmには朝鮮半島がある。大野町は平戸島の北東部にあり、東は平戸瀬戸へ面し、西は川内峠登山道を境界に木^こ引^ひ町と、北は明^{あけ}の川^{かわ}内^{うち}町、南は大山町と接する。

交通

長崎空港から佐世保市まで特急バスで約80分、佐世保市から平戸市まで約90分である。1977(昭和52)年、平戸大橋(全長665m)が開通し、九州本土と結ばれた。大野町の中央部には南北に国道383号線が通っている。

地勢

大野町のある平戸島の形状は、タツノオトシゴに似ており、南北約40km、東西約9kmで、北は玄界灘、西は東シナ海に面している。鞍掛山から川内峠にわたる山地一帯は玄武岩ででき、その周辺部の海岸に沿って、明の川内・大野・大崎・川内・山中・木引などの棚田地帯が広がっている。

行政区画

1925(大正14)年、平戸町と平戸村が合併して平戸町となり、1955(昭和30)年、平戸町と中野村^{なかの}・獅子村^{しし}・紐差村^{ひもさし}・中津良村^{なかつら}・津吉村^{つよし}・志々伎村^{しじま}が合併、市制施行して平戸市となる。それに伴い、大字平戸大野免から大野町となった。

戸数・人口

1983(昭和58)年1月1日現在、平戸市の世帯数は8,355戸、人口は30,162人である。1985(昭和60)年の国勢調査によると、大野町の人口は255人である。

産業

平戸市は全国一の漁港数を有し、産業別人口は第一次38.2%、第二次15.6%、第三次46.2%である。大野町は畑地・果樹園を主とする農産地である。

収録地点の方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

長崎県の方言は、九州西北部の肥筑方言に属し、大きく中南部本土方言、北部本土方言、南部離島方言、北部離島方言に分けることができる。平戸市は北部本土方言地域にあたり、隣接する佐賀県西部の方言との類似点が見られる。

音韻

- (1) 「エ」は「イエ」に近く発音されることが多い。

イエイノー（宮農）

シェンイエン（1,000円）

- (2) 「セ」は「シェ」, 「ゼ」は「ジェ」となる。

シェンシェー（先生）

シェッカク（せっかく）

ジェニ（銭）

イジェントシテ（依然として）

- (3) 名詞に含まれる母音が、下接する助詞と融合する。

ハジマリヤ（始まりは）

- (4) 合拗音があり、「カ」は「クワ」, 「ガ」は「グワ」となる。

クワリョク（火力）

グワンジツ（元日）

- (5) 「ヒ」と「シ」の混同が見られる。

シト（人）

ジューヒチ（17）

- (6) 語中・語尾のナ行音・マ行音が撥音化する。

イン（犬）

キモン（着物）

カンボコ（かまぼこ）

ツンタカ（冷たい）

コドン（子ども）

- (7) 動詞語尾の「ル」が促音化する。

アマスギッ（甘すぎる）

- (8) 連母音「アイ」が融合して、「ヤー」となる。

ショービャー (商売)

アクセント

長崎県のアクセントは大きく三つに分けることができる。北部離島方言が筑前式アクセント、中南部本土方言が九州西南部式アクセント、北部本土方言・南部離島方言が一型アクセント（無アクセント）である。平戸市は一型アクセント（無アクセント）を用いる。

文法

- (1) 古語の残存として、下二段活用がある。

ナルレバ (慣れれば)

ノスル (載せる)

- (2) 否定には「ン」を用いる。

イワン (言わない)

シゴネンモ タタン ウチニ (4、5年も経たないうちに)

- (3) バ行・マ行五段動詞の連用形に助詞がつく場合、ウ音便が現れる。

クタリ ノーダリ (食べたり飲んだり)

オロデモワ (大声で叫んだりしては)

- (4) 形容詞・形容動詞はカ語尾を用いる。

サムカ (寒い)

アタラシカ (新しい)

リッパカトバ (立派なのを)

- (5) 尊敬の表現として「ナサル」「ナル」「ス」「ラス」「ル」「ラル」がある。

マンゾクナサツトルデスカ (満足なさっているのですか)

イキョラシタ (行っておられた)

- (6) 丁寧の助動詞「マス」の用法はかなり広く、尊敬語の用法といってよいものもある。また、「マ」のあとに促音が入る。

オキヤマッセンカ (お買いになりませんか)

イーマッシェンヨ (言いませんよ)

- (7) 丁寧表現として、助動詞「ヤス」がある。

ヤッテオクレヤスナヨ (やっつけていただきますなよ)

(8) 推量は「ロ」で表す。

イーヨルトヤロ (言っているのだろう)

スル コトニ ナリマスロ (することになりますでしょう)

(9) 否定の過去には、「ジャッタ」がある。

オラジャッタ (いなかった)

(10) 動作進行を「ヨル」、動作完了を「トル」「チョル」で表現し区別する。

共通語にない表現として、動詞「アル」に「ヨル」「トル」がついた「アリヨル」「アトル」が見られる。「オル」に「トル」がついた「オトル」も使われる。

モッテイキヨル (持っていつている)

ダマットル (黙っている)

シキガ アリヨッタ (式があった)

ハジト オモーヨーナ モンモ ソートー オトルトデスネ

(恥と思うような者も相当いるのですね)

(11) 可能表現には、能力可能(表現主体自身の生得または習得能力に基づく場合)と状況可能(表現主体の動作を可能とする条件・状況が外的に存在する場合)の二通りの表現方法がある。能力可能を表す助動詞には、「キル」「ユル」がある。「ユル」の打消の形は「エン」となる。

イキエン (行くことができない)

(12) 様態の表現には、「ゴト」「ゴトアル」「ゴタル」がある。

モッテキテモラウゴト (持ってきてもらうように)

スクナカッタゴタルデスナ (少なかったようですね)

(13) 主格の格助詞に「ノ」「ン」を用いることが多い。

アナタノ シットルヨーニ (あなたが知っているように)

(14) 準体格の助詞「の」に対する形として、「ト」が用いられる。

コマカトバ (小さいのを)

(15) 対格「を」に対応する助詞に「バ」がある。

ムカシナガラノ コトバ (昔ながらのことを)

(16) 手段・方法を表す格助詞「で」に相当する「カラ」が用いられる。

クルマカラ (車で)

(17) 原因・理由を表す順接の接続助詞は「ケン」が用いられる。

ユーデスケン (言いますから)

特に、平戸方言を含む佐世保・北松方言、大村・^{そのま}彼杵方言、島原・^{なんこう}南高方言では、原因・理由を表す順接の接続助詞は「セン (シェン)」を用いる。「センカ (シェンカ)」「センカデ (シェンカデ)」は強調表現である。

モツテイクシェンカ (持っていくから)

(18) 逆接の確定条件を表す接続助詞に「バッテン」「バッテー」「バッテ」がある。「バッテカ」「バッテガ」「バッテカデ」は強調表現である。

カンジトランゴタルデスバッテ (感じていないようですけれど)

イワンガ ヨカカモシレンバッテカデ

(言わないのがいいかもしれないけれども)

(19) 逆接の假定条件を表す接続助詞に「タツチャ」がある。

イクナヨ ッチ ユータツチャ (行くなよと言ったって)

(20) 文末詞「バイ」は自己の判断の確認や、それを相手に穏やかに教示する時に用いられる。

アルバイ (あるよ)

(21) 文末詞「タイ」は客観性の強い事柄、自明の事柄を言明する時に用いられることが多い。

イエオ キヨメタデスタイ (家を清めたのですよ)

アルデスタイ (あるのですよ)

(22) 肯定の応答詞「ナイ」「ナー」は、北部本土方言の特徴的なものである。

ナイ (はい)

ナー (はい)

(以上の解説は、「各地方言収集緊急調査」報告資料をもとに、「全国方言談話データベース」の公開にあたって、新たに作成した。)

長崎県平戸市1983凡例

談話資料は、方言談話音声、方言談話音声の文字化、方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには、ページ単位で切った方言談話音声を、CDには、方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化と共通語訳とは、対照ができるように、上下2段を1組として示した。上段が方言談話音声の文字化、下段がその共通語訳である。ただし、方言の語形と共通語の語形が必ずしも1対1で対応しない場合もあり、方言の語形と共通語訳とがずれている場合もある。

方言談話の共通語訳は、漢字かなまじりで表記した。

文字化については、表音的カタカナ表記を用いている。つまり、長音は「ー」で示し、助詞「は」は「ワ」、助詞「を」は「オ」、助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」はガ行鼻濁音を表す。

この文字化は、時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって、発話の重なりや、複線的な会話の進行の構造などは、文字化からは読み取れない。データを使用する際には、文字化・共通語訳を見るだけでなく、実際に、音声を聞いて判断していただきたい。

また、分かち書き、句読点などは、便宜的なもので、厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における、方言談話音声の文字化の方法は、後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし、今回、「全国方言談話データベース」として公開するにあたり、文字化・共通語訳を整備する際には、当時のマニュアルにはとられず、読みやすさ、意味の取りやすさを優先して処理をした部分がある。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中に、話し相手のあいづちや同じ単語の繰り返しなどが入る場合もある。

発話番号 <半角>

発話の通し番号を、各発話の話者記号の前に付した。

例：1 A

話者記号 <全角>

話者、調査者など、談話の場にいる人物について、A、B、C、D、E、F、……のように、アルファベットで示した。

例：1 A

固有名詞

話者および一般の人名については、文字化・共通語訳の該当個所を、A、B、C、X1、X2、X3などのアルファベットに置き換えた。話者、調査者など、談話の場にいる人物については、A、B、C、D、E、F、……のように示し、話題の中の第三者については、X1、X2、X3、……のように示した。ただし、音声は、該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や、有名人の人名については、記号に置き換えることはせず、個人名を出すことにした。また、会社名、店名、製品名などについても、発言されたとおりに記している。

地名については、そのまま扱うことにした。

記号

。(句点) <全角>

文字化については、ポーズがあって、意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所に句点を打った。ただし、実際の発話では、一文の終わりがわかりにくい場合もある。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス ソーデス

そうです。 そうです。

、(読点) <全角>

文字化については、基本的に息をついた個所、または、ポーズのある個所に読点を打った。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、

意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また、読みやすさを優先して、取り去った場合もある。

例：シ、ヤクショ

市役所

? <全角>

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ?

預けておいて?

↓ <全角>

下降イントネーションと判断した個所。

例：ヨグ ヤッタダナー↓

よく やったんだなあ。

() <全角>

あいづち。ひとりの人が連続して話している時に同意を示したり、さえぎったり、口をはさんだりした個所。

(A ……)のように、開き括弧の次にあるアルファベットは、発言している話者を示す。()の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお、()内のあいづちと、独立した発話として扱ったあいづちに近い発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：(A アー ソーデスカ)

{ } <全角>

笑い、咳、咳払い、間、などの非言語音。

例：{笑}

{咳}

{手を叩く音}

××× <全角>

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

*** <全角>

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ*
お茶漬けの*

/// <全角>

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ モジナンデスナ、
//////// 「文字」なんですね。

[] <全角>

方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン ノセテ
みかん [を] 乗せて

= <全角>

[] 内の=は、意味の説明や、意識であることを示す。

例：イマ ユー
今 いう [=今話題にあがった]

| | <全角>

注意書きなど。

例：| A に対して |

[] <全角>

注記。方言形の意味・用法、特徴的音声などについて説明し、文字化・共通語訳の後にまとめてある。[] 内の半角数字は、注記の番号を示す。

例：ホシツキサンのオモチ [1]

音声

CD-ROMには、冊子のページ単位で区切った方言音声のwaveファイルを収録している。冊子のページをpdfファイルにしたものに、方言音声をリンクさせていて、各ページにある「再生」の部分をクリックすると、そのページの音声を聞くことができる。

CDには、談話全体の音声を収録している。以下にあげるように、適当な個所で、トラックに区切っている。

CDトラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは、方言音声を収録したCDのトラック番号を示している。「長崎12-1」はCDトラック番号が12で、その1ページ目ということである。「長崎12-1」「長崎12-2」……「長崎12-4/13-1」……「長崎25-4」のように表示される。

また、文字化・共通語訳部分には、CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分トラックの切れ目を表し、その両側の数字はトラック番号である。

↑12, 12↑13, ……24↑25, 25↑のように表示される。

第19巻のCD(66分31秒)には、長崎県平戸市の談話、【商いの話、御潮齋、子どものしつけ、世の移り変わり】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行、終了ページ・行、時間は下記のとおりである。行は、文字化の行を表示した。

トラックNo.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間：分：秒
12	p. 119・ℓ. 1	p. 122・ℓ. 7	00：02：04
13	p. 122・ℓ. 9	p. 126・ℓ. 11	00：02：01
14	p. 126・ℓ. 11	p. 129・ℓ. 17	00：02：02
15	p. 129・ℓ. 19	p. 133・ℓ. 13	00：02：00
16	p. 133・ℓ. 15	p. 135・ℓ. 9	00：00：44
17	p. 135・ℓ. 11	p. 139・ℓ. 9	00：02：02
18	p. 139・ℓ. 11	p. 143・ℓ. 1	00：02：02
19	p. 143・ℓ. 1	p. 146・ℓ. 19	00：02：02
20	p. 147・ℓ. 1	p. 148・ℓ. 9	00：00：39
21	p. 148・ℓ. 11	p. 151・ℓ. 17	00：02：02
22	p. 151・ℓ. 19	p. 153・ℓ. 15	00：00：51
23	p. 153・ℓ. 17	p. 157・ℓ. 3	00：02：00
24	p. 157・ℓ. 5	p. 160・ℓ. 7	00：01：59
25	p. 160・ℓ. 9	p. 163・ℓ. 17	00：02：04
計			00：24：32

長崎県平戸市1983談話

収録地点 ながさきけんひらどしおおのちやう
長崎県平戸市大野町

収録日時 1983(昭和58)年1月25日

収録場所 長崎県平戸市大野町

話題 商いの話, 御潮斎, 子どものしつけ, 世の移り変わり

話者

A	男	1905(明治38)年生	(収録時77歳)
B	女	1913(大正2)年生	(収録時69歳)

収録時間 (CD) 24分32秒

【商いの話，御潮齋，子どものしつけ，世の移り変わり】

話し手

A 男 1905(明治38)年生 (収録時77歳)

B 女 1913(大正2)年生 (収録時69歳)

1 A : アトワ ンー クルマカラ オロシアタリニ
あとは うん 車で 卸あたりに

↑12

モッテイクシェンカ〔1〕

持っていくから

ベツニ クツワ カンジトランゴタルデスパッテ
別に 苦痛は 感じていないようだけれど

ソーデスネ トシノコロ ゲンザイ ンー
そうですね 年の頃 現在 うん

ヨンジュー ゴジューグライノ シトノ
40 50くらいの 人が

マー アノー ヨメッテ〔2〕 キテ スグデモ
まあ あの 嫁入って 来て すぐでも

アキナイニ イクッ チュー シトワ スクナカッタゴタルデスナ。
商いに 行く という 人は 少なかったようですね。

2 B : ソーダスヨナ。

そうですね。

長崎 12-2

3 A : ダイタイ アノ コリャ ロクオンサルッシェンカデ [3]
だいたい あの これは 録音されるから

コー コギャン コトワ イワンガ
こう こんな ことは 言わないのが

ヨカカモシレンバツテカデ {笑}
いいかもしれないけれども {笑}

アタシノ ヨメガ ヨメニ キテカラ
私の[息子の] 嫁が 嫁に 来てから

ジュンチハチネン ナル ト オモイマスガ
17、8年[に] なる と 思います

アー ソノー ハナシガ キマッテ エー ナガダチト トモニ
ああ その 話が 決まって ええ 媒酌人と ともに

ソノ ムコーニ リェニ イタ トキノ (B ハー)
その 向こうに お礼に 行った 時の (B はあ)

ハハオヤ イワク オトツツェン アーノー
母親[が] 言うことには 「おとうさん あの

アキナイダケワ ヤッテオクレヤスナヨ ト
商いだけは やってくださいますなよ」 と

コーユー コトオ イワレテ アタシワ ハー ト オモタバツテ
こういう ことを 言われて 私は はあ と 思ったけれど

長崎 12-3

ソリャ イキタクナカ アキナイニ イケ トワ イーマッシェンヨ
「それは 行きたくない 商いに 行け とは 言いませんよ」

ト ホンニンノ ズイイニ マカセマス ト ユーテ
と「本人の 随意に 任せます」と 言って

ユータコトデシタガ
言ったことでしたが

ソノゴ ンー シゴネンモ タタン ウチニ
その後 うん 4、5年も 経たない うちに

カナイガ ビョーインニ ニューインシタラ
家内が 病院に 入院したら

マ ナニオ カンジタカ アキナイニ キタ ト ユーテ
まあ なにを 感じたか 商いに 来た と 言って

ビョーシツオ タズネテ カエッタデスガ
病室を 訪ねて 帰ったのですが

ヤッパー ナルレバ[4] マ イキタクナッタモンカ
やっぱり 慣れれば まあ 行きたくなったものか

アルイワ ンー シェッカク ツクッタ ヤサイガ アー
あるいは うん せっかく 作った 野菜が ああ

アマットッテ エー クサルルヨー
余っていて ええ 腐るよう[な]

長崎 12-4 / 13-1

クサルル ッテ ユータラ ゴヘイノ アッデスバツテ
腐る っ て 言ったら 語弊が あるのですけれど

イタマン ウチニ マ カネニ ショー ト オモッテ
傷まない うちに まあ お金に しよう と 思って

エー ウリ キタカ シランダスケレドモ
ええ 売り[に] 来たのか 知らないですけれども

ソギャンフーニ アーノー ナッテ
そんなふうにあの なって

12↑13

アキナイニ キタ ト オモイマスバツテ ナニカシラン
商いに 来た と 思いますけれど どういうものか

シューシン ゴジェ〔5〕デモ モー アキナイニ
一生 妻でも もう 商いに

イク ッチュー コトワ アー オヤモ ホンニンモ
行く という ことは ああ 親も 本人も

コー ハジト オモーヨーナ モンモ
こう 恥と 思うような 者も

ソートー オットル〔6〕トデスネ。
相当 いるのですね。

4 B : ナー〔7〕 アタシタチモ ハズカシゴザシタ (A {笑})
はい 私たちも 恥ずかしくございました (A {笑})

長崎 13-2

モー ハジマリャ。(A ソーデスカ) ハー
もう 初めは。(A そうですか) はあ

バッテ ナンノ (A ウン) ニサンネン イキヨレバ
しかし なんの (A うん) 2、3年 行っていれば

(A ンー) オモシロ ナッテキテ。
(A うん) おもしろく なってきて。

5 A : イマワ ソレカラスルトユート モー
今は それからするというと もう

クルマカラバカリデッセンネ。(B ソー)
車でばかりですからね。(B そう)

ソシテ アノ オロシヤニ モッテイクトデ
そして あの 卸屋に 持っていくので

エー アーノ ナンテ イーマスカナ アリャ ンー
ええ あの なんて 言いますかね あれは うん

バラ〔8〕ニ オイノーテ〔9〕 ソシター
かごに 荷物を背負って そして

ダイコンワ ア ヨゴザスカ〔10〕
「大根は ああ よろしいですか〔=いりませんか〕。

ア ナッパワ ヨゴザスカ
ああ 菜っ葉は よろしいですか〔=いりませんか〕」

長崎 13-3

ッチューテ ウリサラク [11] ト
と言って 売り歩く と

アレワ フリウリ [12] ッチ ユーデスケン。
あれは 振り売り と 言いますから。

6 B : フリウリ
振り売り

7 A : フリウリナ (B ナー) アギャン スル モンガ
振り売りね (B はい) あんなに する 者が

アノ スクノーナッタデスタイネ。(B イマ)
あの 少なくなったのですよね。(B 今)

ムカシワ モー アキナイ ッテ イエバ
昔は もう 高い と いえば

ソレバッカリデスモンネ。(B ソーデシタバッテナー)
そればかりですものね。(B そうでしたけれどね)

ナナー ナナ ヨゴザッセンカー ト
「菜は 菜は よろしいですか [=いりませんか]」 と

オキヤマッセンカー ト コー マチナカオ アーノー
「お買いになりますか」 と こう 町中を あの

ユーテ ウッテ サルキヨッタデスモンネ。
言って 売って 歩き回っていたのですものね。

長崎 13-4

8 B : モト ホラ マチノ ミチノ セボーゴザシタローガ。
もと ほら 町の 道が 狭うございましたでしょう。

(A ソ ソーデス ソーデス) ソレデ リョーホーニ

(A そう そうです そうです) それで 両方に

(A ハイ) キコエテ ヨカッタッテスバッテ (A ソーデス)

(A はい) 聞こえて よかったのですけれど (A そうです)

イマワ デ[13] ミチノ ヒロカモンセン

今は ほら 道が 広いもので

9 A : カタガワダケシカネ
片側だけしかね

10 B : ハイ ハイ オロデ[14]ドモワ イカレン (A ソーデス)
はい はい 大声で叫んだりしては 行けない (A そうです)

{間} ソコノ ホーノ チガイガ アル。

{間} そのの ほうの 違いが ある。

11 A : バッテ ヤッパ アノ アナタガ サッキ ユータ
しかし やっぱり あの あなたが さっき 言った

アジオ ヒトタビ オボユリエバ アノ イキトーナルトデショーネ。

味を 一度 覚えれば あの 行きたくなるのでしょうね。

12 B : ソーデシタヨ。
そうでしたよ。

13A : ウチノ ウチノ カカーガ シチジュー
私の 家の 妻が 70

アケテ ゴデスネ (B ナー)

[年が]明けて [7]5 [歳]ですね。(B はい)

サムカ トキデモ コー ソノ モー バラニ バラオ
寒い 時でも こう その もう かごに かごを

イノーテ アキナイニャ イキエンデスケド
背負って 商いには 行くことができませんけれど

ミギ ヒダリニ アナタノ シットルヨーニ サゲテネ
右 左に あなたが 知っているように さげてね

(B ナー) ソシテ ソノー

(B はい) そして その

13↑14

ムカシカリャノ オトクイサンニ モッテイクデスガ
昔からの お得意さんに 持っていくのですが

モー コギャン サムカトニ イクナヨ ッチ ユータッテャ
もう こんなに 寒いのに 行くなよ と 言ったって

モー ジョーシキ(15)シテ イクデスネ (B ナー)

もう 言うことを聞かないで 行くのですね (B はい)

ソリャ アノ カネ トル ッテ ユー コトヨリモ
それは あの お金[を] 取る と いう ことよりも

長崎 14-2

ダマツトルヨリモ ソーユーフーニ シタカ ト ユーフーナ
黙っているよりも そういうふうに したい と いうような

キブンガ サキニ タツトルッチャナカロカイ ト オモエテ
気分が 先に 立っているのではないだろうか と 思って

マー ソーユー コトニ チカゴロ ハヤリノ コトバデ イエバ
まあ そういう ことに 近頃 流行の ことばで 言えば

イキガイオ カンジテ シヨルッチャナカロカイ ト
生きがいを 感じて しているのではないだろうか と

マ アタクシワ オモートナ。
まあ 私は 思うのよね。

14B：ソーユー トコロジャ ナカ。
そういう 程度では ない。[もっと生きがいを感じていた。]

15A：マー イチメンカラ ユート オー マ サイキンノヨーニ
まあ 一面から 言うと おお まあ 最近のように

コユキガ チラツイテ サムカ トキニ
小雪が ちらついて 寒い 時に

ミギ ヒダリニ ソノ サゲテ アキナイニ イク コトワ
右 左に その さげて 商いに 行く ことは

ミカタニヨッチャ マ ミジメナ アー
見方によっては まあ みじめな ああ

長崎 14-3

フーケイニ ミユルカモシレンバツテカデ
風景に 見えるかもしれないけれども

ホンニンニ ナレバ ソージャ ノーシテ
本人に なれば[=してみれば] そうでは なくて

コー ンー ダマツトツツテ カネワ ハイッテコンシェン
こう うん 黙っていて お金は 入ってこないから

ソー ワズカナ カネデモ ト ユーフーナ アー コトデ
うん わずかな お金でも と いうふうな ああ ことで

マ イキガイオ カンジテ イキヨルトカモシレン ト
まあ 生きがいを 感じて 行っているのかもしれない と

ワタクシワ ダマーテ ナガメトルデスバツテカデ {咳}
私は 黙って 見ているのですけれども {咳}

16B : ヤッパ ソノヒト ソノヒトデ ナンナイト
やっぱり その人 その人で なんなりと

コー タノシミノ ナカラジャスセンノ
こう 楽しみが なければいけないですからね

(A ソーデスタイナ)

(A そうですよ)

ソーシテ サゲテイクトモ (A ハイ) タノシミノ イッチョ
そうして さげていくのも (A はい) 楽しみのも 一つ

長崎 14-4 / 15-1

イロイロ ヤッパ モ ソレゾレニ タノシミオ ミツケテ
いろいろ やっぱり もう それぞれに 楽しみを 見つけて

(A ソーデスネ) クラシチョシタ。

(A そうですね) 暮らしていました。

17A : ソレワ モー ヒトーオーオノ チガウカラデ アノー
それは もう 人それぞれ 違うからで あの

アキナイニワ イカズニ チカゴロ サカンニ パートデネ
商いには 行かずに 近頃 盛んに パートでね

(B ソー) イク オンナノ ヒトモ オル

(B そう) 行く 女の 人も いる

マタ イジェントシテ ワガヤニ デキタ アー
また 依然として 自分の家に できた ああ

ミカントカ ヤサイオ ウリユク シトモ オノオノ
ミカンとか 野菜を 売り行く 人も それぞれ

オルデスガ (B ドーシテデショカ)

いるのですが (B どうしてでしょうか)

シカシ モー イッタイニ イッテ ダイブン
しかし もう 一般的に 言って だいぶん

14↑15

ワズカ アーノー シゴジューネンノ ウチニ
わずか あの 4、50年の うちに

長崎 15-2

オーキナ カワリカタオ シトルデスナ。
大きな 変わり方を していますね。

18B : ソーダスヨ。 イマデモ ケシズミ [16] ジャ ナンジャンノ
そうですよ。 今でも 消炭や なにやを

ウルル トコロノ アルッチャス ッチ ユーモンナ。
売る 場所が あるのです と 言うものね。

19A : エー アタシ キョーワ アノー ムスコニネ (B ウン)
ええ 私[は] 今日は あの 息子にね (B うん)

アノー ドコマデ モッテキテクレル
あの 「どこまで 持ってきてくれる

サキニ アノー ゴトーシェイケイゲカニ イタルカラ
先に あの 後藤整形外科に 行くから」

ツチューテ (B ハイ ハイ) デテクル トキニ
と言って (B はい はい) 出てくる 時に

イーヨッタデスタイ。
言っていたのですよ。

20B : タダ イキヨラス ト オモートツタバッテ
ただ 行っておられる と 思っていたけれど

(A イーエ アノー) アー ムスコサンガ モッテイカス
(A いいえ あの) ああ 息子さんが 持っていかれる

長崎 15-3

21A : X1ニ ムスコニ ソノ テーラー〔17〕デ
X1に 息子に その テーラーで

モツテキテモラウゴト (B ハー)

持ッてきてもらうように (B はあ)

ソノ ジャガイモト {笑} ソイカラ {笑}

その ジャガイモと {笑} それから {笑}

アーノー ナッパト ソリエカラ モクタンノ ケシズミトネ。

あの 菜っ葉と それから 木炭の 消炭とね。

22B : ナー ソーデシタナ。

はい そうでしたね。

23A : アーノー インショクテンニ ネ (B ソーダスタコト)

あの 飲食店に ね (B そうでしたこと)

アノ コジンジャナクテ インショクテンニ イチニケンカラネ

あの 個人ではなくて 飲食店に 1、2軒からね

(B ナー) アノ サイソクサレタシェン モツテイカニャ

(B はい) あの 催促されたから 持ッていかないと

ユーテデスナ。

[と]言ッてですね。

24B : ソーデスナ。 ソレデ アノ マーチ イキヨケリャ

そうですね。 それで あの 町[を] 行ッていると

長崎 15-4

アノヒト コノヒト ヤッパリ (A ソー ソーデス)
あの人 この人 やっぱり (A うん そうです)

タノム ヒトノ デケテクッチャスモナ。
頼む 人が できてくるのですものね。

25A : アーノー モチ ツクトニワ ダイブン タキモンオ タクシ
あの 餅[を] つくのには だいぶん 焼き物を 焼くし

マ ムカシノヨーニ タクサンワ タカン
まあ 昔のように たくさんは 焼かない

アノ モチワ ツカンドスケリェドモ
あの 餅は [たくさんは]つきませんけれども

ヤッパ アーノー イット[18]アマリ ニトチカク
やっぱり あの 1斗あまり 2斗近く

ツクデッシェンナ (B ソー) ケシズミガ
つきますからね (B そう) 消炭が

タイシタモン アルデスタイ。(B ソーダスヨナ)
たいした量 あるのですよ。(B そうですよね)

ソレオ イチイチ アノ トッテ アーノ
それを いちいち あの 取って あの

キレイニ コー フルイニ カケテネ (B ナー)
きれいに こう ふるいに かけてね (B はい)

コマカトバ アーノ ノゾイテ エー
小さいのを あの 除いて ええ

フトカトバ リッパ フトカトノ リッパカトオ
大きいのを 立派 大きいので 立派なのを

ソノー モッテイキヨルワケデスヨ。
その 持っていつているわけですよ。

デ アギヤントデモ アーノ イクラ ソノ
それで あんなものでも あの いくら その

ヒジョーブクロニ イレテ モッテイキヨルデスガ
非常袋に 入れて 持っていつているのですが

アレ ヒトフクロ イクラスルカ
あれ 1袋 [消炭の値段が]いくらするか

ソリャ キカンデスパッテカデ {笑} (B ナー)
それは 聞かないですけども {笑} (B はい)

15↑16

アーノー モクタンヨリモ オー
あの 木炭よりも おお

ツカイドコロニヨッテリャ モクタンワ アノ
用途によっては 木炭は あの

クワリョクノ ツヨカロ? (B ソーダス)
火力が 強いだろう? (B そうです)

長崎 16-2

ソレデ アノ オトナシー〔19〕 クゥリョクオ
それで あの 弱い 火力を

ヒツヨート、スル モンワ モクタンガ ヨカトデスヨ。
必要と する ものは 木炭が よいのですよ。

(B ヨカ トコナ) ヤ ヤスカカラジャ ノーシテ
(B よい ところね) × 安いからでは なくて

ソノ ナニカオ アイ スンノニ モクタンヨリモ アノ
その なにかを あれ するのに 木炭よりも あの

ケシズミノ ホーガ ヨカシェンカデ
消炭の ほうが よいからで

ソーユーフーニ イーヨルトヤロ。
そういうふうに 言っているのだろう。

26 B : アノ ケシズミニナラ スグ ヒノ ツクッチャスモン。
あの 消炭になら すぐ 火が つくのですもの。

27 A : ソーデス。
そうです。

28 B : バッテ モクタン ソノモノニャ ヨーイニャ
けれども 木炭 そのものには 簡単には

ツカンチャスモナ。
つかないのですものね。

29A : ソーユー コトデス。

そういう ことです。

30B : イチオー ケシズミオ イレテ ツケテカラ

一応 消炭を 入れて [火を]つけてから

モクタンバ (A ハー) ノスルト

木炭を (A はあ) 載せると

ヨー モクタンニ ヒガ ウツル (A ハー)

よく 木炭に 火が 移る (A はあ)

ソーユー トコロガ アッデスモナ。

そういう ところが あるのですものね。

16↑

— 中 略 —

31A : アーノー キタ トキニ ベンジョニ イク トキニ

あの 来た 時に 便所に 行く 時に

↑17

アーノー オコジンサン[20]ノ ワキワ フツー

あの 荒神様の 脇は 普通

オトシノハシラ[21] ッテ ユーデスタイネ。

おとしの柱 と 言いますよね。

ダイコクバシラノ (B ソーダスナ) ツギニ オーキー

大黒柱の (B そうですね) 次に 大きい

長崎 17-2

オトシノハシラネ。(B ナー) ソノワキニ オコジンサンワ
おとしの柱ね。(B はい) その脇に 荒神様は

カミダナオ オイトルデショ。(B ソー) ソノワキニ
神棚を 置いているでしょう。(B そう) その脇に

オシオイ〔22〕タゴ〔23〕 ネ (B ソーデシタコト) オ
御潮齋タゴ ね (B そうでしたこと) を

アノ カケトッタワケ (B ハー)
あの 掛けていたわけ (B はあ)

ソシタラ アノー X2チョーチョーノ ウチモ
そうしたら あの X2町長の 家も

タビラ〔24〕デワ キューカノハズバッテ アスコニ モー
田平では 旧家のはずだけど あそこに もう

ナカッタトジャロダイ (B ハー ソーデシタナー)
なかったのだろうね (B はあ そうでしたね)

オシオイタゴンナ コリャ メズラシ モンノ アルバイ
御潮齋タゴのね 「これは 珍しい 物が あるよ」

ッテ ユーテナ (B ナー)
と 言ってね (B はい)

ソシテ ソノ ザシキニ オル モンニ コー モッテキテ
そして その 座敷に いる 者に こう 持ってきて

長崎 17-3

コレ ミンナ シットルカー ッチ ユーテナ。(B ンー)
「これ みんな 知っているか」と 言ってね。(B うん)

ソノ オーノ [25]アタリン モナ シラン モナ
その 大野あたりの 者は 知らない 者は

オランバッテナ (B ソーデショナー)
いないけれどね (B そうでしょうね)

ヒジョーニ メズラシガッター ソリャー マタナ
非常に 珍しがっていた[のは] それは またね

ソリャー モー ジューヒチハチネンマエノ コトデスヨ。
それは もう 17、8年前の ことですよ。

(B ソーダスコト) バッテ コトシマデワ
(B そうですこと) しかし 今年までは

ゴジューハチネンノ イチガツ イチジツマデワ
[昭和]58年の 1月 1日までは

オシオイオ トッテ ナ アーノー マ ア
御潮斎を とって なあ あの まあ ああ

イエオ キヨメータデスタイ。
家を 清めたのですよ。

ソギャン コトモ オーノニ イマ アーノ
そんな ことも 大野に 今 あの

長崎 17-4

ムカシナガラノ コトバ スル シトノ
昔ながらの ことを する 人が

ナンゲン アルトジャロカ ト (B ソーダスナー) オモッテ
何軒 あるのだろうか と (B そうですね) 思っ

チョット イマントコロワ アーノー
ちょっと 今のところは あの

アタシガ コドモノ トキマデワ アーノー
私が 子どもの 時までは あの

ツイ サイキンマデワ X3ガ シヨッタデスタイネ。
つい 最近までは X3が していたのですね。

ソリエカラ アーノー X4サンガ ヤリヨッタ
それから あの X4さんが やっていた

(B ソーダスロ) ソリエカラ アーノー
(B そうでしょう) それから あの

X5サンモ ヤリヨッタバツテカデ
X5さんも やっていたけれども

イマー ダーイモ シヨラントジャナカロカイ
今は だれも していないのではないだろうか

ト オモッテ
と 思っ

32B : アタクシン ガタワ オシオイタゴガ ウックエテ [26]

私の 家は 御潮齋タゴが 壊れて

(A ハイ) ソッテ ホカノ スイトー モッテ (A ハイ)

(A はい) それで ほかの 水筒を 持って (A はい)

オシオイクミニ イキヨットヤスバイ。(A ソーデスカ)

御潮齋汲みに 行っているのですよ。(A そうですか)

オシオイワ アノ モチト ナント (A ンー)

御潮齋は あの 餅と なにと (A うん)

チンジュサマ [27]ニ オサメテ [28] (A ンー ソーデスネ)

鎮守様に 納めて (A うん そうですね)

17↑18

オシオイワ (A ウン) トテ エホガ

御潮齋は (A うん) とって // //

33A : ソレデ アタクシワ ツクズク コトシ

それで 私は つくづく 今年

カネテ ソノ ンー ゴジューニナル ムスコガ

かねて その うん 50[歳]になる 息子が

ジブンノ セニャナラン コトトシテ エー

自分の しなければならない こととして ええ

オミヤデ ブラクノ シンネンクワイガ アルデショ

お宮で 集落の 新年会が あるでしょう

長崎18-2

(B ナー) ソシテ カエッテキタリヤ

(B はい) そして 帰ってきたら

カナラズ アーノ オシオイトリニ イキヨッタバツテガ
必ず あの 御潮齋とりに 行っていたけれど

コトシ イカンモンナ (B ナー)

今年[は] 行かないものね (B はい)

ソイシンカデ エー アタシャ カカニ ソノ
それだから ええ 私は 妻に その

コトシワ X1ワ イカンバイネー ッテ

「今年は X1は 行かないのよね」と

コー アタシガ ユータリヤ

こう 私が 言ったら

ンニヤ アタシガ イキマスヨー ッテ ユーテナ

「いいえ 私が 行きますよ」と 言ってね

(B ナー) アナタガ サッキ ユータ ソノ

(B はい) あなたが さっき 言った その

リュウグサマ〔29〕ニ アレスル

竜宮様に あれする [= 供える]

コモチ フタツトネ (B ナー)

小餅 二つとね (B はい)

長崎 18-3

スルメ コンブオ ソノー オテガケ〔30〕ガミニ
スルメ コンブを その 御手掛け紙に

ツツンデ ナ (B ナー) アリエモ アノー マ
包んで ね (B はい) あれも あの まあ

イチマイワ アー キライゴト キョージノ トキデ ナカリャ
1枚は ああ 嫌い事 凶事の 時で なければ

イチマイガミワ ツカワン ト ネ (B ソーダシタ)
一枚紙は 使わない と ね (B そうでした)

ヨカ コトニワ カナラズ チーサイ モンオ ツツムニモ オー
よい ことには 必ず 小さい 物を 包むにも おお

ニマイ ツツム ッテ ユーフーナ コトデ (B ナー)
2枚〔で〕 包む と いうふうな ことで (B はい)

ソノー ニンミャー アタラシカ カミニ ツツンデ
その 2枚〔の〕 新しい 紙に 包んで

エー カカガ オシオイトリニ イタデスタイ。
ええ 妻が 御潮齋とりに 行ったのですよ。

(B ナー) ソシテ トッテキタト。

(B はい) そして とってきたよ。

マズ ダイイチニ アノー イエイエデ チガウカシランパツテ
まず 第一に あの 家々で 違うかもしれないけれど

長崎 18-4

ウチワ ジーノ ジダイカラ マズ ソー
私の家は 祖父の 時代から まず うん

イナリサマ[31] (B ナー) ナ アノ イナリサマー
稲荷様 (B はい) ね あの 稲荷様は

カナラズ イエノ ソトニネ (B ソーダシタナ)
必ず 家の 外にね (B そうでしたね)

アノー ホコラオ ツクットルシェンカデ
あの 祠を 作っているから

ソコニ イテ エー ソノ オシオイオ アゲテ
そこに 行って ええ その 御潮齋を あげて

ソリエカリャ アノ カドグチオ キヨメ
それから あの 門口[=玄関]を 清め

ソシテ カミサマノ カミダナノ マエニ コッ (B ナー)
そして 神様の 神棚の 前に こう (B はい)

エー ソノー コーヤッテ ソシテ アーノ シタトデシタガ
ええ その こうやって そして あの したのですが

マ ソーユートモ ムカシノ コトデ
まあ そういうのも 昔の ことで

ハタシテ オーノニ ゴジッケンアマリ イエガ ノコットルガ
果たして 大野に 50軒あまり 家が 残っているが

イマニ ソーユーフーナ アー
今でも そういうふうな ああ

18↑19

グワンジツニ オシオイオ トツタリ
元日に 御潮齋を とったり

アルイワ アー イエニ フコーガ アッタ トキニ
あるいは ああ 家に 不幸が あった 時に

シジュークンチノ ヒガ アケテ
四十九日の 日が 明けて

ゴジューニチノ アサワ オシオイオ クンデ
五十日の 朝は 御潮齋を 汲んで

ソギャン スル シトガ ナンゲン アルトジャロカ
そんなに する 人が 何軒 あるのだろうか

ト オモテ オモーデスネ。
と 思っ て 思 う の で す ね 。

34B : サー イエイエノ コトガ アンマリ
さあ 家々の ことが あんまり

ワカランシェンジャスバツテナ
わからないからですけれどね

ナンゲングリャー シャースローカーナ。
何軒くらい されるでしょうかね。

長崎 19-2

35A : ソー マー ソゲン コトワ セニャナラン コトジャー
そう まあ そんな ことは しなければならない ことでは

ナカ。 ソノシトノネ スキズキデ スル コトシェンカデ
ない。 その人のね 好き好きで する ことだから

バッテ アーユー コト ワタシワ アーノー マゴガ
しかし ああいう こと 私は あの 孫が

チューガクサンネン ナットルトノガ アーユー モンガ ナガメテ
中学3年[に] なっているのが ああいう 者が 眺めて

ドギャン オモーカ シランバッテ
どんなに 思うか 知らない[=わからない]けれど

アタクシワ ムカシカラノ マー ヨカ アーノー
私は 昔からの まあ よい あの

シュークゥント アタクシワ オモートルDESTAIネ。
習慣と 私は 思っているのですよね。

36B : ソーダスナ。 ナーンニモ セズニ (A ソッデ)
そうですね。 なにも せずに (A それで)

タダ ニンゲンノ クタリ ノーダリ (A ソー)
ただ 人間は 食べたり 飲んだり (A そう)

バカリデネージャスナ [32]。
ばかりでないですね。

長崎 19-3

37A : イマワ ソレガ オモジャンナ ナ
今は それが 主だものね ね

38B : ケジメノ ツカンゴタ (A ソーデス) ナー
けじめが つかないようだ (A そうです) はい

39A : ショーグッツガ アリ オクンチ[33]ガ アリ
正月が あり おくんちが あり

オボンガ クル ッテ ユー コトワ
お盆が 来る と いう ことは

ナニカ アノー ケジメオ ツクル タメニ アルトデ
なにか あの けじめを つける ために あるもので

イチネン サンビャクロクジューゴンチ イッチョー
1年 365日 少しも

ナンノ マイニチ カワラントバツテナ (B ソー)
なんの 毎日 変わらないけれどね (B そう)

イチネンワ サンビャクロクジューゴンチトシテ
1年は 365日として

エー イロイロ オマツリガ アリ エー シェックガ アリ
ええ いろいろ お祭りが あり ええ 節句が あり

オボンガ アリ ッチ ユー コトワ ナニカ コー
お盆が あり と いう ことは なにか こう

長崎 19-4

ケジメオ ツクル タメノ オー アカシトシテ アル モン ッテ
けじめを つける ための おお 証しとして ある もの と

アタクシワ オモーデスタイ。
私は 思うのですよ。

40 B : ソーダスナ ヤッパ コドモモ オヤ トシヨリノ スル コトワ
そうですね やっぱり 子どもも 親 年寄りの する ことは

ミテ トーリョル(34)シェンカデ
見て 覚えているから

41 A : ミテ トーリョンシェンカデ
見て 覚えているから

42 B : マ サーキザキデ スル コトニ ナリマスロ。
まあ 先々で する ことにな りますでしょう。

(A {笑}) {笑}
(A {笑}) {笑}

43 A : マ ハタシテ ドーカシラン モー
まあ 果たして どうだろう もう

44 B : イマ アタシガ ホトケサマニ イロイロ スルト
今 私が 仏様に いろいろ すると

モー フタリノ ヒンマゴガ チートッテ (A ハー)
もう 二人の ひ孫が くっついていて (A はあ)

19↑

長崎 20-1

オセンコー オセンコー ユーテ (A ソーデスナ)
「お線香 お線香」 [と] 言って (A そうですね)

↑20

スルッテスバイ。
するのですよ。

ソイシェンカデ ヤッパリ イエノ ウチノ モンノ
それだから やっぱり 家の うちの 者が

シテミシェレバ コドモモ {笑} (A ソーデスネ)
してみせれば 子どもも {笑} (A そうですね)

ヨー ミトリヤスヨ。(A ハー)
よく 見えていますよ。(A はあ)

ヨンベワ カネマデ トッテ マイッチョ ナカリヤ
昨晩は 鉦まで とって、 もう一つ ないから

フチャーリガ モタンモンセン (A ハー)
二人が 持っていないものだから (A はあ)

ヨーヨ カネ フタツ ミツケテ
ようやく 鉦[を] 二つ 見つけて

ナカナオリ サセタッテスバイ。
仲なおり させたのですよ。

45A : シー アー ジブンガ カナラズ ソノ
うん ああ 自分が 必ず その

46B : シー カネバ タタク (A シー タタクテネ)
うん 鉦を 叩く (A うん 叩くとね)

メンメンニ。(A シー) ソーテ イーデァータラ
めいめいに。(A うん) そして 言い出したら

フタリトモ キカンモンセン (A ソーデスナ)
二人とも 聞かないものだから (A そうですね)

ソシテ ヤッパリ イエノ ウチノ トシヨリノ スルトワ
そして やっぱり 家の うちの 年寄りが することは

ヨー ミトット。(A ソーデスネ)
よく 見ているよ。(A そうですね)

20↑

— 中 略 —

47A : オカーサントチニ アタシノ イ、イータイ コトワ
おかあさんたちに 私の × 言いたい ことは

↑21

アノ アマリニモ アノ コドモニ アマカデスネ。
あの あまりにも あの 子どもに 甘いですね。

アナタワ ソギャン カンジンデスカ。
あなたは そんなに 感じないですか。

アナタノ ヨメサン (B ナー)
あなたの[息子の] お嫁さん (B はい)

長崎 21-2

アルイワ マゴヨメサンノ コドモニ タイスル シツケノ シカタ
あるいは 孫のお嫁さんの 子どもに 対する しつけの しかた

ハハオヤトシテノ アリカタニツイテ マンゾクナサツトルデスカ
母親としての あり方について 満足なさっているのですか

ンー ドギャン オモーデスカ。
うん どんなに 思いますか。

48B : ドーモ コモ オモチャノ フェテジャスナ。(A アノ)
どうも こうも おもちゃが 増えてですね。(A あの)

ナニモカモ コーテヤッモン
なにもかも 買ってやるもの

49A : オモチャノ フユル コトワ アノ マ
おもちゃが 増える ことは あの まあ

トキノ ナガレデッショバツテカデ
時の 流れでしょうけれども

50B : ドーモ コーモ オモチャノ フェテ (A マ アーノー)
どうも こうも おもちゃが 増えて (A まあ あの)

フターリ オナシ モン ホシカ ッテ ユーモンシェン
二人 同じ 物[を] 欲しい と 言うものだから

ナンチャ フターツズツ カウ
なんでも 二つずつ 買う

長崎 21-3

51A : ソ ソリャ ドシテ アイナカ [35] ガナ (B ウン)
そう それは どうして [年齢の] 間がね (B うん)

アノ チカイカラ トーゼンノ コトデッショバツテ
あの 近いから 当然の ことでしょうけれど

ソノー アタクシワ オモチャオ コーテ アタエルニ セロ
その 私は おもちゃを 買って 与えるに しろ

アルイワ アノ イワユル ジョーシキスル トキニ ノ
あるいは あの いわゆる 言うことを聞かない 時× の

キメカタ [36] ア イーカタニツイテ
叱り方 ああ 言い方について

ドーモ サイキンノ ハハオヤワ アマスギッ ト
どうも 最近の 母親は 甘すぎる と

マ コーユー コト ユートモ ワッカ モンカラ
まあ こういう こと[を] 言うのも 若い 者から

キラワルルバツテ ソーユーファーニ アノ カンジンデスカ。
嫌われるけれど そういうふうに あの 感じないですか。

タトエバ ビョーインニ イクデスネ (B ナー)
たとえば 病院に 行きますね (B はい)

ソースルトユート ハハオヤガ ワキニ オリナガリヤ
そうするというと 母親が そばに いながら

(B ナー) ナ アノ コドモガ イタズラシタリ

(B はい) ね あの 子どもが いたずらしたり

ワンパクズイタリ [37] スル コトワ

遊び回ったり する ことは

モー アタリマエナ コトジャンナ (B ソーダス)

もう あたりまえな ことですね (B そうです)

ソレオネ ハハオヤワ ナガメテ ナーントモ ユワン

それをね 母親は 眺めて なんとも 言わない

(B ハー ソージャスナー)

(B はあ そうですね)

アタクシャ ソレガ モー キョクロンカモシレンバッテ

私は それが もう 極論かもしれないけれど

ナットラン トネ

なっていない とね

52B : マチアイショデジャスナ?

待合所ですね?

53A : マチアイショデ ナ (B ナー)

待合所で ね (B はい)

21↑22

ナットラン ト オモーデスタイネ。

なっていない と 思うのですよね。

長崎 22-2

ソシテ イリヨイリヨ オクッシオ モッテ ニ
そして いろいろ お菓子を 持って ×

アノー ニギッテ クーデショ (B ナー) ナ
あの 握って 食べるでしょう (B はい) ね

アルイワ ジュースオ モッテ ノムジャロ (B ナー)
あるいは ジュースを 持って 飲むだろう (B はい)

テワ ベタベタ シトルトニ
手は ベタベタ しているのに

ワーキアタリニ コー ヒツク ナ
脇あたりに こう くっつける ね

54 B : ヒツケテ サラク。
くっつけて 歩き回る。

55 A : ワザト ヒツケテ サラカンバッテ
わざと くっつけて[は] 回らないけれど

コースルデスタイネ。(B ナー) サギョーギ キテニャ
こうするのですよね。(B はい) 作業着[を] 着ては

ビョーインニャ イカントシェンカデナ (B ソー)
病院には 行かないのだからね (B そう)

ソレコソ イッチョラ[38] キテ
それこそ 一張羅[を] 着て

ビョーインニ イク モンモ オランダスバツテ ナ
病院に 行く 者も いないですけどね

ソーユー トコロワ ハハオヤガ タシナメレバ ヨカバツテ
そういうところは 母親が たしなめれば いいけれど

マ タシナムル シトモ オルデスタイ (B ナー) ネ
まあ たしなめる 人も いますよ (B はい) ね

ジューニンガ ジューニン ソゲン シトバカリ オランバツテ
10人が 10人 そんな 人ばかり[は] いないけれど

モ ダイタスーノ シトワ モー ホッタラカシ
もう 大多数の 人は もう ほったらかし

56B : ソーダスナ (A ナ) ヤッパイ ヒトン ナキャ
そうですね (A ね) やっぱり 人の 中に

イテミレバ ワカリャスナ。
入ってみれば わかりますね。

57A : ソーデスタイ。
そうですね。

22↑

— 中 略 —

58B : イロイロノ ヨノ ウツリカワリワ
いろいろな 世の 移り変わりは

↑23

長崎 23-2

カンガエテミレバ ミルシコ [39] (A ソー ソーデスナ)
考えてみれば みるほど (A うん そうですね)

カワテシモタ。
変わってしまった。

59A : ソデ アノー マ クラシヨカ アリガタイ ヨノナカニャ
それで あの まあ 暮らしよい ありがたい 世の中には

ナットルトデスネ。 (B ソーダスヨナ)
なっているのですね。 (B そうですね)

バッテ アタクシワ イチドン アリガタイトワ アノ {笑}
しかし 私は 一度も ありがたいとは あの {笑}

(B {笑}) オモワントナ (B ナー) ナ。
(B {笑}) 思わないのね (B はい) ね。

ソノ ショーコワ ムカシワ アノー フクソーオ ミリエバ
その 証拠は 昔は あの 服装を 見れば

ヒンプノ サガ ワカリヨッタデショ。 ネ。
貧富の 差が わかっていたでしょう。 ね。

(B ソリャ ドーシテナー)
(B それは どうしてね [=わかりますね])

ガッコーノ コドモノ ツーガクスル フクソー
学校の 子どもが 通学する 服装

長崎 23-3

モチモンナドー ミテモ アー
持ち物などを 見ても ああ

ココノ ウチワ アー カネモチノ コドモナー
ここの 家は ああ 金持ちの 子どもだな

ココワ ビンボーニンノ コドモナー ト
ここは 貧乏人の 子どもだな と

コー スグ ワカリヨッタDESTAIネ。
こう すぐ わかっていたのですよね。

イマワ バッテカデ カネモチモ ビンボーニンモ
今は しかしながら 金持ちも 貧乏人も

マ シェイフク マ チューガッコー コーコーワ
まあ 制服 まあ 中学校 高校は

シェイフクバッテ ソージャナカ ショーガッコーノ
制服だけど そうではない 小学校の

フクソー ミテデモ オー フクソー ミタッテャ
服装[を] 見ても おお 服装[を] 見たって

ヒンプノ サワ ワカランデスヨ。
貧富の 差は わからないですよ。

アタシドモワ モー ビンボージャッタモンナシェンカデ
私などは もう 貧乏だったものだから

長崎 23-4

アーノ イマゴロン コドモワ シランジャロナー
あの この頃の 子どもは 知らないだろうな

ツギハギモン チューテ ガラガ ネ (B ソーダスナ)
つぎはぎ物 といって 柄が ね (B そうですね)

チガウ ヤツオ アノー キセテ イカレヨッタデスヨ。
違う やつを あの 着せて 行かされていたのですよ。

60B : タイテーガ タイテーガ ツギハギ
たいていが たいていが つぎはぎ[の服を]

(A ソリエカリヤ) キチヨラシトッタナ。

(A それから) 着ていましたね。

61A : アノー ショーガッコノ ジンジョークウノ コドモデ
あの 小学校の 尋常科の 子どもで

ハカマ キテユク コドモワ ヒドー
袴[を] 着ていく 子どもは あまり

アタシドモワ ガ ガッコーニ ズル トキニワ
私たち× が 学校に 出る[=行く] 時には

オリジャッタデスネ。

いなかったですね。

62B : オリャッシェンデシタロー。 コートークウニ ナレバ
いなかったでしょう。 高等科に なれば

63A : アタクシワ メイジョンジューゴネンノ シグラツニ エー
私は 明治45年の 4月に ええ

ジンジョークウノ イチネンニ ハイッタトデスガ
尋常科の 1年に 入ったのですが

23 ↑ 24

ソノトージ コー サンダイシュクジツ [40]ニワ
その当時 こう 三大祝日には

シキガ アリヨッタデショ。(B ナー)
式が あったでしょう。(B はい)

ノー モンツキハオリ モッタ モンワ
うん 紋付羽織[を] 持った 者は

アノー キテ イキヨッタデスガ
あの 着て 行っていたのですが

アタクシワ サイワイニシテ オヤジノ オトートガ アー ニ
私は 幸いにして 父親の 弟× ああ に

キシェリャレットッタ モンツキハカマオネ (B ナー)
着せられていた 紋付袴をね (B はい)

アノー コマメテモローテ アタシニ アウヨーニシテ
あの 小さくしてもらって 私に あうようにして

イチネンシェーカーリヤ アノ キテニャ イキヨッタデスバッテ
1年生から あの 着ては 行っていたのですけれど

長崎 24-2

フダンギワ モー ツギハギモン。(B ソー)
ふだん着は もう つぎはぎ物。(B そう)

ソレカラ モーヒトツ キイノ カンニ ウタルンノワ
それから もう一つ 奇異の 感に 打たれるのは

アノ イマゴロ ヨーチエンニ イク コドモデモ
あの この頃[は] 幼稚園に 行く 子どもでも

パンツオ キスルデシヨ ネ (B ナー ナー)
パンツを 着せる[=はかせる]でしょう ね (B はい はい)

アタシドモ コートクワノ サンネン ソツギョースルマデ
私など[は] 高等科の 3年[を] 卒業するまで

(B ナー) アノ ヘコモ パンツモ
(B はい) あの ふんどしも パンツも

キセラレジャッタデスバイ。(B ソギャンデシタナー)
着せられなかったですよ。(B そんなでしたね)

ヨーヤク アノー タイショージュールネンノ
ようやく あの 大正10年の

イヤ チガウ タイショーキューネンノ サングワツニ
いや 違う 大正9年の 3月に

ソツギョーシテ (B ナー)
卒業して (B はい)

長崎 24-3

ソシテ シガツニ チョーソンガッペー イジェンノ
そして 4月に 町村合併 以前の

キューチャーヤクバノ コズカイキュージトシテ ハイル トキニ
旧町役場の 小使い給仕として 入る 時に

ハジメテ エ ソノー エッチューベコ〔41〕オ
初めて ええ その 越中ふんどしを

アノ ツクッテモロテ ハイテ イタデスガネ
あの 作ってもらって はいて 行ったのですがね

(B ソギャンデンタロナー) アノ ソレガ ヤッパ
(B そんなだったでしょうね) あの それが やっぱり

ジセイノ カワレバ カワルモンタイ ト オモテ
時世が 変われば 変わるものだ と 思って

イマゴロノ コーコーサンネンガ ア
この頃の 高校3年〔生〕が ああ

ブラデネ エー ユク ッツー
下着を身につけないでね ええ 行く っていう〔ことは〕

ソーゾモ ツカン ユク モンモ オランシ
想像も つかない〔し〕、行く 者も いないし、

ソレガ バッテ ヘーキデ フシギデ ナク
それが しかし 平気で 不思議で なく

アレ ショッタ ッテ ユー コトワ
あれ していた と いう ことは

ヤッパ バンシュー〔42〕、デショナー。
やっぱり 蛮習でしょうね。

64B : ダレッチャ ナンノシェン。
だれでも どうということないから。

65A : ダレモカモシェンナ ダレモカモシェン。
だれもかもだからね、だれもかもだから。

24↑25

アノ コゲン ユーチャ オカシカデスパッテ
あの こんな〔こと〕 言っては おかしいですけれど

ガッコーノ オンナノ シェンシェーデモ コシマキワ ハイテ
学校の 女性の 先生でも 腰巻は はいて

ムカシワ アノ ハカマ キテネ (B ナー)
昔は あの 袴〔を〕 着てね (B はい)

アノ キモン キテ ソノ トージノ オナゴシェンシェーワ
あの 着物〔を〕 着て その 当時の 女性の先生は

キヨラシタトシェン (B ソー)
来られていたので (B そう)

ソノ シェンセージャッターチャ アノ コシマキノ シタニ
その 先生だったって あの 腰巻の 下に

長崎 25-2

パンツワ ハイトラッサンジャッターロー ト オモーデスタイネ。
パンツは はいておられなかつたらう と 思うのですよね。

(B ソーデシタロ) ソレガ ナーンノ ヘンテツモ ナク
(B そうでしたでしょう) それが なんの 変哲も なく

アタリマエトシテ トーリョッタ。
あたりまえ[のこと]として とおっていた。

イマワ ヨーチェンノ コドモデモ パンツ
今は 幼稚園の 子どもでも パンツ[を]

ハカニャ デケン ト ユーゴタルフーニ マー
はかなくては だめだ と いうようなふうに まあ

ソーユーフーニ ソノ ヨノナカワ ウツリカワリ
そういうふうに その 世の中は 移り変わり

ヘンシェンシテイキヨルトダカラ
変遷していているのだから

アタシガゴト ソノ アタマノ フルーカ
私のように その 頭の 古い

ムカシノ コトバカリ コー ユー コトワ マ ソノ
昔の ことばかり こう 言う ことは まあ その

ヒトゴト ミテデン マ アー タダシー
一つの事柄[を] 見てでも まあ ああ 正しい

長崎 25-3

カンガエタジャ カンガエカタジャ ナカ ッチューー コトガ
××××××× 考え方では ない という ことが

マ ワカル ワケデャ アルトデスバツテ
まあ わかる わけでは あるのですけれど

ドーモ シカシ アノー シトガ ソーユーフーナ ソノ
どうも しかし あの 人が そういうふうな その

パンツ キル コトワ ヨカ コトシェンカ
パンツ[を] 着る[=はく] ことは よい ことだから

キニャナランケレドモ ンー
はかなくてはならないけれども うん

ゴタンビャクショー〔43〕ノ ヒャクショーモ
五反百姓の 百姓も

イッチョー ニチョー モットル ヒャクショーモ
1町 2町 持っている 百姓も

ノーキグオ アノヒトガ カウカラ オレモ ホシカ ト
「農機具を あの人が 買うから 私も 欲しい」と

オヤジ コーテヤレ ト
「おやじ 買ってくれ」と

コーテヤラニャ ヒャクショーワ シェンバイ ト
「買ってくれないなら 百姓は しないよ」と

長崎 25-4

コーユーフーニ イマ ナットルデショ (B ソーダスナ)
こういうふうな 今 なっているでしょう (B そうですね)

マ ダレモカレモジャ ナカバツテ ホトンド モー
まあ だれもかもでは ないけれど ほとんど もう

ハチブドーリワ ソギャンフーナ コトデ エー
8分どおりは そんなふうな ことで ええ

ヒャクショー シテモラワニャ コマルカラ アー コーテ
百姓を してもらわないと 困るから ああ 買って

ジッサイワ コーテヤリャエントバツテ ノーキョーカラ
実際は 買ってやりきれないのだけど 農協から

カリテ エー コドモノ ノゾミオ カナエテヤル ト
[お金を]借りて ええ 子どもの 望みを かなえてやる と

ソーセニャ ヒャクショー スル モンガ オラン ト
そうしなくては 百姓を する 者が いない と

コーユーフーナ コトニ ナットルゴタルデスネ。
こういうふうな ことに なっているようですね。

(B ソーユーフーニ ナッチャスタイナ)

(B そういうふうな なるのですよね)

25↑

長崎県平戸市1983注記

- 〔1〕 シェンカ
原因・理由を表す接続助詞。「から」の意の「シェン（セン）」に、「から」の「カ（カー）」がついたものである。
- 〔2〕 ヨメッテ
嫁入って。嫁いで。「ヨメル」は、ラ行五段活用動詞「ヨメール」（嫁入る）の変化した語。
- 〔3〕 シェンカデ
「シェンカ」に原因・理由を表す接続助詞「デ」をつけて、「から」の意をより明確にしようとしている。
- 〔4〕 ナルレバ
下二段活用動詞「ナル」（慣る）の已然形「ナルレ」（慣るれ）＋接続助詞「バ」。動詞の下二段活用は多く分布している。
- 〔5〕 ゴジェ
ゴゼ。御前。「妻」の尊敬語で「奥様」。
結婚して妻となり、安定した生活を送っている女性が、商いに出ることは辛いということ。
- 〔6〕 オットル
ある場所を占めている状態を示す動詞「オル」（居る）に、「トル」がついたもの。「トル」は、助詞「テ」に動詞「オル」（居る）のついた「テオル」の変化したもの。強調の表現効果がある。共通語では、「ある」「いる」などの存在動詞に、「ている」がつくことはない。
- 〔7〕 ナー
はい。「ナイ」「ナー」は肯定の応答詞。
- 〔8〕 バラ
薄く削った竹で目を細かく編んだかご。農作物などを入れる。
- 〔9〕 オイノーテ
「荷物を背負う」という意の「負荷（おいになう）」の変化した語か。あるいは、「オ」を「イノウ（イノー）」の変化した語か。「オ」は「笈（お

い)」のことで、木製や竹製の背負って歩く用具。平戸地方では荷物の運搬に用いる。「イノウ（イノー）」は「背負う」の意。バラを笥に載せて背負ったか。

[10] ヨゴザスカ

振り売りの時のかけ声。「ヨゴザス」は、形容詞「よい」の連用形「よう」に「ござんす」のついた「ようござんす」の変化したもの。「カ」は問いかけを表す助詞。

[11] サラク

歩き回る。古語「しありく」から音変化したもの。

[12] フリウリ

振り売り。物を手にさげたり担いだりして、その物の名をふれながら売り歩く振売業は、中世から近世にかけて盛んに行われていた。

[13] デ

間投詞として、自然に無意的に使われる。

[14] オロデ

古語「オラブ」の連用形ウ音便。叫ぶ。大声をあげる。

[15] ジョーシキ

情識。わがままで、言うことを聞かないこと。頑固。強情。もとは仏教用語で「心。迷いの心。本能のままの心の作用」を意味し、鎌倉時代は禅の用語として「思慮分別のはたらき」の意で使われている。今日では「強情」の意を表す語として方言にのみ残っている。

[16] ケシズミ

消炭。薪や炭などの火を途中で消して作る炭。軽くて柔らかく、火がつきやすい。

[17] テーラー

耕運機に荷台をつけたもの。この荷台は着脱自在になっている。

[18] イット

1斗は、1升（1.8ℓ）の10倍。

[19] オトナシー

「穏やかである」の意で、ここでは、「（火力が）弱い」という意で使わ

れている。

[20] オコジンサン

荒神様。かまどの神で、民間で「三宝荒神」と混同され、火を防ぐ神として、のちに農業全般の神として、かまどの上に棚を作って祀られる。

[21] オトシノハシラ

おとしの柱。大黒柱に対して、土間の中央にある柱。

[22] オシオイ

御潮斎。海水で清めること、また、その海水。正月や祭礼、また日常でも、手桶に海水を汲んできて家の内外などにまいて清める。北松浦郡や平戸あたりでは神前に供えていた。

[23] タゴ

手桶。御潮斎の海水を汲むのに用いる。

[24] タビラ

北松浦郡田平町（現・平戸市田平町）。長崎県の北部、九州本島の北西端に位置する。北は玄界灘、西は平戸瀬戸を隔てて平戸島に相對する。

[25] オーノ

平戸市大野町。この談話の収録地点。市の北東部に位置する。東岸は平戸瀬戸に面し、西端は川内峠登山道を境界に木引町と接する。

[26] ウッケエテ

ウチクエテ。「ウチ」は接頭語。「クエル」は、「崩れる」「つぶれる」「壊れる」という意。

[27] チンジュサマ

鎮守様。一国・王城・寺院・村落など一定の地域で、地霊をしずめ、その地を守護する神。

[28] オサメテ

納めて。御潮斎と餅などを鎮守様に供え、御潮斎は家にも持ち帰る。

[29] リューグサマ

竜宮様。海の神。漁の神。

[30] オテガケ

御手掛け。正月に三方に米を盛り、干し柿・かち栗・ミカン・コンブな

どを飾ったもの。年始の回礼者にこれを出し、回礼者はそのうちの一つをつまんで食べる。あるいは食べたつもりで三方にちょっと手をかける。

[31] イナリサマ

稲荷様。五穀を司る神として信仰された宇賀御魂命（うかのみたまのみこと）のこと。

[32] タダ ニンゲンノ クタリ ノーダリバカリデネージャスナ

人間は、食べたり飲んだりするばかりではなく、昔からのよい習慣を大事にしなければいけないということ。

[33] オクンチ

平戸くんちのこと。平戸城内にある亀岡神社の大祭で、例年10月24日から27日までの4日間、御神幸や神楽などの神事が行われる。

[34] トーリョル

「トール」は、「物事に深く通じて熟達する」の意。ここでは、見て覚えていくということ。

[35] アイナカ

相中。間。間隔。話し手B氏の二人のひ孫の年齢が近いことをいう。

[36] キメカタ

叱り方。「キメル」は、「強くとがめる」「叱る」の意。

[37] ワンパクズイタリ

「ワンパク」は、言うことを聞かず、遊びまわったりすること。「ズク」は接尾語で、そういう動作をする状態になってくる意を表す。

[38] イッチョラ

一張羅^{いっちょら}。所有している衣服の中で、たった一着きりの上等のもの。

[39] シコ

程度を表す接尾語。ほど。くらい。

[40] サンダイシュクジツ

三大祝日。旧憲法時代の三大節は、元旦の四方拜、2月11日の紀元節、天皇誕生日にあたる天長節。のちに11月3日の明治節を加え、四大節となった。

[41] エッチューベコ

越中ふんどし。長さ約1mの小幅の布に紐をつけたふんどし。

[42] バンシュー

「蛮習」は、「野蛮な風習」の意であるが、ここでは「田舎の風習、習慣」くらいの意。

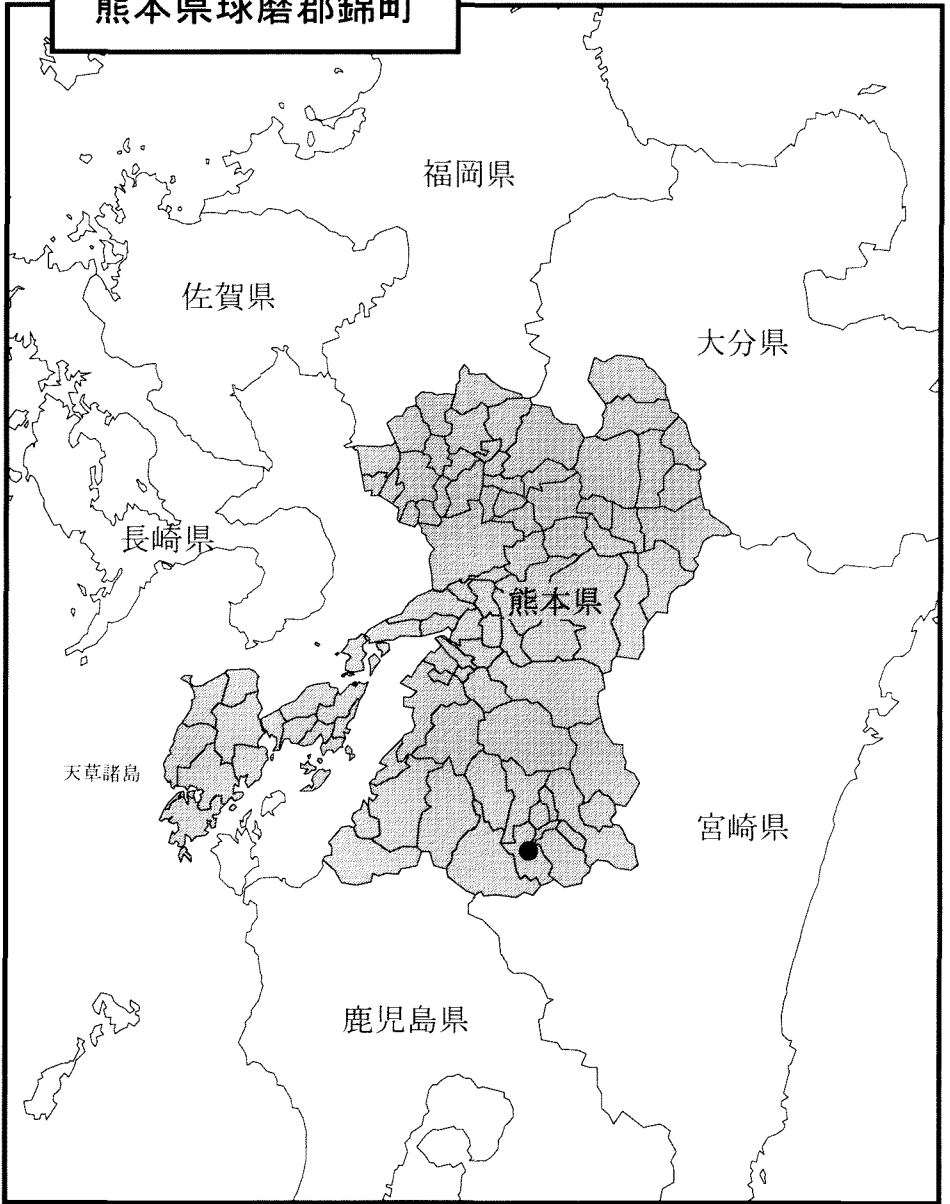
[43] ゴタンビャクショー

五反百姓。所有する土地が5反（約5,000㎡）ほどしかないような、経営規模の小さい自作農。

Ⅲ. 熊本県球磨郡錦町

1980

熊本県球磨郡錦町



熊本県球磨郡錦町1980話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	恒松 アサエ 土肥 増巳 森山 実
収録担当者	馴田 弘子 東 秀吉 前田 一洋
文字化担当者	馴田 弘子 東 秀吉
共通語訳担当者	馴田 弘子 東 秀吉
解説担当者	馴田 弘子 東 秀吉

(敬称略 項目別50音順)

「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤 亮一 江川 清 田原 広史 井上 文子
編集協力者	山本 友美 鳥谷 善史 熊谷 康雄

熊本県球磨郡錦町1980解説

収録地点名

くまもとけん くまぐんにしきまちいちぶひがしかた
熊本県球磨郡錦町一武東方

収録地点の概観

位置

錦町は、球磨郡の中央やや南寄りに位置し、東は上村・免田町・深田村に、北は相良村に、西は人吉市に、南は宮崎県に、それぞれ接している。

交通

人吉駅から湯前線ゆのまえで9.2km、約17分で一武駅に至る。湯前線とほぼ並行して南を走る国道219号線には、定期バスが運行されている。

地勢

錦町の南部には、九州山地に連なる標高1,000mを超える山岳があり、北に進むにつれ低く山地を成している。北部には球磨川が西流し、沿岸には水田が開けている。一武のある中部一帯は扇状地域であるが、水田はほとんどなく、畑地と草原と松林とが混在している。扇状地北方末端には狭いながら水田も作られ集落も立地する。

行政区画

1879(明治12)年、一武村が成立。1884(明治17)年に西村と同一行政区となったものの、1889(明治22)年に再び単独村となる。1955(昭和30)年7月1日、隣村の西村・木上村きのうえと合併して、錦村が成立。1965(昭和40)年4月1日、町制を施行し、錦町となり、現在に至る。一武には町役場があり、錦町の中心地域である。

戸数・人口

一武は、1955(昭和30)年の合併時には、世帯数771戸、人口4,607人であった。1981(昭和56)年2月現在、世帯数943戸、人口3,734人である。

産業

農業を中心とし、稲作・畑作・い草栽培・果樹栽培(主として梨)・養蚕のほか、酪農・養豚も行われる。山寄りの集落においては、曲谷の奥でコバ作(焼畑)がなされ、ソバ・イモ・コンニャク・カジ(梶)などが作付けされた。また、

大手企業なども進出しつつある。

収録地点の方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

錦町一武方言が属する球磨方言は、肥筑方言に属するが、薩隅方言的な性質も多々見られる。

肥筑方言的な性質としては、次のようなものがある。

- ・形容詞はカ語尾が基本である。
- ・終助詞「バイ」「タイ」が優勢である。
- ・逆接の接続助詞「バツテン」が見られる。

また、薩隅方言的な性質としては、次のようなものがある。

- ・語末の狭母音が促音化する。
- ・断定辞は「ジャッ」「ジャル」が基本である。
- ・可能の「ガナッ」「ガナル」が見られる。
- ・逆接の接続助詞「ドン」「イドン」「ナイドン」が見られる。

ただし、中年層・若年層の方言においては、薩隅方言的な要素は弱まりつつある。

音韻

- (1) 合拗音「クッ」「グッ」「クィ」「グィ」「クェ」「ウエ」「ウォ」が見られる。

クッシ (菓子)

ショーグワッ (正月)

オクィウォッタ (送っていた)

エグィ (えぐい)

クェバ (食えば)

ウエー (甥)

タウエテ (倒して)

イイウォッ (言っている)

- (2) 「ウァ」「ヒェ」「キェ」「ギェ」という音が聞かれる。

カウァー (川へ、川に)

(3) 語中・語尾のラ行音節は、子音が脱落して「イ」「エ」となることがある。

ヒトイ (一人)

バツカイ (ばかり)

スイ (する)

ジューエンサツジャイ (10円札である)

オイ (俺)

ワイ (←ワレ) (君)

ウェー ナエバ (上になれば)

ラ行音節以外にも語末子音の脱落が見られることがある。

クイ (首)

(4) 語中・語尾のラ行音節が促音化することがある。

シヨッモシタ (←シヨリモシタ) (していました)

オイヤッモンデ (←オイヤルモンデ) (おられるので)

カンゼンニ ナッヨナ (完全になるよね)

マンマエジャッ (真ん前である)

オドイ ミッヨカ (踊り [を] 見るよりも)

イイウォッ (←イイウォル) (言っている)

ラ行音節以外でも促音化が起こることがある。

シゴッ (仕事)

(5) 「アウ」「オウ」「オオ」は、開合の区別なく「ウー」になる。

ユーシテ (よくして)

バクリュウ (博労)

シューチュー (焼酎)

ウーカ (多い)

ウーミズ (大水, 洪水)

(6) そのほか、次のような音節の脱落や縮約が見られる。

ナツゴメ スタシテ (夏米 [を] すったりして)

ドギャ (←ドギャン) シューカ (どうしようか)

ブチャ クワセッシモタ (豚に食わせてしまった)

ソシテウェテ (そうしておいて)

文法

- (1) 断定辞は「ジャッ」「ジャル」が基本である。
 ジュエンスツジャッ (10円札だ)
 ホントジャッタナ (本当だったな)
- (2) 形容詞はカ語尾が基本である。
 ヨカ (よい)
 アトラシカ (新しい)
- (3) 主格助詞に「ノ」を用いる。
 クローシノ クットゲナデー (黒牛が来るそうだから)
- (4) 準体助詞「ト」が見られる。
 シヨッタトバ (していたのを)
- (5) 方向を表す格助詞「サン」が見られる。
 オクサン イク (奥に行く)
- (6) 可能の「ガナッ」「ガナル」が見られる。
 カキガナッ (書くことができる)
- (7) 様態・希望に「ゴタル」を用いる。
 イマンゴタ (今のよう)
 ノローゴタッヨ (乗りたいよ)
- (8) 文末詞「バイ」「タイ」がある。熊本県中・北部方言に見られる「バイタ」「ガイタ」は見られない。
 キツカトバイ (きついのだよ)
 イッヤナントタイ (行くことはできないのだよ)
- (9) 丁寧の助動詞は「モス」である。「ゴウス」「ガス」も見られる。
 カンガエモス (考えます)
 クイモサン (食べません)
 ゴサンモサン (ございません)
 ヨケーモーソーヤ (休みましょうよ)
 イマゴロマデゴウス (今頃までです)
 セキノヤマデガス (関の山です)

(10) 尊敬語「ヤル」「ナル」が見られる。

イキヤッタ (行かれた)

シオッヤッ (しておられる)

ツクイヨンナッタデショーカ (作っておられたでしょうか)

(11) 形容詞に「て」が続く場合、「～シテ」の形を基本とする。

サムーシテ (寒くて)

(12) 逆接の助動詞は、肥筑方言的な「バツテン」と薩隅方言的な「ドン」が共存する。

ジャッツロバツテン (そうだったろうけど)

ホバツテン (そうだが)

ナイドン (←ナレドモ) (けれども)

ジューエンナイドン (10円だが)

(13) 順接の接続助詞に肥筑方言的な「ケン」と薩隅方言的な「デ」が共存する。

コトバダケン (ことばだから)

シランモンジャッデ (知らないものだから)

(以上の解説は、基本的に、「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿による。)

熊本県球磨郡錦町1980凡例

談話資料は、方言談話音声、方言談話音声の文字化、方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには、ページ単位で切った方言談話音声を、CDには、方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化と共通語訳とは、対照ができるように、上下2段を1組として示した。上段が方言談話音声の文字化、下段がその共通語訳である。ただし、方言の語形と共通語の語形が必ずしも1対1で対応しない場合もあり、方言の語形と共通語訳とがずれている場合もある。

方言談話の共通語訳は、漢字かなまじりで表記した。

文字化については、表音的カタカナ表記を用いている。つまり、長音は「ー」で示し、助詞「は」は「ワ」、助詞「を」は「オ」、助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」はガ行鼻濁音を表す。

この文字化は、時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって、発話の重なりや、複線的な会話の進行の構造などは、文字化からは読み取れない。データを使用する際には、文字化・共通語訳を見るだけではなく、実際に、音声を聞いて判断していただきたい。

また、分かち書き、句読点などは、便宜的なもので、厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における、方言談話音声の文字化の方法は、後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし、今回、「全国方言談話データベース」として公開するにあたり、文字化・共通語訳を整備する際には、当時のマニュアルにはとられず、読みやすさ、意味の取りやすさを優先して処理をした部分がある。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中に、話し相手のあいづちや同じ単語の繰り返しなどが入る場合もある。

発話番号 <半角>

発話の通し番号を、各発話の話者記号の前に付した。

例：1 A

話者記号 <全角>

話者、調査者など、談話の場にいる人物について、A、B、C、D、E、F、……のように、アルファベットで示した。

例：1 A

固有名詞

話者および一般の人名については、文字化・共通語訳の該当個所を、A、B、C、X1、X2、X3などのアルファベットに置き換えた。話者、調査者など、談話の場にいる人物については、A、B、C、D、E、F、……のように示し、話題の中の第三者については、X1、X2、X3、……のように示した。ただし、音声は、該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や、有名人の人名については、記号に置き換えることはせず、個人名を出すことにした。また、会社名、店名、製品名などについても、発言されたとおりに記している。

地名については、そのまま扱うことにした。

記号

。(句点) <全角>

文字化については、ポーズがあって、意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所に句点を打った。ただし、実際の発話では、一文の終わりがわかりにくい場合もある。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス ソーデス

そうです。 そうです。

、(読点) <全角>

文字化については、基本的に息をついた個所、または、ポーズのある個所に読点を打った。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、

意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また、読みやすさを優先して、取り去った場合もある。

例：シ、ヤクショ

市役所

? <全角>

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケイトイテ？

預けておいて？

↓ <全角>

下降イントネーションと判断した個所。

例：ヨグ ヤットンダナー↓

よく やったんだなあ。

() <全角>

あいづち。ひとりの人が連続して話している時に同意を示したり、さえぎったり、口をはさんだりした個所。

(A ……)のように、開き括弧の次にあるアルファベットは、発言している話者を示す。()の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお、()内のあいづちと、独立した発話として扱ったあいづちに近い発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：(A アー ソーデスカ)

{ } <全角>

笑い、咳、咳払い、間、などの非言語音。

例：{笑}

{咳}

{手を叩く音}

××× <全角>

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

*** <全角>

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ*

お茶漬けの*

/// <全角>

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ モジナンデスナ、

//// 「文字」なんですね。

[] <全角>

方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン ノセテ

みかん [を] 乗せて

= <全角>

[] 内の=は、意味の説明や、意識であることを示す。

例：イマ ユー

今 いう [=今話題にあがった]

| | <全角>

注意書きなど。

例：| A に対して |

[] <全角>

注記。方言形の意味・用法、特徴的音声などについて説明し、文字化・共通語訳の後にまとめてある。[] 内の半角数字は、注記の番号を示す。

例：ホシツキサノオモチ [1]

音声

CD-ROMには、冊子のページ単位で区切った方言音声のwaveファイルを収録している。冊子のページをpdfファイルにしたものに、方言音声をリンクさせていて、各ページにある再生の部分をクリックすると、そのページの音声を聞くことができる。

CDには、談話全体の音声を収録している。以下にあげるように、適当な個所で、トラックに区切っている。

CDトラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは、方言音声を収録したCDのトラック番号を示している。「熊本26-1」はCDトラック番号が26で、その1ページ目ということである。「熊本26-1」「熊本26-2」……「熊本26-8/27-1」……「熊本37-8」のように表示される。

また、文字化・共通語訳部分には、CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分トラックの切れ目を表し、その両側の数字はトラック番号である。

↑26, 26↑27, …… 36↑37, 37↑のように表示される。

第19巻のCD (66分31秒) には、熊本県球磨郡錦町の談話、【湯前線開通当時の思い出、お嶽さん参り、麻作り】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行、終了ページ・行、時間は下記のとおりである。行は、文字化の行を表示した。

トラックNo.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間：分：秒
26	p. 183・ℓ. 1	p. 190・ℓ. 3	00：02：04
27	p. 190・ℓ. 3	p. 197・ℓ. 5	00：02：06
28	p. 197・ℓ. 7	p. 205・ℓ. 5	00：02：01
29	p. 205・ℓ. 7	p. 206・ℓ. 5	00：00：19
30	p. 206・ℓ. 7	p. 212・ℓ. 5	00：02：00
31	p. 212・ℓ. 7	p. 218・ℓ. 5	00：02：04
32	p. 218・ℓ. 7	p. 219・ℓ. 15	00：00：38
33	p. 219・ℓ. 17	p. 226・ℓ. 7	00：02：07
34	p. 226・ℓ. 7	p. 233・ℓ. 5	00：02：03
35	p. 233・ℓ. 7	p. 238・ℓ. 5	00：01：41
36	p. 238・ℓ. 7	p. 244・ℓ. 3	00：02：01
37	p. 244・ℓ. 5	p. 251・ℓ. 3	00：02：02
計			00：21：06

熊本県球磨郡錦町1980談話

収録地点 くまもとけん くまぐんにしきまちいちぶひがしかた
熊本県球磨郡錦町一武東方

収録日時 1980(昭和55)年8月6日, 7日

収録場所 熊本県球磨郡錦町一武東方 森山茂実氏自宅

話題 湯前線開通当時の思い出, お嶽さん参り, 麻作り

話者

A	男	1894(明治27)年生	(収録時86歳)	農業
B	男	1914(大正3)年生	(収録時66歳)	農業
C	女	1897(明治30)年生	(収録時83歳)	農業

調査者

D	男			
---	---	--	--	--

収録時間 (CD) 21分06秒

【湯前線開通当時の思い出、お嶽さん参り、麻作り】

話し手

- A 男 1894(明治27)年生 (収録時86歳)
B 男 1914(大正3)年生 (収録時66歳)
C 女 1897(明治30)年生 (収録時83歳)
D 男 調査者

1 B : コンダ ジーサンタチ エー キーテミマンガ
今度は おじいさんたち[に] ええ 聞いてみますが

↑26

アノ キシャン カカッ トキタイ[1]ナ
あの 汽車が かかる[=線路が敷かれる] 時にな

コッチ。
こちら[に]。

2 A : エ。
ええ。

3 B : ユノマエセンノ (A ハイ ハイ) カカッ トキタイ。
湯前線の (A はい はい) かかる 時だよ。

4 A : ハーイ。
はい。

5 B : アッ タイショージューチネンゴロ ジューイチネンカ ニネン
ああ 大正11年頃 11年か 2年

6 A : マ ソンクライヤッタ。
まあ そのくらい[の頃]だった。

7 B : ゴロー ハジマッタガナ (A アー)
頃[に] [工事が]始まったがな (A ああ)

ソントキニャ イロンナ コトノ オモシカ コトノ
その時には いろいろな ことが おもしろい ことが

アリャ セヤッタナ。
ありは しなかったな。

8 A : ソントキニャ アノ ンー ドカタガナー アノー
その時には あの うん 土方がな あの

サツマカラ キトル ナンチ オッタカニャ
薩摩から 来ている なんて 言っていたかな

アレガ ヤド カットッタッタイ オイギャン[2]。
あれ[=あの人]が 宿[を] 借りていたよ 私のうちに。

9 B : エーエ。
ええ。

10 A : ソッデー オドマ[3] ズーット デウオッタッタイ。
それで 私たちは ずっと [工事に]出ていたんだよ。

11 B : ンー。
うん。

12A：シチャナ。

下[のほうの工事場]にな。

13B：ンー。

うん。

14A：シゴテ ヤッパ。 ハイ。

仕事に やはり。 はい。

15B：アッ スナイバ トッテ トロッコデ。

あの 砂を 取って トロッコで。

16A：ハイ トロッコ。

はい トロッコ。

17B：オドンギャサミヤ[4] モッテキオッタモンナ。

私たちの家のほうへ 持ってきていたものね。

18A：アーア トロッコデ ズーット コー クバイ[5]オッタッタイナ。

ああ トロッコで ずっと こう 配っていたよね。

19B：ンー。

うん。

20A：アツァミヤー クバッターイ コツァミヤ クバッターイ

あっちのほうへ 配ったり こっちのほうへ 配ったり

(B ン) ニシノムラサミヤ クバッターイ。

(B うん) 西村のほうへ 配ったり。

熊本 26-4

(B ーン) アレガ アノ ナントカ イオッタガネー

(B うん) あれが あの なんとか 言っていたがね

アラ エー アノ ウケオイシワ ナントカ イウォッタガ。

あれは ええ あの 請負師は なんとか 言っていたが。

21B : X1 チョーバノ キッ トロガ デタ(6) テユー ウタモ

「X1 帳場の ×× トロが 出た」 という 歌も

アイオッタデ X1チュートモ オイヤッタモンナ。

あったから X1という人も おられたものね。

22A : X1ジャッタカナー (B X1) X1ジャッタカモシレン

X1だったかな (B X1) X1だったかもしれない

23B : X2 チュ チュー シタ イシヤドンナ

X2 ×× という 人は 石屋さんは

オイギャン ヤシキ オイヤッタイナ。

私のうちの 屋敷[に] おられたよな。

24C : ハイ。(A ウン)

はい。(A うん)

25B : チャヤン ヤシキ。

茶屋の 屋敷[に]。

26C : チャヤン ヤシキ エー

茶屋の 屋敷[に] [工事の人足たちが]たくさん

オ オイヤッタモンナ。

× おられたものね。

27B : エロ オイヤッタモンナ。 タマナグンノ ヒトヤッタ
たくさん おられたものね。 玉名郡の 人だった

アノヒトタチャ。

あの人たちは。

28A : ンー。

うん。

29C : チョーツケガ タ X3チーオッタ。
帳付けが × X3といていた。

30B : ハイ X3。

はい X3。

31A : ソ。

そう。

32B : ジャッタ ジャッタ。 コールテンノ アノー
そうだった そうだった。 コールテンの あの

イマデ ユウエバ ナンチューカナー

今で 言うと なんとかな

セビロノグタットバ ウエカラ ウービ スット キテー。

背広のようなものを 上から 帯[を] するの[を] 着て。

33A : ンー。

うん。

34B : オイキャン ジーガ ジーキ ノミカタン トキニャ

私のうちの 父親が すぐ 飲み会の 時には

ン ゴショノニワイバ ウチャーチャ

うん 「御所の庭」[という歌]を 歌いに

イキオイヤッタタイナ。(A ンー)

行っておられたのだよ。(A うん)

ヤ ヤティ キチャ チュワイモンジャッデ。

× 雇いに 来た と言われるものだから。

35A : エー。

ええ。

36C : シテン イュン タタン トキャナ

そして 風呂の たたない[=風呂を沸かさない] 時はね

マイエ トナリ ユネリ キウォイヤッタモン。

前[の家]へ 隣[の家へ] 湯に入り 来ておられたんだよ。

37B : エー。 アー。

ええ。 ああ。

38C : マ タギーガン タギーガンナ。

まあ [そのお湯の]熱いこと 熱いこと。

39A : エ。

ええ。

40B : エー エー。

ええ ええ。

41C : ソンシ(7)ノ イッヤッタ アテナヤ
その人たちの 入られた あとには

イッヤナントタイ(8)。

[あまり熱くて]入れないのだよ。

42B : アー。 {笑}

ああ。 {笑}

43C : ドーン コラ オトコガ ゴロクニン
どうも これは 男が 5、6人[も]

クットタイナ。

[入りに]来るのよね。

44B : ンー。

うん。

45A : ンー。

うん。

46C : オサメガ コゲツク テ

最後が [あまり熱いので風呂釜が]こげつく って

イーウォッタッタイナ。
言っていたんだよね。

47B : エー エー。(A ンー) アスコノ ラクセイシキワ
ええ ええ。(A うん) あそこ [= 駅] の 落成式は

26↑27

イマノ チクホーモクザイノ トコロー (C ンー) デ
現在の 筑邦木材の ところ (C うん) で

アッタデナ。
あったのだからね。

48C : アッタ アッタ ホン ナ。
あった あった 本当[に] ね。

49B : ハイ。 ミナイ [9] テツガタキオ ダキコンデ [10]
はい。 ほら 「テツガタキを 抱きこんで」

チテーテー アノー (C アン ジーノナー)
と言って [= 歌って] あの (C あの おじいさんがね)

ハイ。 X4ジサンガ
はい。 X4おじいさんが

50C : アー。
ああ。

51A : シ シショーヤツガナー。
× 先生がね。

52C : シショージャッタデー。
[劇の]先生だったから。

53A : ンー。
うん。

54B : オドンガ ソントキヤーナ ニネンセージャッタガー
私たちが その時はね 2年生だったが

アノー タダデ キシャ ノッテ ヨカッタツジャモンナ。
あの ただで 汽車[に] 乗って よかったんだものね。

55A : エー。
ええ。

56B : タラギマデト
多良木までと

57A : ハ。
はい。

58B : ア ユノマエマデト ヒトヨシ ドッチデモ。
ああ 湯前までと 人吉[までと] どっちでも[よかった]。

59A : エー。
ええ。

60B : ンー。 キシャチン (A ソ) ダセバ イッセン
うん。 汽車賃[は] (A ×) 出すならば 1銭[か]

熊本 27-3

ニセングリャヤッタモンナ。
2 銭くらいだったものね。

61A : ンー。
うん。

62B : ソイバッテン オイギャン ジードマ ヤッパ ソノー
それだけれども 私のうちの 父親などは やはり その

ムカシナイノ コザクビャクショージャイモンジャッデ
昔なり [= のまま] の 小作百姓だものだから [乗せなかった]

オマイ ヤッパ タダン トキドマ ノセテ ヨカッタイ。
ねえ やはり ただの 時くらいは 乗せて いいんだよ。

63A : ン。
うん。

64B : ハジメテ キシャチュータ ミットジャッデナ。
初めて 汽車というものは 見るのだからね。

65A : ウン。
うん。

66B : ノッ ノッチャナラン テ ノセジーンバイ。
×× 乗ってはいけない と [言って] 乗せずによ。

67A : エー。 { 笑 } (C { 笑 }) ヤッパナ。
ええ。 { 笑 } (C { 笑 }) やっぱりね。

熊本 27-4

68B : ホーントン ヌ ヌサダイオッタ [11] ナー。
本当に × たまらなかったな。

69A : ンー。 ヤッパー (C {笑})
うん。 やっぱり (C {笑})

70B : {笑} (C {笑}) ノローゴタッヨナー。
{笑} (C {笑}) 乗りたいよな。

71A : ンンー。
うん。

72C : コドモモ オッテナー。(B ンー)
子どもも いてね。(B うん)

ゾロゾロ イキオッター。
[ほかの子どもたちは]ぞろぞろ [汽車に乗り]に行っていた。

73B : アーア。 アノ X5ドンガタン パーサンタチャー
ああ。 あの X5さんの家の おばあさんたちは

ジョーノタイ。
城の[人]だよ。

74A : ン。
うん。

75B : ドイ [12] アノ クローシチー ウォッタゲナモンナ
なにしろ あの 黒牛と 言っていたそうだものね

キ キクワンシャニャ。

× 機関車には。

76A : ン。

うん。

77B : クローシノ クットゲナデー チテ。 (A ン)

黒牛が 来るそうだから と言って。(A うん)

アノ タネガライモデン ナンデン トッテウエテ

あの 種甘薯でも なんでも 取っておいて

エバ モッテイケバ カウトゲナ テッテ

それを 持っていくと [燃料として]買入れるそうだと

イーヤイゲナ。 ヒトン ハナシイ

言われるそうな。 人の 話に

コドモヤッタイドン キキオッタデナ。

[自分は]子どもだったけれども 聞いていたからね。

78A : ヤッパ アノー (B ハン) ソギャンシタン コタ

やはり あの (B うん) そうした ことを

イーオッタモンナ。 アノ (B {笑})

言っていたものね。 あの (B {笑})

クローシトカ ナントカ (B {笑})

黒牛とか なんとか (B {笑})

熊本 27-6

キシャポッポートカ。 {笑} (B {笑})

汽車ぼっぼとか。 {笑} (B {笑})

79C : オドンガナ バカジャッデ

私がね [汽車なんか見に行くのは]ばかだから

チューモンジャッデ コドンガ オトッシャナ。

と言うものだから 子どもが 恐ろしがってね。

(B {笑}) ウチカラ デオラダッタデ。(B {笑})

(B {笑}) 家から 出なかったから。(B {笑})

80A : ホンートン。

本当に。

81B : エー。 ヤッパ スギャン スットナ。

ええ。 やはり そのように するのか。

(C ハイ) ヤッパ。

(C はい) やはり。

82C : ハーイ。(B ンン) ウチノ X6ガ

はい。(B うん) うちの X6ガ

83B : デデ バーサンギャン

×× [線路は]おばあさん[=C]のうちの

マンマエジャッデノー。

真ん前だからね。

84C : ハイ。マンマエジャッデ。

はい。真ん前だから。

イクツジャッタカニャ ナ。ミッツヨッツジャツツロタイ。

いくつだったかしら ね。三つ四つだったろうよ。

85B : ジャットイナ。ワシガ ニネンセージャッタデ。

そうだよね。私が 2年生だったから。

86C : ンー。

うん。

87B : デ サンガツノ サンジューンチ [13] が

それで 3月の 30日が

ラクセイシキジャッタモンナ。

落成式だったものね。

88A : ン デシタロー。

うん そうだっただろう。

89B : ハイ ホッデ オドマ オドイ ミッコカ

はい それで 私は 踊り [を] 見るより

キシャ ノローゴタットタイナ。

汽車 [に] 乗りたいんだよね。

90A : ンー。

うん。

91B : ア ナイドン ソン ジーガ ノッチャナランテダロ
ああ けれども その 父親が 乗ってはいけないという

コトバダケン ヤッパ キケテナ ノイヤ キラダッタ[14]。
ことばだから やはり 聞けてね 乗ることは できなかった。

92A : ンー。

うん。

27↑28

93C : ソーシテナ コンダ キシャン トオイゲナ テ ユーテ
そうしてね 今度は 汽車が 通るそうだと 言って

(B ン) ツレテ デトッタタイ コドモバ。

(B うん) 連れて 出ていたのだよ 子どもを。

94B : ンー。

うん。

95C : ソシタイバ ユータ マエ キタ トキャ
そしたらば ちょうど 前[に] 来た 時は

ワーン チューツロガナ。 {笑}

ワーン と言ったろうがね。 {笑}

モー オトツシャ ソイカラ (A・B {笑}) モ
もう 怖がって それから (A・B {笑}) もう

ウチカラ デントジャッデ キシャン クツ トキャ。
家から 出ないのだから 汽車が 来る 時は。

96B : ジャッツナ。

そうだったろうな。

97C : ハイ。(B ジャッツナ)

はい。(B そうだったろうな)

タマガッテ ヒックイカエトッ。 {笑}

びっくりして ひっくりかえっている。 {笑}

ジブンモ タマガッタモンナー ツレテ デトッテ。

自分も びっくりしたものね 連れて 出ている。

98A : ハジ ハジマイワ ソギャン アッタモンナ ヤッパ

×× 最初は そのようで あったものね やはり

オトロシカゴタッフーデー。

恐ろしいようなふうで。

99B : ジャーッタイナー。 ワシドマ ソノ チョット マエ

そうだよね。 私たちは その 少し 前[に]

ガッコン センセーガナー。

学校の 先生がね。

100A : ン。

うん。

101B : ニネンセー トキジャッタ X7モヤッデナ。

2年生の 時だった X7も[一緒]だったからね。

102C : ン。

うん。

103B : オコバン エキー キシャ ミキヤ [15]

大畑の 駅に 汽車[を] 見に

ツレテイキヤッタデナ。

連れていかれたのでね。

104A : ン。

うん。

105B : アユデ [16]。

歩いて。

106A : エ。

ええ。

107B : アノ セキタンカス ウシツツ トコッノ

あの 石炭かす[を] 捨てる ところが

エートコ ナットッタモンナ。

|手ぶりをしながら|[下り坂に]こう なっていたものね。

108A : エー。

ええ。

109B : シランモンジャッデ ハシッテ オイタガ

[それを]知らないものだから 走って 下りた[ところ]が

熊本 28-4

トマイガ ナラジンナ。 ベロベロシテ。
止まることが できないでね。 ずるずるして[=滑って]。

110A : ン。

うん。

111B : オラ マクラギー ヒッカカッテ ウッタイタデ

私は 枕木に ひっかかって 転んだから

ユカッタイドン ホカン モンナ イチバン シタン ヤベー
よかったけれども ほかの 者は いちばん 下の やぶに

カケクーデシモータッタイ。
かけこんでしまったんだよ。

112A : ンー。

うん。

113B : タッサカッ トキ。

[体が]丈夫な 時。

114A : ソ。

そう。

115B : ホーシタイバ アメノ フイデァータモンジャッデ

そのうちに 雨が 降り出したものだから

コンダ ハジメテ キシャ ミトッテ
今度は 初めて 汽車[を] 見ている

熊本 28-5

コンダ ソ ソノ キシャニャ ノッ アメン フッタモンデスデナ
今度は × その 汽車には ×× 雨が 降ったものですからね

ヒトヨシマデ ノッテ モドランバントタイ。
人吉まで 乗って 戻らねばならないのだよ。

116A : エエー。
ええ。

117B : センセーガ ツレテ。
先生が 連れて。

118A : ソ。
そう。

119B : ソイデ イマ アン ムラヤマン アノ ガケーバ
それで 今 あの 村山の あの 崖を

ドーシテン ハンタイニ ミトルガナ
どうしても 反対側に[あったように] 見ているがね

アシドマ。
私などは。

120A : ンー。
うん。

121B : コッチノ ホーニ アッタガ。
こっちの ほうに あったが。

122A : エー。

ええ。

123B : シテ コンドワ モドッ トキャ アユデ モドリャ ナラーズ。
そして 今度は 戻る 時は 歩いて 戻ることは できず。

124A : ソ。

そう。

125B : X8ドンノナ アノ キャクバシヤ ヒキオイヤッタデ。
X8さんはね あの 客馬車[を] ひいておられたから。

126A : エー。

ええ。

127B : X8ドンテ バサンナ (C ハイ)
X8さんって おばあさん[=C]は (C はい)

シットッドガナ。

知ってるだろうがね。

128C : カクイノジャロ。

覚井のだろう。

129B : カ カクィーノ。

× 覚井の。

130C : ハーイ。

はい。

131B : アノ (A エエー) X9
あの (A ええ) X9

132C : X9トタイ アンフトノ オトトタイ。
X9とね あの人の 弟だよ。

133B : ト X9サンノ オトトカ。
× X9さんの 弟か。

134C : ハイ。
はい。

135B : ジャッタナ。
そうだったね。

136C : ハーイ。
はい。

137A : ンー。
うん。

138B : ホシテ タテバデ オイタラ タテバワ
そして [馬車の]停留所で 下りたら 停留所は

イチブノ ショーガッコノ コードーノ マエノ
一武の 小学校の 講堂の 前の

モンノ トコイジャッタデ。
門の ところだったから。

139A : ソ ン。
そう うん。

140B : ソシタラ コンダ ニジューゴセン ソノ
そしたら 今度は 25銭 その

キャクバシャチンバ セーキューサレタモンジャッデ
客馬車賃を 請求されたものだから

マタ ウチン ジーガ ソン
また うちの 父親が その

141A : ソ。
うん。

142B : ソー アイガ チッタ ヘンカッタデナ。
うん あれが 少し 変わり者だったからね。

(A ソ) ゼンモ (A ソ)
(A うん) お金も (A そう)

コザクビャクショージャッタガー (A ソ)
小作百姓だったが (A そう)

オッシャ エライ コジヤッタッタイナ。
惜しさに たいへんな こと [= 怒りよう] だったのだよ。

143A : ソー。
うん。

144 B : アユデ モドット ヨカトー テ。 ナー (A ンー)
歩いて 帰って いいのに と[言って]。 なあ (A うん)

ガッコン センセーノ ダンタイデ ツレテイタテ (A ンー)
学校の 先生が 団体で 連れて行って (A うん)

アユデ モドイガ ナローキャ。
歩いて 戻ることが できようか。

28↑29

アノ キャクバシャチュートノ アイオッタデ。
あの 客馬車というのが あったものだから。

ンマノ ヒーテ モドット。
馬が ひいて 戻るのが。

アイガ コッチノ キシャン カカル マエジャッデ
あれが こっちの 汽車の かかる 前だから

タイショー ジューイチネン、ゴロジャツタカ
大正11年頃だったか

イチネンセート ニネンセー オマイガイ X7ヤラ
1年生と 2年生 あなたの家の X7やら

X10ナー ワシドモヤツタモン。
X10ね 私たちだったよ。

145 C : エー。
ええ。

146 A : ソー。

そう。

147 B : ヤッパ ソギャンタ フーキャン[17] ヤッパ

やはり そのようなことは たいそう やはり

ヨカ オモイデン ナットツ。

いい 思い出に なっている。

29↑

— 中 略 —

148 A : オドマ オタケサンマイリ[18] スッ トッガー

私たちは お嶽さん参り[を] する 時が

↑30

スギャ[19] シトツタッタイナー。(B ソー)

そのように していたんだよね。(B うん)

ワラジャー ツクッテ カルーテ[20] (B ソー)

わらじは 作って 背負って (B うん)

タランモンジャッデナ イッソクジャ。(B ソー)

足りないものだからね 1足では。(B うん)

ソイデ ソイ カルーテ ズーット ア アユーデナ。

それで それ[を] 背負って ずっと × 歩いてね。

(B ソー) タラギデ メシ クーテ イキオッタイナ

(B うん) 多良木で ごはん[を] 食べて 行っていたね

熊本 30-2

アサメシバ。(C エー) スギャ (B エー)
朝食を。(C ええ) そのように (B ええ)

ハヨー ニジゴロ デヨッタDESTAIナ。
早く 2時頃[に] 出ていましたよね。

アー (B ーン) ソシテ ズット
ああ (B うん) そして ずっと

イヤマ[21]マデ アユーデ ソッカラ イヤマニ
湯山まで 歩いて それから 湯山に

イヤド トッテ ショドッ ウエテ
宿[を] とって 荷物[を] 置いて

ソシテ アノ オタケサンニ アガイオッタデナ。
そして あの お嶽さんに 上っていたからね。

(B ーン) アー。ソシテ マタ ヤド トッテテ
(B うん) ああ。そして また 宿[を] とっておいて

ノボッテ マイッテ クダッテキオッタデ。(B ーン)
上って 参って 下ってきていたから。(B うん)

アー。アユー テン カンガエレバ ヤッパナー
ああ。ああいう 点[を] 考えれば やはりね

ドーイ ムカシャ アユーデバカルジャッデ。
なにしろ 昔は 歩いてばかりだから。

熊本 30-3

149B : ジャッナ。 ソスト トマッ トキャ
そうだね。 そうすると 泊まる 時は

ドコデヤッタカニャ〔22〕。
どこでだっただろうか。

150A : トマッ トキャ イヤミャー トマッヨッタタイ。
泊まる 時は 湯山に 泊まっていたよ。

151B : エー イヤミャー。 エー。
ええ 湯山に。 ええ。

152A : イマンゴタ ワヤー〔23〕 アギャー ナニャー
今のように ほら あのようになに〔=宿屋〕は

デケチャ オラダッタデー。
できては いなかったから。

153B : ソン ソン ジャッタイナ。
うん うん そうだよね。

154A : ソッデー モー ヒャクショーイェー カッテ
それで もう 百姓家を 借りて

トマイオッタッタイナ。(B エー)
泊まっていたんだよね。(B ええ)

ヤドッチャ ナカッタッジャッデ。(B ウン ウーン)
宿については なかったものだから。(B うん うん)

熊本 30-4

ホッデ ヒャクショーノ アラケ〔24〕 カッテ
それで 百姓の アラケ〔を〕 借りて

トマイオッタッタイナ。(B ウーン)
泊まっていたんだよね。(B うん)

ウーン ザシキチ イオッヤッタイナー
うん [アラケのことは]座敷と 言っているよね

ユーテミレバ。
言ってみれば。

155 B : アルケタイナ ウン。
アラケだよね うん。

156 A : ウン。 ソーシター ヤッパー モドッ トキモ
うん。 そうして やはり 戻る 時も

アユーデ モドッヨッタガナ。
歩いて 戻っていたがね。

157 B : ンー。(A キチャー) ソントキ ヤッパー
うん。(A きつい) その時〔は〕 やはり

ソノ イク トキチャー ウチャーワ ナラダッツロイドン
その 行く 時は 歌うことは できなかつたろうが

モドリニチャー コー イッピャー ヒッカケテ
戻る時には こう 一杯 ひっかけて

熊本 30-5

158 A : アー モドリニャ モー トテモナ
ああ 戻る時には もう とてもね[我慢ができない]

159 B : ヤクセンモンナ。
[疲れて足が]役に立たないものね。

160 A : ハーイ ソラー モー。
はい それは もう。

161 B : ソイバ イッチョ ココデ (A ツエ)
それ[=戻る時の歌]を ひとつ ここで (A 杖)

ハジキジャーテミューカ。
はじき出してみようか。

162 A : ツエ チーテナ。
杖 ついてね。

163 B : ツエ チーテナー。
杖 ついてね。

164 A : ハーイ。
はい。

165 B : ンー。
うん。

166 C : ゼヒトモ (A バヤ) ツエバ コーテ モドランバン[25]。
ぜひとも (A ××) 杖を 買って 戻らねばならない。

熊本 30-6

(B ン ン) アタラシカトバ コーテ モドランバン。

(B うん うん) 新しいのを 買って 戻らねばならない。

167A : ワシドマ アラー[26] アノ エ エヌエチケー
私などは ほら あの × NHK[に]

デテクレジャッタモンデー X11バサント
出てくれ[ということ]だったものだから X11おばあさんと

ワシト デタッタイ ハラ アノ (B ハイ ハイ)
私と 出たんだよ ほら あの (B はい はい)

ヒトヨシノー ナンカ サガラジンシャノー
人吉の なんか 相良神社の

キタノ ホーンデスナ (B ン) クマガワバタデ。
北の ほうにですね (B うん) 球磨川端。

(B ウーン) アントキモ エヌエチケーカラ
(B うん) あの時も NHKから

ヤトイガ アッタデ[27] イ イタッデシタモンナ。
雇いに 来られたので × 行ったのでしたものね。

(B ン ン) ソシテー アラ シンブンニモ
(B うん うん) そして あれは 新聞にも

アッ デタカナー ヤッパイ。 ドギャンヤッタカシラン。
ああ 出たかな やはり。 どうだったかしら。

168 B : ア シンブンニモ テレビニモ デタデショー。
ああ 新聞にも テレビにも 出たでしょう。

169 A : アー タシカ デ デワ センヤツツロカシラン ソントキ。
ああ 確か × 出は しなかったろうかしら その時。

デタゴタッタ。

出たようだった。

30↑31

170 B : ソイバ ジーサン イッチョ ヤツテクレテンナイ。
それを おじいさん ひとつ やっておくれよ。

オタケーチャーイ ソン モドッテクットコイバ。
お嶽[さん]参りに その 戻ってくるころを。

171 A : アントキャナー ヤッパ アノ キャハン シテナ
あの時はね やはり あの 脚絆[を] してね

(B ウン) ワシドマ アワセ モッテイタテ

(B うん) 私などは 裕[を] 持って行って

アワセ キテ ソシテ モー ヤッパ ソン

裕[を] 着て そして もう やはり その

ミァッタ トキノグタツ シタクシテ ヤッタッタイナ。

参った 時のような 支度して やったのだよな。

(B ンー ンー) ソシテ ウエン ダンカル コー

(B うん うん) そして 上の 段から こう

熊本 31-2

オリテ シテ オリルマデナ ウタガ イクツ
下りて そして 下りるまでには 歌が いくつ

シタカッ ココマデ イクトガ イクツテ
下から ここまで 行くのが いくつと

ワヤ キマットッタデナ。 (B エー エー)
ほら 決まっていたのだからね。(B ええ ええ)

アーイ。 ソッデ
はい。 それで

172B : パーサンナー ソッジャ X12ジーサント
おばあさんは それでは X12おじいさんと

イッショニ ミャンナイタ コトン アットヤロモン。
一緒に 参りなされた ことが あるんだらうね。

173C : ハーイ イッペンナ アットバイ。
はい 一度は あるんだよ。

174B : ー。
うん。

175A : ソッデ ソン ヒトイジャ ソーユーフーン[28]
それで その 一人では そういうふう

ジャッタモンジャッデ
だったものだから

熊本 31-3

ソギャシテ ムコーカラ
そのようにして[=組になって出るようにして] 先方から

ユーテモラウゴトシテ。 (B ウーン)
言ってもらうようにして[出たんだよ]。 (B うん)

カサ シャーテ(29)ナ。 (B ーン)
傘[を] さしてね。 (B うん)

カサニャ アノ ナンカ (C タイノ)
傘には あの なにか (C 鯛の)

タンモンガンデ ツクッタ クッシノゴタットバ (B アー)
反物紙で 作った 菓子のようなものを (B ああ)

サゲテナ。 (B ハイ ハイ)
さげてね。 (B はい はい)

176C : タイドマ サゲテ
鯛なんか さげて

177A : ソラ モットッデスバイ ワシャ マダ。
それは 持っていますよ 私は まだ。

178C : カサナ。
傘ね。

179A : モツテキテ モツテキテ ミセテモ ヨカガ。
持ってきて 持ってきて 見せても いいが。

180 B : エ ア ソーナ。
ええ ああ そうね。

181 A : ア。
ああ。

182 B : エ モ アットナ マダ。
ええ もう あるのかね まだ。

183 A : アルバイ。ワシャ モットルモン ソラ。 アー。
あるとも。私は 持っているもの それは。 ああ。

184 B : エー エー。
ええ ええ。

185 A : モッテキテ ミセテ ヨカ ホント。
持ってきて 見せて[も] いい 本当。

186 B : エ ソラー ミランバ[30]ナ。
ええ それは 見なければね。

187 A : モ モッテキテミューカナ。
× 持ってきてみようかね。

188 B : ハイ。
はい。

189 A : ノチー ヨカロカナ。 {笑} ソッデ イツデモ
あとで いいかな。 {笑} それで いつでも

熊本 31-5

ソノ マネワ デクットタイナ。(B フン フン)
その まねは できるんだよね。(B うん うん)

コーモリガサ ソン クッシノグタット サゲテ
こうもり傘[に] その 菓子のようなものを さげて

(B アー) ソイカラ ワラジシャカ フメバ。

(B ああ) それから わらじさえ 履けば。

190C : クッ クッシモ サガットツナ。

×× 菓子も さがっているね。

191A : キャハンガ モタントタイ ドイ イマワナ。

脚絆を 持っていないんだよ なにしろ 今はね。

(B エー) キャハンマデ セニャー ムカシノ シタクィ

(B ええ) 脚絆まで しなければ 昔の 支度に

ナランモンナ ヤッパ。(B シン ンー)

ならないものね やはり。(B うん うん)

ソシテ アワセ キテ シリ ツブッテナ。

そして 拾[を] 着て 裾[を] まくりあげてね。

192B : シテ ブラクノ モンガ デムキヤー ド ドンガ

そして 集落の 者が 出迎え × などが

シ アリャ センダッタカニャナ。

× ありは しなかったかしらね。

熊本 31-6

193A : デムキャーワ ムカシャ モー ズット タラッカラ クレバ
出迎えは 昔は もう ずっと 多良木から 来ると

ズーット モー メイショ メイショ
ずっと もう 名所 名所[で]

ヒガシカタン マエ コンダ チューガハル
東方の 前 今度は 忠ヶ原

マタ アノ タツボリー コンダ ハルチューグタッフーデ
また あの 龍掘に 今度は 原というようなふうで

ズーット ブラク ブラクデ
ずっと 集落 集落で[出迎えていたよ]

194B : メイ メイショ カットシュイ[31]。
×× 名所[で] 次々に。

195A : ハイ。(B エー) マットイオヤッタッタイナ。
はい。(B ええ) 待っておられたんだよね。

(B ンー) ソスット エンカナンカガ マットレバ
(B うん) そうすると 親戚などが 待っていると

モー スケニャ ヤッパー アノー ムー ミヤゲナンカ
もう そこには やはり あの ×× みやげなど

ヤイオッタッタイナ。 ドイ サカムキャー[32] ッテ
やっていたんだよね。 なにしろ さかむかえとって

ショーチューモ ヤウモンジャッデナ。
焼酎も やるものだからね。

196 B : ト メンダンチャヤチューワ トクベツニ
× 免田の茶屋というのは 特別に

ソン ユーガ アラ ナシュジャロカナ。
その 言うが あれは どうしてだろうかね。

31↑32

メンダンチャヤデ ドッコイ [33] トカ ユータ
「免田ん茶屋で ドッコイ」 とか 言うのは

アラ ヤッパ ヨケマン [34] スッ トコイ
あれは やはり 中休み する ところに

ツゴーワ ヨカッタッジャロカ。
都合が よかったのだろうか。

197 A : ソレワー メンダノチャヤチューノワ ムカシカラ アッタ
それは 免田の茶屋というのは 昔から あった

メンダンチャヤヤッデナ。(B ンー)
免田の茶屋だからね。(B うん)

ソレデ ヤッパー エー アスコデ ソノー
それで やはり ええ あそこで その

カサオ ワスレター ナイヨエー チュー ウタジャッデナ。
「傘を 忘れた ナイヨエー」 という 歌だからね。

(B {笑} ソイ) ソッデ ソ

(B {笑} その) それで ×

198C : ソッデ アスコデ ヒトーヨケ ヨケオータッジャロ。
それで あそこで 一休み 休んでいたんだろ。

199A : アー ヒトヨケ ヨ ヨケヨッタデ スギャユー トコジャロナ。
ああ 一休み × 休んでいたのだから そういふ ところだろうな。

200C : メンダンチャヤ メンダント ジャッデナ。
免田の茶屋 免田のと だからね。

201B : ソー ソー。 イッチョ ソン バサンデン ヨカ
うん うん。 ひとつ その おばあさんでも いい

アノ メンダンチャヤ イヤ アノ ナンカニヤ
あの 免田の茶屋 いや あの なんだっけ

オタケミャーリッテバー イッチョドマ コ
お嶽[さん]参りというのを ひとつくらい こう

トチューデ ウトーテミューヤ。
途中で 歌ってみようよ。

32↑

—— 中 略 ——

202C : イマー フロバッテ ユーバッテンナ
今は 風呂場って 言うけれどもね

↑33

熊本 33-2

ムカシャ ツブル[35]ッテ。 テ ソン
昔は ツプロって[言った]。そして その

ナンゲンモネデ ソン カチャリシモ、 シタツタイナ。
何軒も×で その 共同で していたよね。

シテ モー オトコーノ イラン カギンニャ
そして もう 男が 入らない かぎりは

オンナワ イッチャナン トナ
女は 入っちゃいけない とね

203 B : シ ソン。
うん うん。

204 C : ユーテ シオッタモンジャッデ。
[と]言って していたものだから。

205 A : オユナ ユ。
お風呂ね 風呂。

206 C : オユ。
お風呂。

207 A : ハイ ハイ。
はい はい。

208 C : イシツプロ [36]タイナ イシツプロ。
石の風呂だよな 石の風呂。

熊本 33-3

209A : アー ムカシャ ソギャーヤッタモンナ。
ああ 昔は そんなだったものね。

210C : ハイ ソイモンジャッデ モー オトコノ イッテシモーテカラ
はい それだものだから もう 男が 入ってしまってから

ン メシ クテカラ
うん ごはん[を] 食べてから

オナゴワ ジャロガナ。
女は [入るの]だろうがね。

211A : ハーイ。
はい。

212C : ソンモンジャッデ オナゴタチノ イラセックダイヨー ッテ
それだものだから 女たちが 「入らせてくださいよ」 って

キヤッモンナ。
来られるものね。

213A : ン。
うん。

214C : スット ハイ インナイヨー アノ ヌルカイバ
すると 「はい お入りなさいよ。 あの ぬるければ

チャーテ イッテクダイナー。 ソケ タクモンモ アッデー
焚いて 入ってくださいね。 そこに 薪も あるから」

熊本 33-4

チオッタッタイナ。 (A・B ソ)
とっていたんだよね。(A・B そう)

ドコデモ。
どこでも[そういうふうにしていた]。

215A : ソ。
そう。

216B : ジャッタ。
そうだった。

217C : ソット モ ヒュン[37]ドモ イタテ イッテミレバ
すると もう いちばん最後まで 行って 入ってみると

モー コメノ トギシュン[38]ノゴタットタイ。
もう 米の 研ぎ汁みたいなんだよ。

シルオーシテ。 ネッパネッパシタ。 {笑}
白くなって。 ねばねばした。 {笑}

(A・B {笑}) ソスト ウチノ バサンナ
(A・B {笑}) すると うちの おばあさんは

ニンゲンヨシジャモンジャッデ (B {笑})
おひとよしなものだから (B {笑})

X13バーサントイナ。
X13おばあさんね。

218A : ン。

うん。

219C : ソンシタ ギャンテ イランバ キケンデ

その人は「こんなのに 入らねば [体には]きかないから」

ッテ。(A・B {笑}) クスリ ナッ チテ。

って。(A・B {笑}) 「薬[に] なる」と言って。

220B : アーア ソーラー (A {笑})

ああ それは (A {笑})

221C : ヤッタチガ イッテカラ オラ イッデー ッテ

「あなたたちが 入ってから 私は 入るから」 って

イイヤッタゲデー チテ イッオッヤッタデナ。 {笑}

言いなさったそうだと 言っておられたからね。 {笑}

(B {笑})

(B {笑})

222A : ヤッパ ヤッタチガートカナ (C ハイ) (B ン)

やはり あなたたちがとかね (C はい) (B うん)

ナントカー チオッタモンナ。

なんとか 言っていたものね。

223C : ハイ。

はい。

熊本 33-6

224 B : アー ドイ アノ クスリ ナッ チェバ
ああ なにしろ あの 薬[に] なる と言え

スクイヨガ (A ン) (C ハイ)
//// (A うん) (C はい)

スクィホド ヨカッジャモンナー。
//// いいんだものね。

225 C : ハイ。(A ンー) ソノ イッタクッ アカガ
はい。(A うん) その 溶けている 垢が

ソノ クスリ ナッ チテ ムカシャ (B ン)
その 薬[に] なる と言って 昔は (B うん)

イ イオッタッタイナ。アタ。(A ン)
× 言っていたものね。あなた。(A うん)

トシナモン {笑} ホッデ モー オッカサンヨカ
年寄り[が] {笑} それで もう お姑さんより

サーキー フロニャ イッヨモシタッタイ。
先に 風呂には 入っていたんですよ。

イッヨモシタッタイナー。{笑} (A ンー)
入っていたんですよ。{笑} (A うん)

ソースト モー トナリ オモシカ ジーサンノ
そうすると もう 隣[に] おもしろい おじいさんが

オンナイタモンヤッデ。 アンドン トベテ。
おられたものだから。 行灯[を] 灯して[来ておられた]。

アンドンテ シットンナスド。
行灯って ご存知でしょう。

226 B : アンドンナ。
行灯ね。

227 C : アンドン。(B ン)
行灯。(B うん)

228 A : ンー アンドンナ。
うん 行灯ね。

229 C : イラセックイヤイヨー ッテ キヤレバ
「入らせておくれよ」 って 来られると

ハーイ インナイヨー。 ジサーン オマイノ
「はい お入りよ。 おじいさん あなたが

イッテカラ ヨケナイナー。
入ってから[=入ったあとで] 休んでおいでよ。

チャバ キャトッデー ッテ イオッタタイ。
お茶を 沸かしておくから」 って 言っていたものだよ。

ソモ ゼヒトモ ソン アゲテ
それも ぜひとも その [家に]あげて

カタイ キコ トモテ。 (A・B {笑})
話[を] 聞こう と思って。(A・B {笑})

カタイジョズ カタイジョズナ。 ヒコイチ[39]が
話し上手[も] 話し上手でね。 彦一の

カタイ シテ カセヤッモンジャッデナ。
話[を] して 聞かせなざるものだからね。

(A ン) (B {笑}) マーア イッペン。
(A うん) (B {笑}) 「まあ いっぺん[話してよ]。

33↑34

マダ オンナイ マダ オンナイ テ。
まだ いてよ まだ いてよ」 って。

230 B : ア、 ア。 X14ジーサンナ。
ああ ああ。 X14おじいさんね。

231 C : ハイ。
はい。

232 B : エーエ。 {笑} クマノタイショー[40]。
ええ。 {笑} 球磨の大将。

233 C : クマノタイショー。
球磨の大将。

234 B : X14 チオッタナ。
X14 と言っていたね。

235 C : ハイ。

はい。

236 B : ンー。

うん。

237 C : ヤッチロ [41] イタテ クマノタイショーノ ナ
八代 [に] 行って 球磨の大將の 名 [を]

トッテキヤッタデナ。 {笑}

とってこられたのだからね。 {笑}

238 B : {笑} ジャッタタイ。 {笑}

{笑} そうだったとも。 {笑}

239 C : イカダ イカダノリバデナ。

筏 筏乗り場でね。

240 B : イカダデジャッタゲナナ {笑}

筏でだったそうだね。 {笑}

241 C : ハイ。 {笑} アンシトン コトドンジャロー

はい。 {笑} あの人の [する]ことったらね

オドマー シラン [42]。

まあ あきれた。

242 B : ハイ ハイ。 カリマシャ [43] X15ジータ

はい はい。 狩政に X15おじいさんって

熊本 34-3

オイヤッタゲナガ ジーサンタチャ シットンナッド。
おられたそうだが おじいさんたちは ご存知でしょう。

243A : X15ジーナ ドーイ シランバイ。
X15おじいさんね さあ 知らないよ。

244B : シンナレンナ。
ご存知でない？

245C : X15ジーチュータ アスコジャロガナ
X15おじいさんというのは あそこだろうがね

イマノ ハー X16ドンカタ。
今の ほら X16さんの家。

246A : カモシレンナ ホント。
かもしれないね 本当[に]。

247C : ジャッバイ。(B エー)
そうだよ。(B ええ)

248A : N ジャロ ジャロ ト
うん そうだろう そうだろう と

ウマレガ オラ イチブデ ナカデナ。
生まれが 私は 一武で ないからね。

249B : Nー。
うん。

熊本 34-4

250 A : ダイタイガ ニシノムラー アルテイド シットルバッテンナー。
だいたいが 西村は ある程度 知っているけれどね。

251 B : シ ソイガ ナーンカ ガッコーツクイノ
うん それ [=その人] が なにか 学校建築の

クヤクカナンカ イタテ サガイヤミャー [44]
公役かなんか [に] 行って 下り山に

タケ キッキャー イタテン ソン
竹 [を] 切りに 行っても その

ドーイ ソン ヒトノ ナンジューニンブン
なにしろ その 人の 何十人分 [も]

カタゲテ モドイヤッタゲナモン。
担いで 戻られたそうなもの。

252 A : エー。
ええ。

253 B : ソーイデ ソン アシモ ヒャッテ ソン
それで その 足も 入って [=めりこんで] その

ヌッカチャ モ フテ メー アイオイヤッタゲナタイナ。
抜くのに もう ひどい めに あっておられたそうだよ。

(A ソー) ホッデ パリパリ パリパリ ユーモンジャッデ

(A うん) それで パリパリ パリパリ いうものだから

熊本 34-5

マ ヨーナ オトン スルモン トモテ
「まあ へんな 音が するね」 と思って

オレーテミヤッタゲナガ ガッコン テマエ キテカラ。
下してみられたそうだが 学校の 手前[まで] 来てから。

(A ソー) ヒャクニジッカタ[45]バカイ

(A そう) 120かたばかり

タケァ タケーバ カタゲトイヤットゲナタイ。
竹は 竹を 担いでおられたそうだよ。

(A {笑}) アー。 ソラ モ

(A {笑}) ああ。 それは もう

ホントチャ キキャ ナンドンナ。
本当は 聞くことは できないけれどね。

(A ン) パリパリ ユーゲナイドン ソン ミンナー

(A うん) パリパリ いうそうだけれど その みんな

オモシャ チーワレットットゲナタイナ。
重さ[のため]に 割れてしまっているそうだものね。

254A : エー。(C {笑}) エー。 {笑}

ええ。(C {笑}) ええ。 {笑}

255B : コーラ シモタ ナンジャ ナラン。

「これは しまった なんにも ならない。

熊本 34-6

ホバテン ヨゴザンモシター。
けれども いいあんばいでした。

コカバダケ イチバーン ミンナガ ヨロコンモシタ
小壁竹[に] いちばん[いいと] みんなが 喜びました」

チテテ イーヤッタ チューガナ。
って 言われた という[話だ]がね。

256 A : エエー。
ええ。

257 B : ソン X15ジータ キ キキヨットタイ。
その X15おじいさんって × 聞いているんだよ。

258 A : ンー。
うん。

259 C : カタイジョズジャッタバイナ ホント。
語り上手だったんだな 本当[に]。

260 B : エー。
ええ。

261 C : カタイジョズタイナ。 ソギャ ユーテ ワヤ
語り上手だよね。 そんなふうに 言って ほら

ヤッパイ ワイ ユーテ ワヤ。
やはり ほら 言って ほら。

262 A : ハー ヤッパー ソ
はあ やはり そう

263 B : バーサンタチャ シットンナット。
おばあさん [= C] たちは ご存知ですか。

ソン ジサンナ。
その おじいさん [= X14] は。

264 C : ジサンナ シランドン ナワ シットツタイナ。
おじいさんは 知らないけれど 名前は 知っているよ。

265 B : エー。
ええ。

266 C : ソコンニキヤー
そのところは [詳しくは知らないけれども]

267 A : スギヤントコサ モー ユーテミレバナ (B シン)
そんなことこそ もう 言ってみればね (B うん うん)

ホントッテ オモテ キキヤ ナンデ。 {笑}
本当って 思っ て 聞 く こと は でき ない から。 {笑}

ヒャクニジツカタモ イクラモ カタグッチワ
120かたも いくらも 担ぐとは

ドーイ。
どうも [信じられない]。

268 C : ムカシャ フトカ コト カタッテ
昔は 大きな こと[を] 話して

カセオッヤッタデ ジサンタチノ。
聞かせておられたのだから おじいさんたちが。

269 A : ソッデ フトカゴト カタイオッ、 イヤッタ ワケタイナ。
それで 大きさに 話している いらっしやった わけだよな。

34↑35

270 B : ドダーイ モ クマグンダケデ
もともと もう 球磨郡だけで

ヨカッタッジャモンジャッデナ。
よかった[=みんなすんでいた]ものだからね。

(A ソ ソ ソ) モー ヨソカラ
(A そう そう そう) もう よそ[の土地]から

ヨメサン モロタイ スレバ ドーイ ソン
お嫁さん[を] もらったり すると なにしる その

(A アー) アー ドコノ ナンカニャ カラス
(A ああ) ああ どのの なんだっけ 烏

ドコノ ウマンホネテロノ (A アー)
どのの 馬の骨とか (A ああ)

ナーンカ ソギャンシタン コト ユーテ
なんか そうした こと[を] 言って

熊本 35-2

コー (C ナ) テン クセ ツケテ
こう (C なあ) ×× [難]癖[を] つけて

ヨカイオッタモンナ。
よかったものね。

271A : ホント (B {笑}) ハナシノ ジョズガナー
本当[に] (B {笑}) 話の 上手[な人]がね

フテー コト ユーテ カタッデ ホントン。
大きい こと[を] 言って 話すから 本当に。

272C : フテー コト ユーテ カタッデナ。
大きい こと[を] 言って 話すんだからね。

ソノ X14ジーチャットガ
その X14おじいさんという人が

フテ コト ユーテ カタイオットヤツタガ
大きい こと[を] 言って 話しているのだったが

273B : アーア オモシカ ジイヤッタナ。 (A アー) アー。
ああ おもしろい おじいさんだったね。(A ああ) ああ。

274C : イカダ イタテナ フタイカ サンニンカ
筏[乗り場に] 行ってね 2人か 3人か

ソ デシガ オルゲナモンジャッデ
その 弟子が いるそうだから

熊本 35-3

ノミキヤー ソン ツレテ アリャートゲナタイナ
飲みにも その 連れて 歩くんだそうだよな

ソット ソン ゼンナ イッチョン
すると その お金は 少しも

モチャレントゲナモン (A エー)
持ってはいられないようだよもの (A ええ)

X14チュータ。 (A エー) (B {笑})
X14という人は。 (A ええ) (B {笑})

オラ ドーイ ゼンナ X14 モタンゾ ッテ
「私は なにしろ お金は X14 持たんぞ」 って

ユーゲナモン ソロイト アトカラ。
言うそうだよもの そっと あとから。

ソー ヨカ ヨカー オイガ アトカラ チーテケ
「うん いい いい 私の あとから ついてこい

ナンダイコト ナカデ ッテ ユーテ ***カラ
なんてこと[は] ないから」 って 言って ***から

ノーダイ クタイ シテカラ ジョッチューニ
飲んだり 食べたり してから 接客係に

アノー コラ ソントコラ ジューエンサツジャッタデナ
あの これは その頃は 10円札だったからね

熊本 35-4

(B アイ ジューエンサツジャッ)

(B はい 10円札だ)

ジューエンサツジャイガ クジューカイ
「10円札だが くずれるかい」

チャッゲナモン (B {笑})

と言われるそうなもの (B {笑})

アラー ソガンタ クジーマサン
「あら そんな[大きな]のは くずれません」

エー ソッジャ マタタイ ッテ ユーテ
「ええ それでは またね[=今度払うよ]」 って 言って

ソ ツーンチテ (B {笑}) ズーット ハラワジイ
そう つんとして (B {笑}) ずっと 払わずに

ソギャ シテキオッタ テ (A エー)
そのように してきていた って (A ええ)

カタッテ カセオイヤッタ。 (A・B {笑})
話して 聞かせておられた。 (A・B {笑})

ユニ イリ キテ ソギャン コト
風呂に 入り[に] 来て そんな こと[を]

カタッテ カセヤッモンジャッデ (A エー) (B {笑})
話して 聞かせなざるものだから (A ええ) (B {笑})

熊本 35-5

{笑} ゼーヒトモ ヨケナイ チ

{笑} 「ぜひとも 休んでいきなさい」と[言って]

(A エー) ヨコワセヨッタッタイナ。

(A ええ) 休ませていたんだよね。

275 B : アノ アンドン アンドンカニャ ナ ナンチュートカニャ。
あの 行灯 行灯かな × なんとこのかな。

276 C : アンドン。
行灯。

277 B : アレ アノ X17クンガ クマンタイショー X14テ
あれ あの X17君が 球磨の大将 X14って

キャーテクレタ コト アッデナ。
書いてくれた こと[が] あるからね。

(C {笑}) ソ オドンガ シッテカラタイナ。

(C {笑}) そう 私が 物心ついてからだよね。

(A ーン) ヨロクーデ ジブンナ。

(A うん) 喜んで 本人は。

278 C : アレ セキュスイテジャモンナ。
あれ[は] 石油水って[いうの]だものね。

279 B : セキュスイ イルットヤッタナ。
[行灯には]石油水[を] 入れるのだったね。

280C : ハイ アノ マークロク ナッテ。(A ソ)
はい あの [紙は]真っ黒に なって。(A そう)

281B : アノ マールカ コンクラバキャントノ。
あの まるい このくらいばかりの[大きさの]ものの。

282C : マーックロ ナッテ。
真っ黒[に] なって。

35↑

— 中 略 —

283D : ソー オイドケ[46]ヤ イツゴロマデ
そう オイドケは いつ頃まで

↑36

ツクイヨンナッタデショーカ。
作っておられたでしょうか。

284C : ウォイドケワー モ コノ セン (A モー)
オイドケは もう この ×× (A もう)

センサーノ ハジマル マエ、ゴロマデワ ウチヘンナ
戦争の 始まる 前頃までは うちのあたりは

ツクイモシタデ ウォー。
作りましたから 麻を。

285D : ナルホド。
なるほど。

286 A : ナンネンゴロジャッタローカーナ。
何年頃だったろうかな。

287 B : タイショーजूゴネンゴロー
大正15年頃

288 A : ウチヘンモ ツクイオッタツジャモンナ。
うちのあたりも 作っていたんだものね。

289 C : ハーイ。
はい。

290 A : ハー。
はあ。

291 B : ワシモ ツイテ ソケ イチノミヤ[47]ン ニキー
私も ついて そこに 一の宮の そばに

チ チーテイキヨッタ コトン アットタイナー。
× ついていっていた ことが あるんだよね。

(A エー) デ タイショーカ ショーワノ
(A ええ) それで 大正か 昭和の

ハジメゴロマジャ ツクリヨッタカモシレンデスナ。
初め頃までは 作っていたかもしれないですね。

292 A : ソーカモシレンデスナ。
そうかもしれないですね。

293C : ハーイ。

はい。

294B : ソーシテ アノ カワバチャ コ ツイサゲトツテ
そうして あの 川端に こう 吊り下げておいて

アノー ナ。(C ハイ) ウォイドケバ ヒキアゲテ
あの な。(C はい) オイドケを 引き上げて

カウチャー ドサーット (A アー) タオシテ[48]
川に ドサッと (A ああ) 倒して

295A : マ アッチヘンナ ソギャンジャッタロナ。
まあ あっちのあたりは そのようだったろうね。

296B : ハイ。ワシドンナ スギャン ショッタデス。
はい。私などは そのように していたのです。

297A : スット ウチヘンニー ナレバナ アノー
すると うちのあたりに なればね あの

カワガ ナカモンジャッデナ。(B ハイ)
川が ないものだからね。(B はい)

グルリ アノ オケ スエテーテ
まわりに あの 桶[を] 据えておいて

ミズ カケヨッタッタイナ。ズット。(B・C エー)
水[を] かけていたのだよね。ずっと。(B・C ええ)

熊本 36-4

ソレ ミズ ズビャー〔49〕 イレテーテ。
それ〔に〕 水〔を〕 たくさん 入れておいて。

(B ンー) モ イマワ イッパイ チューバッテン
(B うん) もう 今は 「いっぱい」と言うけれども

ソレ ムカシャ ズビャー イレテーテ チ
それ〔を〕 昔は 「ズビャーと 入れておいて」と

イオッタイナ。 (B ハー ハー ハイ)
言っていたよね。 (B はあ はあ はい)

スギャントガ マ キューシキタイナ
そのようなことが まあ 旧式〔な言い方〕だよな

(C ンー) ユーテミレバ。
(C うん) 言ってみれば。

298 B : ソ オユバ アノー ナンチューカナー
その お湯を〔沸かして〕 あの なんというかな

オモシヨッタ ア ア カマドタイナ。 (A アー)
〔麻を〕蒸していた × × かまどだよな。 (A ああ)

アイワ ナンカ ワシモ マダ トットッデスタイ。
あれは なんか 私も まだ 残しているんですよ。

299 A : アギャントーウ ウチヘンモ アルカモシレン。
あのようなものは うちのあたり〔に〕も あるかもしれない。

熊本 36-5

アノー コッチーワナー ヤッパ シゴケンデー (B ハイ)
あの こっちはね やはり 4、5軒で (B はい)

アノー モヨーテ ヤイオッタモンナ。(B ンー ン ン)
あの 共同で やっていたものね。(B うん うん うん)

ソッデ ヒトイ イッケン イッケンヤ ナカッタワケタイナ
それで 一人 一軒 一軒では なかったわけだよ

オイドケモ。(B ン ン ンー)
オイドケも。(B うん うん うん)

ソイカラ カマモナ。(B ハーイ ハーイ)
それから 釜もね。(B はい はい)

ソッデ アノー X18ノ
それで あの X18[さんの家]の

アスコン キドン トコレー イマー アノー
あそこの 木戸の ところに 今は あの

カンソシツ ツクッテアイガナ。(B ハイ)
乾燥室[を] 作ってあるがね。(B はい)

アスコノ ココン ハー アガイクチン
あそこの ここの ほら 上がり口の

トコイジャッタッタイナ。(B エー エ)
ところだったんだよね。(B ええ ええ)

熊本 36-6

チッタ ハラ イッポーワ ヒクナカランバイケンモンジャッデナ。
少しは ほら 一方は 低くなければいけないものだからね。

(B ソー ン) ホッデ アスコデー
(B うん うん) それで あそこで

ヤイオットッデスタイナ。 ヤッパイ アー。
[麻を蒸す仕事を]やっていたのですよね。 やはり ああ。

300B : エー エー。 アレワ ヤッパイ ダイブソ フルカッデショーナ。
ええ ええ。 あれは やはり だいぶん 古いことでしょうね。

ソノー ウォー ツクイオッタタ。
その 麻を 作っていたのは。

301A : モー デスナ。
もう [相当に古い]ですね。

302B : モー ズット ムカシカラデショーナ。
もう ずっと 昔からでしょうね。

クマガワニワ (A アー) (C アーア ムカシカラー)
球磨川には (A ああ) (C ああ 昔から)

アノ ソン アサノハノ ユライガ ズット
あの その 麻の葉の 由来が ずっと

ツズイトッデスデナ。(A アー)
続いていますからね。(A ああ)

キノーモ ユータギャー ユーバガワ [50] チュートノナンカモ
昨日も 言ったが 木綿葉川というの [=和歌] なども

(A ソ) ウォノハノ ナガレテクットカラ (C ハー)

(A そう) 麻の葉が 流れてくることから (C はあ)

36↑37

ウエイモ ダイカ マ ニッポンジンガ スンドッゾ
上流にも だれか まあ 日本人が 住んでるぞ

チューヨナ (A ソー) コトイバ

というような (A うん うん) ことを

ヤッシロフキンデ ソン ヨンダ ウタナンカイガ
八代付近で その 詠んだ 歌などが

ソイ キノ チット ユータトワ (A エー ソーナ)
それ[は] 昨日 少し 話したのは (A ええ そうね)

ウォノハノ ナガルット ミテ ヤッタヨナ コト
麻の葉が 流れるのを 見て だったような こと[が]

カイトアルモンナ。

[本に]書いてあるものね。

303A : エー。 ジャロナ。
ええ。 そうだろうね。

304B : アー。 (C エー)
ああ。 (C ええ)

305A : エー。

ええ。

306B : イマモー アスコアタヤ ツクヤ センデスカ
今も あそこのあたりは 作りは しないですか

ヤマダ[51]アタヤ。

山田あたりは。

307A : ア ヤマダ。 ソイカラ アッ ナンチュカナ アスコワ
ああ 山田。 それから ああ なんていうかな あそこは

エーット アスコワ ナンチュカニャ

えっと あそこは なんていうかな

ヤマダカラ アッチノ ホーワ ツクッジャロナ マダ。
山田から 向こうの ほうは 作るだろうな まだ。

308C : イマデモ ツクッドカナ。

今でも 作るだろうかな。

309B : タシカ ツクッ タシカ ツクットヤナカロカナ。

確か ××× 確か 作るのではなからうかな。

310A : チットナ

少しは

311C : エー。

ええ。

熊本 37-3

312A : アレモ アノ セイゲンノ アッテナ (B エー)
あれも あの 制限が あってね (B ええ)

アノー ホカン トコラ ツクラセジャッタツジャロ。
あの ほかの ところは 作らせなかったんだろ。

タシカ。(B エー ***) アレガ アノー
確か。(B ええ ***) あれが あの

ナンカ アノ ヤクヒンカ ナンカン ナルグタッフーナ
なんか あの 薬品か なにかに なるようなふうな

(B ーン) ハナシジャッタガナ。(B ーン)
(B うん) 話だったがね。(B うん)

ハー。ソギャンシタ ハナシモ キイタガナ。
はあ。そうした 話も 聞いたがね。

(C ***) (B ハイ) (C エー)
(C ***) (B はい) (C ええ)

313B : ミナイ ソーシキヤラ コー アノー
ほら 葬式やら こう あの

ヒトガ ウント アツマッテ チューショク ユーショク
人が うんと 集まって 昼食[や] 夕食[などを]

ジュンビ センバナラン トキニャ
準備 しなければならない 時には

熊本 37-4

イマノ ワリバシノ カワヤ ミンナ アサガラ[52]デ。
今の 割り箸の かわりは みんな 麻がらで[していた]。

314A : アー。 アサガラバシジャッタモンナ。

ああ。 麻がら箸だったものね。

315B : キレーナ ハシデ (A ハイ) ナ。(A ハイ)

きれいな 箸で (A はい) ね。(A はい)

マッシロシテ。 アッ (A アー) アサガラノ

真っ白で。 ×× (A ああ) 麻がらの

ハシジャッタタイナ。(A ハイ)

箸だったものね。(A はい)

316C : ハラ ハシー ナッタ ワヤ カワニ ツケテナ

ほら 箸に なるのは ほら 川に つけてね

(A ハイ) ミーテカラ (B ソー ン)

(A はい) むいてから (B うん うん)

カワニ ミッカバカイ ツケテーテ

川に 3日ばかり つけておいて

(A アレ ツケテーテナ) (B エー)

(A あれ つけておいてな) (B ええ)

アルーテ アゲテ ソシテ ホシテ

洗って 引き上げて そして 干して

熊本 37-5

(A ハイ) (B ーン) マッシロ ナッホド
(A はい) (B うん) 真っ白[に] なるくらい

フカシテ。(A ユー アゲヨッタデナ)
ふかして。(A よく 引き上げていたからね)

ホーシテ モー ソン ヘータイミタテ[53]ヤ
そうして もう その 兵隊見立てや

ナンヤラン トキニャナ。(A ハイ) (B ン ン)
なにやらの 時にはね。(A はい) (B うん うん)

モ バンニニャ (A ア) ハシヨバ コー
もう 晩には (A ああ) 箸を こう

(A ホントン) コンナガサバッカイナ
(A 本当に) この長さばかりね

(A ハイ) (B ン) ウャ アノ コー ホーチョデ
(A はい) (B うん) ×× あの こう 包丁で

グリット ヤッターテ
ぐるっと[まるく] やって[=切り目をつけて]おいて

(A ン) コー オッチャー ハシ シヨッタタイ。
(A うん) こう 折っては 箸[に] していたんだよ。

(A ホントン) (B エー) ハイ。
(A 本当に) (B ええ) はい。

熊本 37-6

317A : アラ マタ ユ ナカン
あれ [=麻がら] は また よく 中に

ホゲトルモンジャッデナ (C ハイ)
穴があいているものだからね (C はい)

ユ オレヨッタモン。 (C ハイ) (B ンー)
よく 折れていたもの。 (C はい) (B うん)

ドー モトガ ツヨカッタッタイナ。
なにしろ 根もと [のほう] が 強かったのだよね。

モトーガ アナン コマカデナ ヤッパ。
根もと [のほう] が 穴が 小さいからね やはり。

(C ーハイ) (B ンー) ウエー ナレバ
(C はい) (B うん) 上 [のほう] に なるよ

モー ヤッパ アナン チット フ
もう やはり 穴が 少し ×

318C : アイドマ イェッテナ センバンモンジャッデ。
あれなどは 選ってね しなくてはならないものだから。

319A : ハイ ハイ。
はい はい。

320B : ンー。
うん。

321C : ハイ。

はい。

322A : オモニ ソノ コマカートバ ソギャ

主に その 小さいのを そのように

シオッタツジャモンナ。

[箸に]していたのだからね。

323C : ハイ コマカトバ。

はい 小さいのを。

324A : コマカッデ センバ ハシニャ アンマイ フトシナ。

小さいので しなければ 箸には あまり[に] 太いしね。

325B : エー ソーカ。 ソーDESTAYNA。

ああ そうか。 そうですね。

326C : ミーンナ ソン コン コユビングタットーバ

みんな その この 小指くらい[の太さ]のを

(A ハイ) イェッテー ソロエテナ。

(A はい) 選って そろえてね。

(A ソ ソ) (B ンー)

(A そう そう) (B うん)

ギャッバッカイズツ (A ンー)

|手でしぐさをして|このくらいずつ (A うん)

熊本 37-8

フタマクイバツカイ カウヤ ツケオッタッタイナ。
2 束ばかり 川に つけていたんだよね。

(A ホントン)

(A 本当に)

37↑

熊本県球磨郡錦町1980注記

- [1] タイ
「タイ」に直接対応する共通語形がないので、状況・文脈に応じて適宜訳した。
- [2] オイギャン
私のうちに。「ギャン」というのは、「ガ」（格助詞）、「へ」（名詞）、「ニ」（助詞）の融合してできた語で、「のほうに」ということ。
- [3] オドマ
「オレドモワ」の縮まった語。単数の場合と複数の場合とがあるが、どちらかというとなら複数の場合が多いようである。
- [4] オドンギャサミヤ
私たちの（家の）ほうへ。「サミヤ」は「サマへ」で方角を表す。
- [5] クバイ
「クバリ」（配り）が「クバイ」となったもの。肥後南部の中球磨地方では、語中・語尾のラ行音節は子音 [r] が脱落して母音だけとなる顕著な傾向がある。これは、中球磨・上球磨の特色で、下球磨と呼ばれる人吉市および球磨村あたりには見られない。
- [6] X1 チョーバノ キッ トロガ デタ
当時流行した歌で、トロッコで土を運ぶ時の労働歌である。
- [7] シ
「シュー」（衆）の縮まった語で、ごく軽い敬意を含む。一人の場合にも多数の場合にも使う。
- [8] イッヤナントタイ
入れないのだよ。「ナン」は「ナラン」の省略形。不可能または禁止を表す。この場合は不可能。「ナラン」は、主体の動作が主体の能力外の制約によって遂行不可能の状態にあることを表す。主体に動作実現の能力がない時には「キラン」と言う。
- [9] ミナイ
相手の記憶を呼び起こすための一種の感動詞。

- [10] テツガタキオ ダキコンデ
大相撲を狂言にした劇の中で歌ったもの。その劇を指導したのがX4氏という老人である。「テツガタキ」は相撲取りの名。
- [11] ヌサダイオッタ
「ヌサズニオッタ」の崩れた形か。「ダイ」の部分は不明。「ヌサ」は「ヌス」の未然形で、通常否定の形「ヌサン」「ヌスコトジャナカ」の形で現れ、「たえられない」「たまらない」の意を表す。
- [12] ドイ、ドーイ
強調する時、話題を変える時などに用いる、一種の感動詞。
- [13] サンガツノ サンジューンチ
湯前線の落成式が1924(大正13)年3月30日にあったことを意味する。
- [14] キラダッタ
正確に言うと、「キラランダッタ」と言うべきところ。「キル」は可能・不可能の条件が動作主体の能力による場合に使用される。「キラン」はその否定形で、主体に動作実現の能力がない場合に使用される。主体外の制約で行為の遂行ができない時には「ナラン」と言う。
- [15] キャ、キャー
目的を示す格助詞。「ギャ」「ギャー」となることもある。
- [16] アユデ
歩いて。「アユーデ」の縮まった形。「アユーデ」は「あゆみて」のウ音便。この地域では、「あゆむ」は撥音便「アユンデ」にならず、ウ音便「アユーデ」となる。
- [17] フーキャン
はなはだしく。たいそう。程度を表す副詞。「フーキャンノ」「フーキャンノー」となることもある。
- [18] オタケサンマイリ
お嶽さん参り。旧暦3月16日の祭礼の日に詣でるのを「お嶽さん参り」と称した。「お嶽さん」というのは、熊本・宮崎県境にそびえる市房山いちぶさやまの中腹に鎮座する市房山神社のこと。

- [19] スギャ
ここでは、乗り物などに乗らないで歩いていくことを意味する。
- [20] カルーテ
背負って。「カラウ」は背中にぴったりつくように背負うこと。「子どもをからう」などと言う。
- [21] イヤマ
地名。熊本県球磨郡水上村字湯山。市房山神社の登山口。
- [22] ドコデヤッタカニャ
尋ねるといふよりも、独り言めいた自らへの問いかけ。
- [23] ワヤー、ワヤ
相手に念を押す感動詞。
- [24] アラケ
座敷。「アルケ」とも言う。
- [25] ツエバ コーテ モドランバン
市房山神社からの帰りには、山で産する黒文字の杖を買って帰る風習があった。
- [26] アラー
相手の注意を喚起する時に用いる感動詞。
- [27] ヤトイガ アッタデ
「～ガアル」という言い方は、軽い敬意を表す。
- [28] ソーユーフーン
お嶽さん参りは、一人ではなく連れ立って参ることになっていた。
- [29] カサ シャーテ
傘をさして。お嶽さん参りには必ず傘を携帯することになっていた。
- [30] ミランバ
見なければ。「ミラネバ」が変化した形。未然形は「ミラ」。この地域では、「ミル」（見る）はほとんど四段化している。
- [31] カットシュイ
次々に。順繰りに。「カットシュー」とも言う。

- [32] サカムキヤー
さかむかえ。旅に出た者が郷里へ帰ってきた時に、村境などまで出迎えて、酒食の饗応などをして慰労すること。
- [33] メンダンチャヤデ ドッコイ
お嶽さん参りの時に歌う歌の文句。「免田ん茶屋でドッコイ傘を忘れたナイヨエー」。
- [34] ヨケマン
休憩，休息，休み。休日，休暇。間食。
- [35] ツブル
風呂。「ツプロ」「ユツプロ」とも言う。「ユツプロ」は「湯つ風呂」，つまり、「湯の風呂」ということである。風呂全体のことにも単に浴槽だけのことにも用いる。
- [36] イシツプロ
石の風呂。昔は，球磨郡内の農村の浴槽は，凝灰岩を楕円形にくりぬいたものであった。
- [37] ヒュン
尻，臀部。いちばん最後，最後の順番。「ヒュー」とも言う。
- [38] シュン
汁。「シル」が拗音化して「シュル」となり，さらに撥音化して「シュン」となっている。
- [39] ヒコイチ
主に熊本県球磨郡や八代地方に伝承されている笑話「彦市話（ひこいちばなし）」の主人公。
- [40] クマノタイショー
球磨の大将。X14氏のあだ名。
- [41] ヤッチロ
熊本県八代市。通称「ヤッチロ」と言う。
- [42] オドマー シラン
「オレドモワ シラン」，つまり，「私は知らない」が直訳であるが，感動詞として，驚いた時，あきれた時などにも使う。「まあ，驚いた」とか，

「まあ、あきれた」という程度の意味。年配の女性が用い、男性は使わない。

[43] カリマシャ

「カリマサン」(狩政に)の縮まった言い方。「カリマサ」は地名。熊本県球磨郡錦町一武字狩政。

[44] サガイヤミャー

サガリヤマニ。「サガリヤマ」(下り山)は、熊本県球磨郡錦町の南部の山地で、昔、須恵器を作っていた遺跡がある。

[45] カタ

肩に担ぐ量・重さで、木と竹とは異なる。

[46] オイドケ

芋茹笥。刈りとった麻を蒸して、皮を剥ぎやすくする桶状の道具。大釜の上に据えて、蒸気で麻を蒸す。直径50～60cm、長さ2～3m。

[47] イチノミヤ

麻作りの盛んな頃は、集落の便利のいいところに、共同で麻を蒸す場所があった。

[48] カウチャー ドサーット タオシテ

オイドケの中に麻を入れて蒸し上げたものは、オイドケごと流水の中につけて冷やす。それから、麻をオイドケから出して、1本1本手で剥いで、繊維をとる。

[49] ズビャー

たくさん。いっぱい。「液状または粒状のものを、容器にいっぱいあふれるほど」という意味の副詞。

[50] ユーバガワ

「夏来れば麻の葉流るる木綿葉川 たれ水上に人の住むらん」という和歌のこと。

[51] ヤマダ

熊本県球磨郡山江村大字山田。錦町一武からは、球磨川の向こう側の村である。

[52] アサガラ

麻がら。麻の繊維をむいてとったあとの麻の茎のこと。小さくて長く、いろいろな用途に用いられた。箸にするのもその用途の一つである。

[53] ヘータイミタテ

戦時中まであった我が国の徴兵制度。現役または召集で兵隊に出ていく
壮丁を集落の人たちが盛大に宴を開いて送る行事。

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について

昭和52(1977)年度から昭和60(1985)年度にかけて、文化庁によって「各地方言収集緊急調査」が実施された。これは、「全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、これを記録・保存する」目的で行われた、全国規模での方言談話の収録事業である。国立国語研究所は、文化庁の要請により、この調査の計画段階から、指導・助言などにかかわっていた。

文化庁は、全国の都道府県教育委員会に各地方言の収集を指示した。47都道府県は、実施時期ごとに、第1次(昭和52(1977)~54(1979)年度)から第7次(昭和58(1983)~60(1985)年度)に分けられ、それぞれ3年計画で、収録を行った。

各都道府県教育委員会は、言語学、国語学、方言学の専門家から調査員として、主任調査員2名と調査員若干名を選出し、さらに、専門家や学識経験者を交えて、調査地点、具体的な調査方法、全国共通の場面設定会話項目などについて検討し、その結果をもとに調査を進めた。

その実施の概要は次のようなものである。

(1) 調査目的

全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、記録・保存する。自然な方言会話を良質な録音で採録し、後世に残す。

(2) 調査方法

(3)の調査内容にしたがって、1地点につき1年度あたり10時間程度の方言会話を良質な録音で採録する。そのうち、自然な方言会話の部分を3時間程度選んで、文字化を行い、共通語訳をつけて、記録として残す。

(3) 調査内容

- ①老年層の男女各1人による対話、または、男女を含む3人の会話(2時間)
- ②老年層の男性2人の対話、または、老年層の男性3人の会話(1時間)

- ③老年層の女性2人の対話、または、老年層の女性3人の会話（1時間）
- ④老年層と若年層との対話、または、両者を含む3人の会話（1時間）
- ⑤老年層の男性2人の、目上の者と目下の者の対話（2時間）
- ⑥場面設定の対話（1時間、各場面につき1～3分程度）

場面に応じて、老年層の男性2人の対話、または、老年層の男女各1人による対話

- ⑦当該地域に伝わる民話（1時間）

民話の語り手が存在する地点で収録を行う。収録不可能な場合は、

- ⑧老年層の女性2人の、目上の者と目下の者の会話（1時間）、

または、

- ⑨目上の老年層の男性と目下の老年層の女性の、2人の対話（1時間）を収録する。

①～⑤、⑧、⑨については、話題は自由。一般的には、「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどもの頃の遊び」「仕事」「土地の生業」「出稼ぎ」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」など。

⑥は、自然談話では得にくい各種の表現を得ることを目的として、特定場面を設定し、話者に「演技的対話」をさせる。「訪問」「辞去」「道でのあいさつ」「出産」「婚礼」「葬式」などの各種のあいさつ、「依頼」「指示」「助言」「買物」「勧誘」などの各種場面を設定する。具体的には、文化庁と各都道府県教育委員会が協議して、全国共通の数場面を設定する。

(4) 調査地点

調査地点は、各都道府県について5地点程度を選定する。文化庁および地元方言研究者の意見を聞いて、各都道府県教育委員会が決定する。

方言区画上、複数の区域に分かれる場合は、方言の状況が概観できるように、それぞれの区域から収録地点を選ぶ。特に、離島など、特色の認められる方言は可能な限り収録する。

(5) 話者

その土地で生まれ育ち、よその土地に住んだことのない、あるいは、よそ

の土地に住んだことがあっても、その期間が短い人とする。在外期間は3年以内が望ましい。

年齢は、原則として、老年層の場合は、収録時において60歳以上とし、若年層の場合は、20～30歳代とする。

話者相互の立場はほぼ対等であることを原則とする。

(6) 録音

自然な会話を良質な録音で残すため、使用する録音機の性能、マイクの種類・配置、テープの長さ、収録場所の音環境などに注意する。

録音テープ記録票には、採録地点、採録年月日、話題、時間、話者、採録機種などを記入する。

録音テープは、収録したオリジナルのテープ（正）を1本、正テープより文字化部分を編集したテープ（副）を2本作成する。

(7) 文字化

方言音声の文字化の際の表記は、原則として、カタカナ書きとし、方言の音声の特徴をある程度表し得るよう工夫する。文字化に対応する共通語訳をつける。文字化内容について、場面・文脈・特徴的音声・方言形の語義・用法などについての注記、表記法についての説明などを行う。各地点ごとに、収録地点の方言の特色について解説する。収録地点の位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・産業など、収録地点の概観について記述する。録音内容記録票には、話者の氏名・性・生年・経歴、録音内容などを記入する。

文字化原稿は、手書きのオリジナル原稿（正）を1部、正の複製（副）を2部作成する。

調査は、各都道府県教育委員会と連携のうえ、全国各地の方言研究者が全面的に協力して行われた。その結果、地域的密度、収録量、方言的内容のいずれの面からも、他に類を見ない高レベルのデータを得たのである。

調査終了後、これらの方言談話の録音テープとその文字化原稿は、各教育委員会から、「各地方言収集緊急調査」報告として、文化庁に提出され、永久保存されることとなった。

なお、調査実施からかなりの時間が経過しているため、当時の関係文書の入手は困難であったが、文化庁、各都道府県教育委員会の協力により、部分的には手に入れることができた。得られたものを、資料として、この章の末尾に掲げたので、ご参照いただきたい。

「各地方言収集緊急調査」地点一覧

北海道

- 01a 空知支庁樺戸郡新十津川町
- 01b 十勝支庁中川郡豊頃町
- 01c 渡島支庁亀田郡楸法華村(→函館市)
- 01d 渡島支庁松前郡松前町

青森県

- 02a 下北郡川内町(→むつ市)
- 02b 北津軽郡市浦村(→五所川原市)
- 02c 上北郡野辺地町
- 02d 三戸郡五戸町

岩手県

- 03a 久慈市
- 03b 宮古市
- 03c 遠野市
- 03d 大船渡市
- 03e 一関市

宮城県

- 04a 本吉郡本吉町・歌津町(→南三陸町)
- 04b 栗原郡築館町(→栗原市)
- 04c 仙台市
- 04d 亘理郡亘理町
- 04e 刈田郡七ヶ宿町

秋田県

- 05a 鹿角市
- 05b 能代市
- 05c 仙北郡西木村(→仙北市)
- 05d 河辺郡雄和町(→秋田市)
- 05e 湯沢市

山形県

- 06a 新庄市
- 06b 寒河江市
- 06c 東田川郡榊引町(→鶴岡市)
- 06d 東田川郡朝日村(→鶴岡市)
- 06e 西置賜郡飯豊町・東置賜郡川西町

福島県

- 07a いわき市
- 07b 大沼郡会津高田町(→会津美里町)
- 07c 大沼郡昭和村

茨城県

- 08a 高萩市
- 08b 久慈郡里美村(→常陸太田市)
- 08c 水戸市
- 08d 鹿島郡大野村(→鹿嶋市)
- 08e 古河市

栃木県

- 09a 大田原市
- 09b 日光市
- 09c 宇都宮市
- 09d 芳賀郡益子町
- 09e 安蘇郡田沼町(→佐野市)

群馬県

- 10a 利根郡片品村
- 10b 吾妻郡六合村
- 10c 前橋市
- 10d 邑楽郡大泉町
- 10e 甘楽郡下仁田町

埼玉県

- 11a 加須市
- 11b 南埼玉郡宮代町
- 11c 春日部市
- 11d 児玉郡上里町
- 11e 秩父郡長瀨町
- 11f 入間郡大井町 (→ふじみ野市)

千葉県

- 12a 海上郡飯岡町 (→旭市)
- 12b 印旛郡印西町 (→印西市)
- 12c 長生郡長生村
- 12d 木更津市
- 12e 館山市

東京都

- 13a 台東区
- 13b 西多摩郡檜原村
- 13c 大島町
- 13d 三宅村
- 13e 八丈町

神奈川県

- 14a 愛甲郡愛川町
- 14b 横須賀市
- 14c 秦野市
- 14d 小田原市

新潟県

- 15a 村上市
- 15b 西蒲原郡分水町 (→燕市)
- 15c 十日町市
- 15d 糸魚川市
- 15e 佐渡郡佐和田町 (→佐渡市)

富山県

- 16a 黒部市
- 16b 富山市
- 16c 氷見市
- 16d 砺波市
- 16e 東礪波郡上平村 (→南砺市)

石川県

- 17a 羽咋郡押水町 (→宝達志水町)

福井県

- 18a 坂井郡芦原町 (→あわら市)
- 18b 勝山市
- 18c 南条郡南条町 (→南越前町)
- 18d 敦賀市
- 18e 遠敷郡名田庄村 (→大飯郡おおい町)

山梨県

- 19a 塩山市 (→甲州市)
- 19b 大月市
- 19c 韭崎市
- 19d 南巨摩郡早川町 [奈良田]
- 19e 南巨摩郡身延町

長野県

- 20a 下水内郡栄村
- 20b 長野市
- 20c 小諸市
- 20d 伊那市
- 20e 木曾郡開田村 (→木曾町)

岐阜県

- 21a 高山市
- 21b 大野郡白川村
- 21c 中津川市
- 21d 岐阜市
- 21e 揖斐郡徳山村 (→揖斐川町)

静岡県

- 22a 静岡市
- 22b 榛原郡本川根町 (→川根本町)
- 22c 磐田郡水窪町 (→浜松市)
- 22d 賀茂郡松崎町
- 22e 浜名郡新居町

愛知県

- 23a 北設楽郡設楽町
- 23b 西春日井郡師勝町 (→北名古屋市)
- 23c 岡崎市
- 23d 豊橋市
- 23e 常滑市

三重県

- 24a 安芸郡美里村 (→津市)
- 24b 阿山郡阿山町 (→伊賀市)
- 24c 志摩郡阿児町 (→志摩市)
- 24d 北牟婁郡海山町 (→紀北町)
- 24e 南牟婁郡御浜町

滋賀県

- 25a 長浜市
- 25b 高島郡安曇川町 (→高島市)
- 25c 神崎郡能登川町 (→東近江市)
- 25d 大津市
- 25e 甲賀郡甲賀町 (→甲賀市)

京都府

- 26a 中郡峰山町 (→京丹後市)
- 26b 舞鶴市
- 26c 船井郡丹波町 (→京丹波町)
- 26d 京都市
- 26e 相楽郡山城町

大阪府

- 27a 高槻市
- 27b 大阪市
- 27c 八尾市
- 27d 河内長野市
- 27e 泉佐野市

兵庫県

- 28a 豊岡市
- 28b 朝来郡生野町 (→朝来市)
- 28c 神戸市
- 28d 相生市
- 28e 洲本市

奈良県

- 29a 大和郡山市
- 29b 宇陀郡榛原町 (→宇陀市)
- 29c 五條市
- 29d 吉野郡下北山村
- 29e 吉野郡十津川村

和歌山県

- 30a 那賀郡岩出町・打田町・桃山町
(→岩出市・紀の川市)
- 30b 和歌山市
- 30c 御坊市
- 30d 田辺市
- 30e 新宮市

鳥取県

31a 鳥取市

31b 米子市

31c 日野郡日野町

島根県

32a 仁多郡仁多町 (→奥出雲町)

32b 出雲市

32c 浜田市

32d 隠岐郡西郷町 (→隠岐の島町)

32e 隠岐郡西ノ島町

岡山県

33a 勝田郡勝央町

33b 新見市

33c 岡山市

33d 小田郡矢掛町

33e 笠岡市

広島県

34a 三次市

34b 府中市

34c 広島市

34d 因島市 (→尾道市)

34e 安芸郡倉橋町 (→呉市)

山口県

35a 萩市

35b 大島郡大島町 (→周防大島町)

35c 徳山市 (→周南市)

35d 美祇市

35e 豊浦郡豊北町 (→下関市)

徳島県

36a 鳴門市

36b 阿南市

36c 美馬郡脇町 (→美馬市)

36d 海部郡海南町 (→海陽町)

36e 三好郡東祖谷山村 (→三好市)

香川県

37a 小豆郡土庄町

37b 木田郡三木町

37c 丸亀市

37d 仲多度郡多度津町

37e 観音寺市

愛媛県

38a 越智郡大三島町 (→今治市)

38b 西条市

38c 松山市

38d 大洲市

38e 宇和島市

高知県

39a 室戸市

39b 高知市

39c 高岡郡檜原町

39d 幡多郡三原村

福岡県

40a 北九州市

40b 遠賀郡芦屋町

40c 築上郡新吉富村 (→上毛町)

40d 飯塚市

40e 嘉穂郡稲築町 (→嘉麻市)

40f 福岡市

40g 八女市

佐賀県

41a 東松浦郡鎮西町 (→唐津市)

41b 鳥栖市

41c 佐賀市

41d 武雄市

長崎県

42a 壱岐郡芦辺町 (→壱岐市)

42b 平戸市

42c 長崎市

42d 南松浦郡奈良尾町 (→新上五島町)

熊本県

43a 阿蘇郡阿蘇町 (→阿蘇市)

43b 熊本市

43c 球磨郡錦町

43d 天草郡天草町 (→天草市)

大分県

44a 東国東郡国東町 (→国東市)

44b 宇佐市

44c 大分郡挾間町 (→由布市)

44d 佐伯市

44e 日田郡前津江村 (→日田市)

宮崎県

45a 延岡市

45b 東臼杵郡椎葉村

45c 宮崎市

45d 北諸県郡山田町 (→都城市)

45e 日南市

鹿児島県

46a 出水市

46b 揖宿郡頰娃町

46c 熊毛郡上屋久町

46d 大島郡龍郷町

沖縄県

47a 国頭郡今帰仁村

47b 那覇市

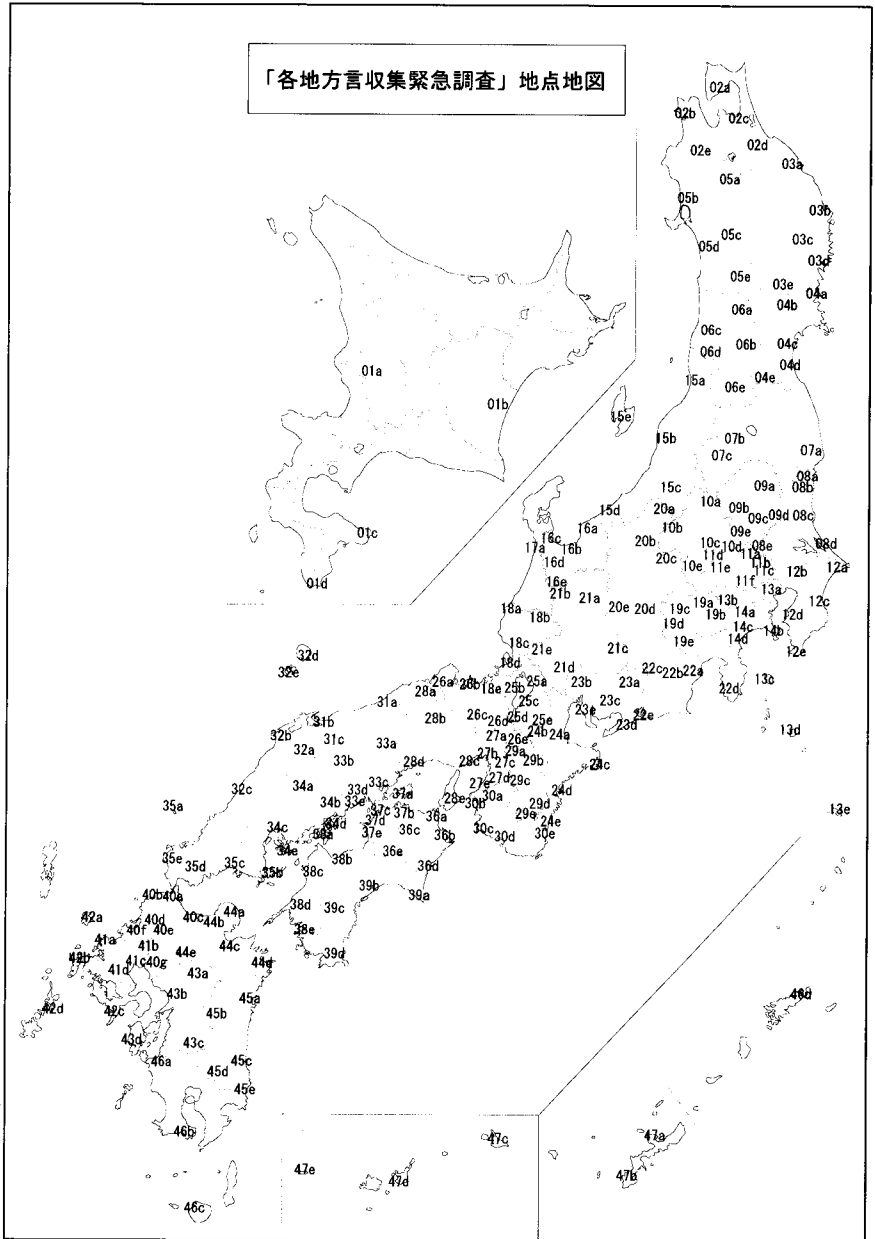
47c 平良市 (→宮古島市)

47d 石垣市

47e 八重山郡与那国町

(2006.09.30. 作成)

「各地方言収集緊急調査」地点地図



(2004. 06. 30. 作成)

各地方言収集緊急調査補助全体計画

56.7.29.

1. 年次計画

年度 計画	52	53	54	55	56	57	58	59	60	備考
第1次	8	8	8							
第2次		8	8	8						
第3次			6	6	6					
第4次				8	8	8				
第5次					10	10	10			
第6次						3	3	3		
第7次							4	4	4	
実施県数	8	16	22	22	24	21	17	7	4	
(千円) 予算額	6,000	12,210	18,150	18,150	18,000	15,750	12,750	5,250	3,000	

2. 調査県一覧

第1次 (S.52~54)	第2次 (S.53~55)	第3次 (S.54~56)	第4次 (S.55~57)	第5次 (S.56~58)	第6次 (S.57~59)	第7次 (S.58~60)
宮城	北海道	青森	岩手	福島	茨城	群馬
秋田	山梨	栃木	山形	埼玉	福井	神奈川
千葉	長野	東京	新潟	富山	鳥取	京都
石川	山口	岐阜	奈良	愛知		兵庫
大阪	香川	静岡	島根	三重		
広島	佐賀	岡山	福岡	滋賀		
高知	大分		長崎	和歌山		
鹿児島	沖縄		熊本	徳島		
				愛媛		
				宮崎		
8県	8県	6県	8県	10県	3県	4県

各地方言収集緊急調査費国庫補助要項

昭和54年 5月 1日
文化庁長官裁定
(昭和62年 6月 1日廃止)

1. 趣旨

全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、これを記録・保存するために要する経費について国が行う補助に関し、必要な事項を定めるものとする。

2. 補助事業者

補助事業者は、都道府県とする。

3. 補助対象事業

補助対象となる事業は、当該都道府県内における各地の方言を調査（録音採集・文字化）する事業とする。

4. 補助対象経費

補助対象となる経費は、次に掲げる経費とし、その明細は別紙のとおりとする。

主たる事業費

調査経費

5. 補助金の額

補助金の額は、補助対象経費の2分の1以内の定額とし、750千円を最高限度額とする。ただし、沖縄県については、別途協議して定めるものとする。

(別紙)

名称	対象経費の区分	項	目	目の細分	説明
各地方言収集緊急調査事業	主たる事業費	各地方言収集調査	報償費	〇〇謝金 〇〇文字化謝金 〇〇協力謝金	調査員、調査補助員等謝金
			旅費	普通旅費 費用弁償 特別旅費	資料
			需用費	消耗品費 印刷製本費 会議費	野帳等文具, 録音用テープ 調査報告用紙 企画委員会打合会
			役務費 使用料及び賃借料 委託料	通信運搬費 会場借上料 器具借上料 〇〇委託費	郵便, 電信電話料等 事業の一部を委託して実施する場合(特に認められた場合に限る)

各地方言収集緊急調査実施要領

昭和52年7月28日
文化庁次長決裁

「各地方言収集緊急調査補助金」の運用に当たっては、文化庁文化財補助金交付規則及び各地方言収集緊急調査補助要項に定めるもののほか、この実施要領によるものとする。

1. 地点の選定

文化庁及び地元方言研究者の意見を聴いて各都道府県（以下「県」という。）教育委員会が選定するものとする。

方言区画的にいくつかの区域に分かれる県においては、県下の方言の状況が概観できるように、それぞれの区域から収録地点を公平に選ばなければならない。また、離島など、特色の認められる方言は、可能な限り収録するよう努めなければならない。

2. 録音内容・話者

ア 老年層話者による会話

収録内容——次の3種類の対話又は会話を収録する。

(1) 老年層の男女各1人による対話、又は、男女を含む3人の会話

(2) 老年層の男性2人の対話、又は、老年層の男性3人の会話

(3) 老年層の女性2人の対話、又は、老年層の女性3人の会話

話者の年齢など——原則として、収録時において60歳以上とし、やむを得ないときは55歳以上でもよい。発音その他の障害がなければ高齢者でも差し支えないが話者相互の年齢が離れすぎてはいけぬ。また、話者相互の立場等もほぼ対等であることを原則とする。

話者の居住歴——その土地で生まれ育ち、よその土地に住んだことのない、あるいは、その期間が短い（在外期間は3年以内が望ましい。）人とする。よその土地から嫁入り、婿入りした人は採らない。ただし、女性については、他に適当な人が求められないときは、近隣地域から嫁入りした人でも、収録地点との間に大きな方言のちがいが認められない場合は差し支えない。

司会者——主たる話者のほかに、話の引き出し役としての司会者が必要である。司会者は、あらかじめ地域・話者に見合った適切な話題を用意し、会話の円滑な進行に努める。司会者の性・年齢は問わない。

話題——自由。一般的には、「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「子どものころの遊び」「仕事（土地の生業・出かせぎなど。）」「家事」「子どもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」などが考えられる。

イ 老年層と若年層との会話

収録内容——老年層の男性と若年層の男性との対話、又は、両者を含む3人の話者の会話を収録する。

話者の年齢など——老年層については前項アに準ずる。若年層については、原則とし

て20～30歳代とする。話者相互の立場などはほぼ対等であることが望ましい。

話者の居住歴——老若ともアに準ずる。

ウ 目上の者と目下の者の会話

収録内容——目上、目下の関係にある老年層の男性2人による対話を収録する。対話の具体的な人物像として、たとえば、僧侶対その檀家に当たる人物、その土地出身の教員又は元教員（校長又は元校長等）対教え子又はその土地の一般的職業（農業、漁業等）に従事している人物（父兄）等が考えられる。

話者の年齢——目上、目下とも60歳以上を原則とする。

話者の居住歴——原則として前項アに準ずる。ただし、目上に当たる者については、在外期間の比較的最長い人物を登場させなくてはならない場合もあるので、アの条件（在外歴3年以内）から若干逸脱してもやむを得ない。

エ 場面設定の会話

目的と方法——自然会話では得にくい各種の表現を得ることを目的として、特定場面を設定し、話者に「演技的対話」をさせる。

場面の内容——各種のあいさつ（訪問・辞去・道でのあいさつ・出産・婚礼・葬式）や依頼・指示・助言・買物・勧誘等の各種場面を設定する。具体的には、文化庁と各県教育委員会が協議して全国共通の数場面を設定し、各場面の録音量は、1～3分程度とする。

話者——場面に応じて老年層の男性どうしの対話、老年層の男性対同女性の対話等を行う。

オ 民話

民話の語り手が存在する地点で収録を行う。

3. 録音機・録音技術

必ず、ステレオで録音することとし、テープは、オープン、カセットのいずれでもよい。この調査は、自然な方言会話を良い録音で収録し、それを後世に残すことが主要な目的であるからその点について十分配慮しなければならない。

録音機の操作は、録音技術に習熟した者が行い、会話の進行中は収録に専念しなければならない。なお、良質の録音を得るための基本的な留意点は次のとおりである。

① 雑音の少ない静かな部屋で録音する。足音、とびらの開閉音、机などへの衝撃音（湯飲みを置く音など）、紙をめくる音などは意外に大きな雑音として録音されるので注意すること。

② 内蔵マイクを使用すると良質の録音を得られないので、必ず外部マイクを接続すること。外部マイクは録音機本体から30cm以上離して配置すること。

③ マイクはなるべく話者の近くに配置し、どの話者の音声も十分な音量で録音できるように配慮する。話者によって声の大きさにかかなりの差があるので、この点に注意してマイクを配置すべきである。

録音の際には、音量メーターの針が十分に振れるよう注意すること。

④ テープを入れ替える際の無録音状態を避けるため録音機は2台使用すること。

⑤ カセットテープは短いもの（往復90分もの又は60分もの）を使用すること。

4. 文字化原稿の作成・表記

文字化用紙は文化庁が定めた様式のものを使用すること。

表記は原則としてカタカナ書きとし、方言の音声的特徴をある程度表しうるよう工夫する。ただし、文字化担当者が国際音声符号又は音素符号を用いた方が便利であると判断した場合はその表記でもよい。文字化の際には、共通語訳を付けるとともに場面、文脈、特徴的音声、方言形の語義・用法などについての注釈をも付ける。

5. 収録地点の概観、話者の経歴・録音内容の記録

収録地点の位置・交通、地勢・行政区画（旧藩領を含む）の変動・戸数・人口・主な産業などを記録する。

また、話者の経歴、録音内容などについては、「録音内容記録票」に録音のつど記入する。

各地方言収集緊急調査の実施について

54.5.10.

1. 調査（方言収録）の年次計画（（ ）は実施要領・文字化の時間数）

- 第1年次
 - ① 老年層の男女各1人による対話, 又は, 男女を含む3人の会話（アの(1)・2時間）
 - ② 老年層の男性2人の対話, 又は, 老年層の男性3人の会話（アの(2)・1時間）
- 第2年次
 - ① 目上の者と目下の者の会話（ウ・2時間）
 - ② 老年層の女性2人の対話, 又は, 老年層の女性3人の会話（アの(3)・1時間）
- 第3年次
 - ① 老年層と若年層との会話（イ・1時間）
 - ② 場面設定の会話（エ・1時間）
 - ③ 民話（オ・1時間）

（注）3年次の「③ 民話」の収録不能のときは、2年次の「目上の者と目下の者の会話」の女性2人の会話を収録

2. 調査報告書の提出部数

- (1) 録音テープ
- ・正……収録した生のテープ 1部
 - ・副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。） 2部
- (2) 文字化原稿
- ・正……手書き原稿 1部
 - ・副……正のコピー 2部

3. 調査報告書の様式等

(1) 録音テープの記録票

○ ○ 県 各地方言収集緊急調査録音記録票	NO. <u>正</u> —○ (副)
1 採録地点 _____	補助要項 の記号
2 採録年月日 _____	
3 話題・時間 A面 _____ ()分 B面 _____ ()分	
4 話者 _____ _____	
5 採録機種 _____	

テープのケース箱に張り付けるようにしてください。

(2) 文字化原稿の表紙

文字化原稿は、各調査地点ごとに、(1)録音内容記録票、(2)収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ）、(3)録音文字化原稿の順で表紙（B4板目紙）を付けて綴ってください。

○	○
○○県（昭和 年度）	
各地方言収集緊急調査 文字化原稿	
（正） 又 は 副	
調査地点	○○○○

(3) 文字化原稿の用紙

- | | |
|------------|------------|
| ① 録音内容記録票 | } (別紙のとおり) |
| ② 方言資料割付用紙 | |
| ③ 方言調査解説用紙 | |

調査実施上の留意事項について

1 調査（方言収録）の年次計画

年次	調査の内容（記号は実施要領による）	採録時間	解説・文字化時間
1 年次	① 老年層の男女各1人による対話、又は、男女を含む3人の会話（ア-(1)）	10	2
	② 老年層の男性2人の対話、又は、老年層の男性3人の会話（ア-(2)）		1
2 年次	① 目上の者と目下の者の会話（男性2人）(ウ)	10	2
	② 老年層の女性2人の対話、又は、老年層の女性3人の会話（ア-(3)）		1
3 年次	① 老年層と若年層との会話（イ）	10	1
	② 場面設定の会話（エ）		1
	③ 民話（オ） （民話が収録できないときは、（注）参照。）		1
計		30	9

（注）

民話の適当な語り手が存在しない場合などのため、収録が不可能な地点は、老年層の男性（目上）と老年層の女性（目下）の2人の対話を収録する。その際の話題は自由であるが、長上者に対する女性の丁寧な表現が収録できるよう配慮していただきたい。

2 調査報告書の提出部数

(1) 録音テープ

正……収録した生のテープ 1部
副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。） 2部

(2) 文字化原稿

正……手書き原稿 1部
副……正のコピー 2部

3 調査報告書の様式等

(1) 録音テープの記録票

<p>○ ○ 県</p> <p style="text-align: center;">各地方言収集緊急調査録音記録票</p> <p>1 採録地点 _____</p> <p>2 採録年月日 _____</p> <p>3 話題・時間 A面 _____ ()分 B面 _____ ()分</p> <p>4 話者 _____ _____ _____</p> <p>5 採録機種 _____</p>	<p>NO.正 _____</p> <p style="text-align: center;">(副) _____</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto;"> <p>補助要項 の記号</p> </div>
---	--

テープのケース箱に張り付けるようにしてください。

(2) 文字化原稿の表紙

文字化原稿は、各調査地点ごとに、(1)録音内容記録票、(2)収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ）、(3)録音文字化原稿の順で表紙（B4板目紙）を付けて綴ってください。

○ ○ 県（昭和 年度）

各地方言収集緊急調査
文字化原稿

（正）
又
は
副

調査地点 ○○○○

(3) 文字化原稿の用紙

- ① 録音内容記録票
 - ② 方言資料割付用紙
 - ③ 方言調査解説用紙
- } (別紙のとおり)

(用紙の印刷発注については、国語課でまとめて行いますので必要部数を御連絡ください。)

4 文字化原稿の記入について (国語研・言語変化研究部でまとめたもの)

- (1) 原稿用紙には、「方言資料割付用紙」と「方言資料解説用紙」の2種類があり、「割付用紙」には録音内容の文字化と標準語訳を、「解説用紙」には収録地点の概観、収録方言の特色、表記法についての説明、文字化内容についての注記などを記入する。
- (2) 原稿用紙への記入は黒インキを用いる。(青インキは不可。)

割付用紙への記入

- ① 割付用紙の第1ページには、タイトル(録音内容を代表するようなもの)、話し手の略号・氏名・性・生年を記入し、一段あけて、録音内容の文字化・標準語訳を記入する。(記入例参照)
- ② 割付用紙の左端の [] には話し手の略号を記入する。
- ③ カウンター付きの録音機を使用した場合は、その番号を所要所に鉛筆で薄く記入しておいていただきたい。
- ④ 文字化の表記について

ア 文字化は文節単位に分ち書きとし、各センテンスの末尾に句点「。」、「」を打つ。読点は文字化部分には原則として付けない。なお、談話文における文の認定は方法的に多くの問題があるが、あくまで便宜的なものとしておく。

イ 改行は話し手が交替した部分で行う。

ウ 文字化は原則として表音的カタカナ表記による。これは、利用者の便宜、文字化作業の能率などを考慮してのことである。ただし、対象とする方言の性格によって、カナ表記では特殊な字母を多数必要とし、かえって煩雑になると判断される場合は、国際音声字母による表記を用いてもよい。徹底した音韻(音素)表記は採らない。これは、音韻レベルの表記では捨象されることのある特徴的な方言音声や、自然会話にしばしば現われる無造作な発音、また、標準語的な発音の混入などを、解釈を加えずに、音声学的に記述しようとする意図による。なお、カナはあくまでも簡略音声表記として使用するわけであるから、それぞれのカナで表わす具体的音声の範囲については、解説(表記法の項)で説明しておいていただきたい。

エ 長音、鼻音、あるいは特徴的な方言音声をカタカナによって表わす場合、原則として次の方式によってほしい。

(ア) 長音には「ー」の印を用いる。

例 オハヨー

(イ) ガ行鼻音は、カ°キ°ク°…のように表わす。

例 カカ°ミ [kaɕami] (鏡)

(ウ) 鼻音化には「ン」(上つき小字のン)を用いる。

例 マンド [mãdo] (窓)

カンゴ [kãgo] (籠) ー九州方言などー

(エ) 合拗音の [kwa] [gwa] はクッ, グゥのように表わす。

例 クワジ [kwaʒi] (火事) ー九州方言などー

(オ) [ʃe] [dʒe] はシェ, ジェのように表わす。

例 シェナカ [ʃenaka] (背中) ー九州方言などー

(カ) [ti] [di] はティ, ディ, [tu] [du] はトゥ, ドゥのように表わす。

例 トウキ [tuki] (月) ー高知方言などー

(キ) [ɸa] [ɸi] [ɸe] …はファ, フィ, フェのように表わす。

例 フェンビ [ɸẽbi] (蛇) ー奥羽方言などー

(ク) [je] の音はイエで表わす。

例 イエダ [jeda] (枝) ー九州方言などー

(ケ) [æ] [kæ] [sæ] …はアエ, カエ, サエのように表す。

例 アカエー [akæ:] (赤い) ー岡山方言などー

(コ) [ɛ] [kɛ] [sɛ] …はエア, ケア, セアのように表わす。

例 アゲア [agɛ] (赤い) ー奥羽方言などー

上に示した以外の特殊な音声の表記は報告者が適宜くふうするか、あるいは、一般的な字母を使用しておき、そのつど注記欄で説明する。

例 キモノ(注)→注 [kçimono]

オ アクセント、文末イントネーションの記述の有無は、その表記法を含め、担当者にまかせる。

カ 発音や録音が不明瞭なため聴き取りが困難な箇所には、~~~~線をつけておく。

例 カステクレア

キ 幾様にも聞こえる場合には仮にそのうちのひとつを~~~~線付きで記述し、他の「聞こえ」を記述欄に記す。

例 カステクレア(注)→注「カステクロエ」または「カステクロヤ」とも聞こえる。

ク 聴き取りが困難な箇所はなるべく話者や現地協力者にあたって確かめる。ただし、最終的には文字化担当者がそのように聞こえると判定した結果を記述する。話者などが主張する(意識する)発言内容と録音された音声の「聞こえ」とが一致しない、すなわち、話者が主張するようにはどうしても聴き取れない場合もありうるが、このような場合には、文字化担当者に「聞こえる音声」を~~~~線付きで記述し、話者などが主張する内容は注記欄に記す。

例 ボカー(注)→注 話者は「ボクワ」と言っていると主張。

ケ 最終的に聴き取り不能の箇所には、~~~~線のみを記しておく。

⑤ 言いよどみ、言いかさなり、言いなおし、笑い声など。

ア 言いよどみは、その末尾に…線を付ける。

例 オフロ サキカ。 タベルノ サキ…。

イ 発言の途中で他の者が口をはさんだ場合には、次のように()を利用し、発言

が重複する部分に___線を付ける。

例 A ヒルママデ マズ スコ[°]トモ オエッカラッテ

(B ンダケンド オレァー) アト スク[°]イ モツテクッカラ

ウ 重複部分が高い場合や、一人の発言が終わらないうちに他の者が話しはじめたような場合には、改行して、重複部分に___線を付ける。

例 A アー バサマ オチャ ダシエ マズ。 チョイット
ナカ[°]ス キター。

B イヤ イソカ[°]スィンダテ キョーノー。

エ 言いかけて、それを言いなおした場合には、言いかけた部分に××××××を付ける。

例 アノー ワズカナ ゴ[°]ゴジュ[°]ー
ゴジュ[°]ーエングラエ[°]ージャツタカナ[°]。

オ 笑い声などは文字化本文中に () に入れて記す。

例 ウレシーナー (笑)

- ⑥ 標準語訳は漢字平がなまじりの表記とし、それぞれの文節に対応する逐語訳を心がける。逐語訳であるために全体の文脈がつかみがないと判断される場合には、注記欄でさらに説明する。文末詞や待遇表現などは訳のつけかたがむずかしいが、標準語訳はあくまでも内容理解の手がかりと考え、訳しかたが問題となるような箇所については、なるべく詳しい注記を付けるよう心がける。

⑦ 注記について

ア 「割付用紙」には注記番号のみを () に入れて記し、注記内容は「解説用紙」に記入する。

イ 注記は、音声の特徴、基本的な語形（無造作な発音により語形が崩れている場合など）、方言形の意味・用法・語源、民俗的事象（話題にのぼった民具・行事など）、文脈のねじれ、標準語訳についての補足、話し手の動作（うなずき・手ぶりなど）などについて行う。とくに、方言形の意味・用法については、できるだけ多くの箇所に注を付けてほしい。

解説用紙への記入

解説用紙には次の事項を記入する。

A 収録地点とその方言について

1 地点名

2 収録地点の概観(位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・主な産業など)

3 収録した方言の特色

① 方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

② 音韻上の特色(モーラ表・音声の特徴)

③ 文法上の特色(要点のみ。箇条書き)

4 その他(地点選定の理由、協力者の氏名、協力内容など)

B 表記について

それぞれの符号(カナ・音声符号)で表わす具体音声の範囲、特殊な表記についての説明、判断に迷った微妙な音声の処理原則など。

C 収録内容の概説，注記など

- 1 タイトル（「割付用紙」の冒頭に記したもの）
- 2 録音年月日
- 3 録音場所
- 4 話し手の氏名・性・生年・職歴・役職歴・居住歴・言語的特徴（方言保有度・話し好きかどうか・早口か等）など。（話し手の性・生年は割付用紙にも記入）
- 5 録音環境（同席者・話の進行状況・場の雰囲気など）

なお，A，B，Cはそれぞれページを改めて記入する。Cはタイトルが変わる際に改ページを行う。

「全国方言談話データベース」について

「各地方言収集緊急調査」報告資料は、方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに、急速に失われつつある各地の伝統的方言を、文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものである。

いくつかの教育委員会が、この資料の一部を用いて、独自に報告書を刊行している。ただし、市販されているわけではないので、一般には入手しにくい。また、その形態は印刷物であり、電子化された文字化テキストを備えたものはない。録音テープを添付しているものも少数である。その他の資料については、未公開であった。

その後、「各地方言収集緊急調査」報告資料は、文化庁から国立国語研究所に移管された。国立国語研究所では、受け継いだ録音テープ・文字化原稿を有効に利用するために、膨大な報告資料を整備して、方言談話の大規模なデータベースを作成し、公開するという計画を開始した。

平成8(1996)～12(2000)年度には、一般研究課題「方言録音文字化資料に関する研究」において、報告資料の一部を用いたケーススタディ的研究を行った。担当研究室は、情報資料研究部第二研究室、担当者は、井上文子であった。所外研究委員として、真田信治氏（大阪大学大学院文学研究科，元国立国語研究所）に委嘱を行った。

平成13(2001)～17(2005)年度は、「日本語情報資源の形成と共有のための基盤研究」というプロジェクトの一環として、全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んだ。担当部門・領域は、情報資料部門第二領域、担当者は、井上文子（情報資料部門第一領域）であった。所外研究委員として、佐藤亮一氏（元東京女子大学現代文化学部，元国立国語研究所），江川清氏（広島国際大学人間環境学部，元国立国語研究所），田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部），真田信治氏（大阪大学大学院文学研究科，元国立国語研究所）に委嘱を行った。

平成18(2006)年度からは、「日本語に関する蓄積資料の整備」というプロジェクトの一環として、全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んでいる。担当部門は、情報資料部門資料整備グループ、担当者は、井上文子（情報資料

部門資料整備グループ)である。所外研究委員として、佐藤亮一氏(元東京女子大学現代文化学部, 元国立国語研究所), 江川清氏(広島国際大学人間環境学部, 元国立国語研究所), 田原広史氏(大阪樟蔭女子大学学芸学部), 真田信治氏(大阪大学大学院文学研究科, 元国立国語研究所)に委嘱を行っている。

その一方で、平成9(1997)~13(2001)年度には、作成データベース名「全国方言談話資料データベース」、作成委員会名「全国方言談話資料データベース作成委員会」として、また、平成14(2002)~18(2006)年度には、作成データベース名「全国方言談話データベース」、作成委員会名「全国方言談話データベース作成委員会」として、科学研究費補助金研究成果公開促進費(データベース)の交付を受け、音声資料、文字化資料を電子化する作業を進めた。作成委員長は、佐藤亮一氏(元東京女子大学現代文化学部, 元国立国語研究所)であり、「各地方言収集緊急調査」当時、国立国語研究所言語変化研究部第一研究室室長として、調査の計画段階から指導・助言にあたり、調査および報告資料の全体像を把握していた。作成委員としては、江川清氏(広島国際大学人間環境学部, 元国立国語研究所), 田原広史氏(大阪樟蔭女子大学学芸学部), 井上文字子(国立国語研究所情報資料部門資料整備グループ)が担当した。平成13(2001)年度から、「全国方言談話データベース」の公開を開始している。

なお、このデータベースの作成事業で受けた、科学研究費研究成果公開促進費(データベース)は下記のとおりである。

年度	課題番号	補助金交付額
平成9年度	57	1,800,000円
平成10年度	64	1,800,000円
平成11年度	501027	1,800,000円
平成12年度	128032	2,800,000円
平成13年度	138031	4,600,000円
平成14年度	148034	5,200,000円
平成15年度	158043	6,100,000円
平成16年度	168037	7,000,000円
平成17年度	178036	6,500,000円
平成18年度	188023	6,600,000円

「各地方言収集緊急調査」報告資料については、日本全国の47都道府県でそれぞれ5地点程度、計200地点あまりにおける、約4000時間にも及ぶ方言談話の録音テープと、その一部を文字化した原稿が残されている。昭和52(1977)～60(1985)年度当時の老年層話者の自然談話が中心であるので、現在においては急速に失われつつある伝統的方言が比較的よく残されているものであると考えられる。

これらの報告資料をすべてデータベース化するのが理想ではあるが、膨大な資料を一気にデータベース化するのは困難であるので、段階的に公開を行うことにする。

今回刊行する『全国方言談話データベース』では、まず、第一段階として、各都道府県につき1地点、計47地点の老年層男女の自然会話を選び、その地の伝統的方言がもっともよく現れていると思われる部分を30～50分程度データベース化した。

データベース化のためには、次のような作業が必要であった。

- ①録音テープには、正が1本、副が2本ある。正は収録したオリジナルのテープ、副は正より文字化部分のみを編集したもので、いずれも60分または90分のカセットテープである。正をデジタル化し、複製を作成する。
- ②文字化原稿には、正が1部、副が2部ある。正は、文化庁指定のB4判の用紙を使用した手書き、副は正のコピーである。正の文字化、共通語訳をパソコンにテキストデータとして入力する。この時点では、できる限り正の文字化原稿に忠実に行う。
- ③文字化原稿の収録地点、話者、談話内容、状況記録などの確認をし、その文字化原稿に対応する録音テープの録音状態などの確認を行う。
- ④今回刊行するものでは、老年層男女の自然談話のうち、各都道府県につき1地点30～50分をめやすとして、データベース化部分に選定する。
- ⑤データベース化する部分の、文字化テキストと、それに対応するデジタル化した録音音声を抽出する。
- ⑥音声データをもとに、文字データの明らかな誤りなどを修正する。原則としては原資料の文字化原稿に従って行いが、見やすさを優先させたり、全体の

統一を図ったりするため、必要に応じて変更を加える。この作業は、その地域の方言を専門とする研究者に依頼する。

- ⑦記号の種類と使い方、句読点、分かち書きなどについて、凡例を作成する。『全国方言談話データベース』における表記・形式は、見やすさや全体の統一のため、必要に応じて変更を加えているので、「各地方言収集緊急調査」当時のマニュアルに記載されているものとは部分的に違いが生じている。
- ⑧文字化データに沿う形で、注記を整える。原則としては原資料に従って行うが、場合に応じて最低限の変更を加える。
- ⑨収録地点の概観、方言の特色などの解説については、原則としては原資料に従って行うが、全体の統一を図るため、表記・章立てなどについて、最低限の変更を加える。
- ⑩調査の概要、収録した談話内容・地点・場所・日時などの情報、話者の性別・年齢・職業などの情報をまとめる。
- ⑪校正を行った文字データをもとに、文字化と共通語訳を2段組に对照させたファイルを作成する。さらに、それをpdfファイルにする。
- ⑫文字化と共通語訳を2段組に对照させたファイルを用いて、文字化のtextファイル、共通語訳のtextファイルを作成する。
- ⑬音声データは、サンプリング周波数22.050kHz、量子化ビット数16bitでデジタル化して、音声ファイル（wave形式）を作成する。そして、それを、文字化と共通語訳を2段組に对照させたページに従って、ページ単位に切り、文字化・共通語訳のpdfファイルにリンクさせる。
- ⑭CD-ROMは、データベースソフトを利用して、文字化・共通語訳の文字列による検索、話者による検索などができるようにする。
- ⑮CDには、トラックに区切った談話全体の音声を収録する。
- ⑯録音テープ・文字化原稿が所在不明の地点については、必要に応じて、現地へ赴き、収録担当者・教育委員会・図書館・関係者の協力を仰ぎながら、入手に努める。
- ⑰「各地方言収集緊急調査」の話者・収録担当者・文字化担当者・解説担当者などには、可能な限り、文書でデータ公開の通知と確認を行う。
- ⑱作成過程において、ある程度のデータが蓄積された段階で、CD-ROM、ま

たは、音声はカセットテープ・MD、文字はFDを媒体とした試作版を作成し、モニターに依頼して意見・要望を求め、データベースに反映させる。

⑩検索情報の整備、検索マニュアル、利用規程などの作成を行う。

『全国方言談話データベース』全20巻の各巻は、冊子、CD-ROM、CDから成り、方言談話の音声（waveファイル）、文字化（カタカナ表記、textファイル）、共通語訳（漢字かなまじり表記、textファイル）、文字化・共通語訳を2段組に対照させたもの（冊子、pdf）などを収録している。従来にはあまりなかった、音声、文字化、共通語訳の電子化データを備えているので、研究や教育のために加工して、自由に検索することができるという特徴がある。

刊行にあたっては、国立国語研究所における『全国方言談話データベース』刊行物検討委員会で最終的なチェックを行った。委員長として、熊谷康雄（情報資料部門）、委員として、熊谷智子（研究開発部門言語生活グループ）、三井はるみ（研究開発部門言語問題グループ）、井上優（日本語教育基盤情報センター用例用法グループ）、井上文子（情報資料部門資料整備グループ）が担当した。

刊行計画は下記のとおりである。

書名：『国立国語研究所資料集 13-1～20 全国方言談話データベース 日本の
ふるさとことば集成』 全20巻

各巻：冊子 1冊 A5判 約250ページ，CD-ROM1枚，CD1枚

巻数	巻名	ISBN
第1巻	北海道・青森	978-4-336-04361-0
第2巻	岩手・秋田	4-336-04362-0
第3巻	宮城・山形・福島	4-336-04363-9
第4巻	茨城・栃木	4-336-04364-7
第5巻	埼玉・千葉	4-336-04365-5
第6巻	東京・神奈川	4-336-04366-3
第7巻	群馬・新潟	4-336-04367-1
第8巻	長野・山梨・静岡	4-336-04368-X
第9巻	岐阜・愛知・三重	4-336-04369-8
第10巻	富山・石川・福井	4-336-04370-1
第11巻	京都・滋賀	4-336-04371-X
第12巻	奈良・和歌山	4-336-04372-8
第13巻	大阪・兵庫	4-336-04373-6
第14巻	鳥取・島根・岡山	978-4-336-04374-0
第15巻	広島・山口	4-336-04375-2
第16巻	香川・徳島	4-336-04376-0
第17巻	愛媛・高知	4-336-04377-9
第18巻	福岡・大分・宮崎	978-4-336-04378-8
第19巻	佐賀・長崎・熊本	978-4-336-04379-5
第20巻	鹿児島・沖縄	978-4-336-04380-1

国立国語研究所資料集 13-19

全国方言談話データベース
日本のふるさとことば集成

第19巻 佐賀・長崎・熊本

2008年6月30日 発行

編集：独立行政法人国立国語研究所

〒190-8561

東京都立川市緑町10-2

TEL：042-540-4300（代表）

FAX：042-540-4339

URL：<http://www.kokken.go.jp>

発行：国書刊行会

〒174-0056

東京都板橋区志村1-13-15

TEL：03-5970-7421（代表）

FAX：03-5970-7427（営業）

URL：<http://www.kokusho.co.jp>

印刷：エーヴィスシステムズ

製本：青木製本